

自治制ニ關スル演說

(明治二十一年十二月十日法制局員ノ爲)

井 上 毅

自治ト云フコトガ社會ノ問題トナリ、其レニ就イテ私ガ其ノ自治ヲ駁撃スル巨魁ダト云フヤ
 ウナコトデ、從テ新聞紙上ノ反駁ノ目的トナツテ、其レニ就イテハ段々座中ノ諸君ノ中ニモ
 忠告シテ下サツタ向モアリマスカラ、私モ一度諸君ニ向ツテ委シイ話シヲ申シ、私ノ本意ヲ
 充分ニ表白シタイト思ツテ態々來會ヲ願ツタ譯デ有リマス。一應私ノ意見ヲ申シマスガドウ
 カ遠慮ナシニ批難シテ下サルヤウニ願ヒマス。

私ハ會テ一昨年ノ頃、「モツセ氏」ト自治ト云フコトニ就イテ論ジタコトガアリマス。其ノ時、
 私ハ「自治ノ朋友デ有ツテ自治ノ敵デハ無イ」ト云フコトヲ言ツタガ、其ノ一言ヲ尙ホ分析シテ
 見ルト、私ハ自治ノ賛成者ダケレドモ、制限自治ノ論者デアル。委シク言ヘバ私ハ町村自治ノ贊
 成者デアツテ、而シテ府縣自治ノ反對者デアルト云フコトデアル。先ヅ私ガ町村自治ノ賛成者ノ

位置ヲ取ルコトヲ好ムノ理由ヲ申シ上ゲマヤウ。

町村自治ノコトニ係リテハ、明治十一年ニ町村編制法ト云フ法律ガ出マシタ。コレハ有名ナ法
 律デ、始メテ町村自治ノ方向ヲ取ラレタモノデアル。其時分ハ私モ町村制ノ起草ノ手傳ヲシタ一
 人デアリマシタ。其ノ時分カラ段々取り調べタコトモアリマスカラ、其材料ヲ記憶シテ居ルダケ
 オ話シ申シマス。

町村ノ自治タルニ就イテハ御國ニ於キマシテハ歷々トシテ古來カラノ慣習ガ有ル。而シテ其ノ
 慣習ニ就イテハ舊幕ノ時カラ立派ナ證據ガ有ル。舊幕ノ時ハ町村ノ自治ヲ認メテ能ク養ツタ時代
 デ有ル。舊幕ノ時ノ町村ノ自治タル證據ヲ申シマスト、

第一ニハ舊幕ノ制度デハ庄屋又ハ名主、即チ今言フト戸長ヲ人民方ノモノニ見タモノデア
 ル。舊幕ノ時分ニ封建ノ大名ノ國替、所替ト唱ヘテ、甲ノ國カラ乙ノ國ニ國替ヲシ、又ハ甲ノ領
 地カラ乙ノ領地ニ所替ヲ言ヒ付ケラレタコトガ有ル。其時ニ殿様ヅキノ方ノ家來ハ、輕イトコロ
 ノ小者仲間ニ至ルマデ、殿様ニツイテ甲ノ場所カラ乙ノ場所ヘ移ツタ。然ルニ庄屋名主ハ決シテ
 移ラナイ。且舊幕時分ノ庄屋名主ハ(一般デハ無ケレドモ)或ル地方ニ於テハ、全ク公選デアツ
 タ。即チ上方及關東デハ多クハ公選デ有ツタ。上方デハ今ノ滋賀縣、元ノ彦根領デハ庄屋ノ公選
 ノコトヲ諺ニタケノツツト言ツタ。其ノ譯ハ入レ札ヲ紙ニ書イテ捻ツテ竹ノ筒ニ入レテ、公選ヲ

行ツタト云フコトデ有ル。右言フ通り、庄屋ハ人民方ノモノデアツタ。且多クハコレヲ公選ニシタコトハ、町村ノ自治タル明ラカナ證據デ有ル。

第二ニハ租税ノ配賦法竝ニ納メ方ニ就イテモ町村ノ自治タル證據ガ有ル。武家ノ時ノ租税ノ納メ方ハタカモリト言ツテ、此村ハ高イクラト盛リツケテ、サウシテ村ノ仲間デ小前ノ仁助又ハ八兵衛ニ一筆ゴトニ割リオツタ。故ニ藏納ヲスルノハ一人別上納ヲセズ、村ヲ纏メテ千石ノ村ナラ千石ニ付テ、一ツニ纏メテ庄屋名主或ハ百姓總代ガ納メ、總代トナツテ藏方ニ藏納ヲスル、藏方デハ納メ總代ニ向ツテ受ケ取ツタト印ヲツク、ソコデ始メテ藏納ガ濟ンデ。即チ村ヲ一個人トシテ配賦シ、マタ受ケ取りオツタ。コレハ村ノ自治ノ第二ノ證據デアル。

第三ニハ今度ノ町村制ノ所謂町村條例ト云フモノデ、村ノ約束、規則ガ有ツタ。コレハ山林ノコトナドニ行ハレテ山林盜伐者ニ向ツテハ村ミヅカラ罰シタ。其制裁處分ハ重モニツキアヒラ止メルト云フコトデ有ツタ。私ハ肥後ダガ、私ノ方デハツキアヒラ止メルト云フコトデ有ツタ。私ハ肥後ダガ、私ノ方デハツキアヒラ止メルト云フコトヲかなべらくわすト言ヒマシタ。かなべらくわすトハドウイフコトカ解釋サヘ分ラヌ位ダガ、全ク村ノ法ガ有ツタ、又制裁處分ガ有ツタト云フ證據デ有ル。

コレニ就イテ一ツ話シガ有リマスガ、一昨年ノ秋ノ頃、私ハ上州地方ヲ歩キマシタ時分ニ聞キマシタガ、上州沼田在ノ棚橋村ト云フ利根川端ノ村ノ上ニ廣イ野原ガアルガ、其レハ名高イ所デ

アル。ナゼ名高イカト云フト、棚橋村デ火事ガ有ツタ時ニハ出火ノ火元ヲ探シ出シテ、其ノ火元ノ人ヲ廣イ野原ニ放シテ三日三夜握リ飯ヲ與ヘ、宅ニ歸ルコトヲ許サヌト云フノガ出火者ヲ懲ス罰デアルト云フ。コレハ野蠻ノコトノヤウダガ、村法ノ行ハレタ自治ノ第三ノ證據デアリマス。

其ノ他村ニ倒死者ガアル、或ハ村ノ人民ニ退轉者(欠落人)ガアルト云フトキニハ、官デハ村ノ落度トシテ村デ始末ヲ着ケナケレバナラヌト云フ責任ヲ持タセテアツタ。其ノコトハ寛永年間ニ舊幕ノ達ニナツテ居ル五人組一札帳ト云フモノガアツテ、其レニ委シク出テ居リマス。皆サンモ御覽ニナツタデ有リマセウガ、右五人組一札帳ノコトモ村ノ自治ヲ證據ダテル第四ノ材料デアリマス。

右ノ通り武家封建ノ制度デハ村ヲ一個人ト見テ、其ノ制度上ノ一個人タル村ヲ相手ニ政事ヲ施シタ。コレハ武家ノ簡潔ナル政事カラ原因シタノデ、今日ノ如ク自治ノ學理論カラ起ツタコトデハナイガ、舊幕ノ時カラ自然ニ村ノ自治ヲ養ツテ發達セシメタニ違ヒ無イ。而シテ村ノ自治ヲ發達セシメタコトガ能ク出來テ居ツタ。諸君モ御存ジノ通り、徳川家三百年武家ノ政事ニ於テ民政ト云フコトハ能ク行キ届イテ居ツタガ、村ノ自治ハ舊幕ノ時ノ譽レアル民政ノ一ツデアル。

遡ツテ王代ノ時ハ如何デアルト云フト、能クハ分ラナイガ、孝徳天皇ノ御宇ノ改革ニ五十戸ヲ以テ一里トセヨト云フコトガアルガ、五十戸或ハ何百戸ヲ以テ一村トスルト云フヤウナ畫一ノコ

トハ自治ニ反スルモノデ有ルカラコレハ自治ヲタタキコハシタモノト想像セラレル。

諸歐羅巴人が昔ハ町村ノ自治ハ歐羅巴ノ文明國ノ結果ダト思ツテ居リマシタガ、英吉利人が印度ヲ平ラゲテ調べテ見ルト印度ニ全ク自治ガ有ル。印度ニ自治ガ有ツテ見レバ、ハテコレハ歐羅巴人ダケノ產物デナイ、印度人種ト歐羅巴人種ハ先祖ガ同一ノアリヤン人種デ有ルカラ、自治ハアリヤン人種ノ名産デ有ルト言ツタガコレハ誤リデ、實ハ決シテアリヤン人種ノ產物デナイ。日本ニモ歴々存シテ居ツタニ相違ナイ。又今モ存シテ居ルニ相違ナイ。其ノ他東洋各國ニモ存在シテ居ルト云フコトガ想像サレル。

斯ク申シテ見レバ町村ノ自治ト云フコトハ政事家ノ拵ヘタモノデ無イ、自然ノモノデアアル、固有ノモノデアアルト云フ論決ヲ與ヘネバナラヌ。英吉利人ハ町村ノ自治ハ開關以來ノモノデアアル。何レノ國デモ政府ハ改革ヲ經タモノデ有ルガ、町村ノ自治ニ至ツテハ假令ヒ三戸ト雖モ開關以來成立シタモノデ有ルト言ヒマシタガ、果シテ然ラム。故ニ町村ノ自治ハ破ルコトノ出來ナイモノ、之ヲ養ツテ行カナケレバナラヌモノデ有ル。

コレハ明治十一年以來私ノ調べテ心得テ居ルコトデ有ル故ニ、私ハ町村自治ノ贊成者デアツテ反對者デ無イ。私自ラ町村自治ノ朋友デアルト云フ名譽ヲ貰ハナケレバナラヌ。

サテコレカラ話ガ替ツテ遡ツテ府縣ノ自治ノコトヲ論ジマセウ。郡ノ自治ノコトモ有リマスガ

今晚ハ取り除キマシテ府縣ノ自治ノコトヲ申シマセウ。

府縣ノ自治ノコトニ就テハ、町村ノ自治トハ全ク替リマス。町村ニ於ケル自治ノ證據ノ如キハ府縣ニ在テハ封建ノ藩制ノ外ハ全クナイ。何レノ國ニ於テモ町村自治ノ無イ國ハ無イ、併シナガラ町村ヨリ上ニ上ボリテモ、郡又ハ府縣又ハ州ト云フ地方ノ區畫ニ至ツテハ元來ノ性質ガ一般行政ノ區畫デアアル故ニ、或ハ自治ニシタノモアリ、シナイノモ有ル。其ノ一ヲ舉レバ英吉利ノカウンチーモ此ノ間マデ自治デ無イ、獨逸デハ縣ガ自治デ無イ、佛蘭西デハ郡ガ自治デ無イ、何レノ國ニ於テモ畫一デ無イ、且何レノ國ノ學者ト雖モ州又ハ郡ヲ自治ニシナケレバ自治ガ貫ケヌト論ジタ學者ハ私ガ聞イタ所デハ無イ。其レハ有ラウヤウハ無イ。封建制度ノ國或ハ藩ヲ除キテ府縣ノ自治ハ自然ノモノ、固有ノモノト云フベキ開關以來ノ證據ト云フモノヲ見出サナイ。ソレ故ニ府縣ノ自治ノコトハ學理論ノ外ニ在ル。府縣ノ自治ノコトハ私ハ理論ニ束縛サレナイ。既ニ學理論ニ束縛サレナイナラバ、單純ニ歷史上ノ沿革ト其ノ時ノ宜シキヲ見ナケレバナラヌ。ソコデ私ハ先ツ歷史上ノ沿革ヲ申シマセウ。

何レノ國ト雖モ、歷史上デハ專制ノ政治ガ一變シテ封建トナリ、封建ガ一變シテ立憲ノ國トナリ、何レモ同一轍ニナツテ居リマスガ、封建ガ立憲トナルニハ二ツノ有様ヲ以テ移行行ツテ居リマス。一ハ廢藩置縣ヲシテ、封建ノ有様ヲタ、キコハシテ而シテ郡縣ノ制度ニシタト云フ變革上

ヨリ來テ居ル。二ニハ廢藩置縣ノ變革ヲ行ハズニ封建ヲアヂヨクハガシテ、封建大名ノ大キイノハ或ハ聯邦トナリ、其ノ小サイノハ貴族トナツテ、中古ノ有様ヲ一變シテ當時ノ有様ニ移ツテ來タ。

第一ノ仕方ニ於テ廢藩置縣トシテ封建ヲヤメタ國ハ御國ガ則チ其ノ通りデアアル。マタ一緒ニハ言ヘナイガ、強ヒテ其ノ例ヲ求メタラ佛蘭西ガ廢藩置縣ヲシテ居ル。第二ノ仕方ニ於テ獨逸ノ如ク封建ノ世ガ變ジテ今日ノ局面トナルトキニスラリトハガシタヤウニ移ツテ來タノハ、中古ノ州ノ地理上ノ區畫ガ其ノマ、存シテ變ラナイ、既ニ州ノ地理上ノ區畫ガ存シテ居ルトキハ州ニ向ツテ自治ノ制ヲ施スハ歷史上ヨリ來ル必要又ハ便宜デアラウ。而シテ町村ト同ジク幾分カ天然ニ基ヅクモノト考ヘラレル。之ニ反シテ廢藩置縣ヲ以テ封建ノ制度ヲ一變シタ國ニ於テハ、中古ノ藩又ハ國ノ區畫及制度ハ全ク廢滅ニ歸シ、而シテ郡縣ハ即チ一般行政ノ區畫ニ成立タモノニ相違ナイ。然ルニ此ノ郡縣ニ強テ自治制ヲ行フハ人作ノ自治ニシテ天然ノ自治デハナイ。

サルカラニハ我國ハ果シテ獨逸ト歷史上ノ同一ノ有様ヲタモツモノデ有ラウカ、却テ反對ノ結果ヲ招カヌカ、或ハ十五年前ニ行ツタ廢藩置縣ノ反動ヲ來シハセヌカ、其ノ反動ガ來ツタラ地方ノ人民ノ爲メニモ幸福ヲ爲スドコロデ有ラウカ、國ノ全局ノ爲メニ何等ノ幸福ヲ得ルデ有ラウカ又ハ失フデ有ラウカ、コレハ我々ニ深ク考ヘナケレバナラヌ義務ガアル。

故ニ私ハ府縣ノ自治體即チ府縣ノ公選ノ集議員ニ向ツテ、議決權ノ外ニ施行權ヲ與ヘルト云フコトハ容易ナラヌコト、思ツテ、初メニシテ疑ヒ、終リニ私ダケノ判決ヲ取ツタノデ有リマス。

右ノ一段ハ歷史上ノ沿革ヲ申シマシタガ、既ニ歷史上ノ沿革斯クノ如シ。時ノ宜シキ如何。御國ノ廢藩置縣ノ美舉ト云フモノハ實ニ非常ノ英斷ニ出デテ、非常ノ美果ヲ結ンダモノデ、兵制ノ改革、租稅ノ改革、其ノ他教育ナリ、何ナリ、廢藩置縣ガ無ケレバ今日ノ進歩ヲ見ルコトハ出來ナイ、廢藩置縣ハ美舉デアアル。斯クノ如キ或大ナ功績ヲ現ハシタモノデアアル。倍凡ソ物ノ道理トシテ歐羅巴人ノ諺ニ「メダイユ」ノ裏ヲ見ヨト云フコトガ有ルガ、此ノ諺ノ通り一得一失ハ物ノ免レザル數デ有ル。廢藩置縣ニ向ツテ其ノ裏カラナガメテ見ルト、大名華族ハ東京ニ住居シテ元ノ舊藩ノ跡モ無クナツタカト云ヘバ、否、舊藩ノ時ノ遺物ハ其儘存在シテ居ル。各地方ノ廢藩置縣ノ餘物ハ水ガ變ジテ瓦斯ニナツテ、イツカ蒸發シヤウト云フカタチヲ爲シテ居ルト云フコトヲ占ハナケレバナラヌ。福澤先生ノ所謂地方ノ小政事家ガ蟻ノ如ク集マリ、鼎ノ如ク沸クハ免ルベカラザルモノデ、コレハ歷史上ノ沿革カラ來ルモノデ有ル。而シテ其輩ノ腦髓ハ地方ノアドミニストレシヨント中央ノポリチツクトヲ混雜シテ居ル。今日我が國ニ於テハ憲法ヲ發セラレ、國會ヲ開カレムトスル無前無後ノコトデ有ルカラ、此ノ時ニ當ツテ人々ノ腦髓ニ政事のノ感覺ヲ起サヌト云フコトハ出來ナイ。之ヲ起スハ、人類自然ノ有様カラ來ルコトデ有ル。ソコデ所謂地方ノ

小政事家が集マツテアドミニストレーションノ場所ヲ假リテボリチツクヲ混雜シテ居ル。其ノ有様ガ府縣會デヤカマシイト云フコトノ爲メ、此ニ於テ人アツテ一ツノ考ヘヲ持ツデ有ラウ。曰ク地方ノ事務ヲ地方ノ人ミヅカラニ任セテ、地方ノ人ノ我ガ物ニシテ充分ニ利益ヲ圖ルノ地ヲ與ヘタラ、其ノ人等ハ是ニ於テ満足スルデ有ラウ。而シテ自ヅカラ平和着實ノ事務ヲ執リ、從ツテ中央ノボリチツクモ平和ノ影響ヲ得ルデ有ラウ云々ト。此ノ考ヘハ私モ初ハ或ハ然ラムト考ヘマシタガ、熟々歴史上ノ沿革竝ニ現在ノ有様ニ照シテ未來ヲ觀察スレバ此ノ考ヘハ夢デ有ルト云フコトヲ判斷シタ。

廢藩置縣ノ後イクラカノ瓦斯ガ殘ツテ、地方ノアドミニストレーションニ困難ヲ與ヘルハ當リ前デ、如何ナル政事家デモ之ヲ絶エテ無カラシムル名策名案ハ無イ筈デアアル。若シ其ノ瓦斯ニ向ツテ火ヲ與ヘタナラバ穩カニナルダラウト云フコトハ夢ノ考ヘニ相違ナイ。餘所ノ國ノ事ハ例ニナラヌケレド、佛蘭西ハ廢藩置縣ニナツテ封建ノ制度ヲ改革シタ國デ有ルガ、英國ノ制度ニ倣フコトヲ好ムモノハ佛蘭西人ノ一般ノ傾キデ有ルケレドモ、然シ府縣ニ向ツテハ自治ヲ與ヘルコトハ出來ナイ。與ヘタラ大變革ノ時ノ反動ヲ來ス故ニヨウシナイノデ有ル。私ハ何モ佛蘭西ノ例ヲ取ルノデハ無イガ、御國ノ歴史上ノ沿革ハ獨逸ト異ナルコト、時ノ宜シキモ、獨逸ト異ナルコトヲ信ズルコトガ出來ル。

若シ果シテ私ノ鑑察想像ヲシテ誤ラザラシメバ、府縣自治ハ地方人民ニ向ツテ幸福ヲ與ヘルノハ其ノ名デアツテ、却ツテ地方人民ノ爲メニ不利益ヲ與ヘルノハ其ノ實デ有ラウ。尙言ヘバ府縣ノ自治體會議場ハ、取りモ直サズ國會議事堂ノ有様ヲ寫シ、ボリチツクノ學校トナツテ黨派ノ争ヒ紛雜ハ絶エナイコトニナルデ有ラウ。政事紛議ノ修羅ノ衢トナルデ有ラウ。或ハ尙甚シク言ヘバ、三年カ五年ノ後ニハ各縣皆青森縣トナツテ、知事ハ辭職シテ貫ヒタイト云フコトヲ言フカモ知ラヌ。

府縣ニ向ツテ府縣ノ自治體ニ議決ノ權ノミナラズ施行ノ權ヲモ與ヘルナラ、イツソ初メヨリ知事ヲ公選ニスルガヨイ。獨逸デハ自治體ノ郡長又ハ州長ヲ公選ニセズ、中央政府ヨリ派出シタ郡長デ命令ガ行ハル、ガ、獨逸ノ政府ノ四隣ニ戰ヒ勝チ人民ニ向ツテ令セズシテ行ハレ、言ハズシテ信ゼラレル有様ト比較スルコトハ難イコトデアアル。獨逸ノ州長ガ油ノ中ニ一滴デ飛ビ込ンデ威令ノ行ハレルハ抑々故アルコトデ有ル。今日我が國各縣ノ有様ヲ見タマヘ、ナカナカ獨逸ト同一ニハ參ラナイ。地方ノ集議體ニ充分ノ施行權ヲ與ヘタラ青森縣ノ現況ヲ一變シテ獨逸同様縣知事ノ命令ニ服従スルデ有ラウト云フハ、私ハコレヲ夢ノ考デアラウト云フノデアアル。

ツマリ私ノ考ヘモ地方ノ幸福ヲ圖リ、御國ノ將來ニ就イテ廢藩置縣ノ美果ヲ全クシテ、國ノ昌榮ヲ望ムニアルノデ、中央政府ノ爲ニ分權ヲ嫌フト云フヤウナ卑シイ心デ無イカラ、府縣自治ト

云フコトハ輿論ノ希望ニナツテ居ルケレドモ、私ハ輿論ノ希望ニ逆ツテ私ノ意見ヲ言ハナケレバナラヌ。

斯ウイフ問題ニ向ツテハ往々世ニ流傳スル所ノモノハ其ノ人ノ本意ヲ誤ツテ人カラ人ニ傳ヘテ或ハ奇怪ナル論說ノヤウニモ聞エルデ有ラウガ、私モ其レ等ヲ心痛ニ存ジ、且諸君ハ學問上ノ御互ノ交際ノ關係ガ有ルカラ、此ノ重要ノ問題ニ就イテ私ダケノ意見ヲ充分ニ述ベテ、又諸君ヨリ充分ノ批評ヲ受クルハ私ノ爲ニ幸ヒナルコトデアル。

(以下座中ノ或人ノ尋ニヨリテ増補ス)

某君ノ尋ネニヨツテ私ハ増補ヲシナケレバナラヌ、私ハ府縣ニ向ツテ完全ノ自治ヲ與ヘルコトヲ好マヌ。地方ノ人民ヨリ公選サレタル集議體ガ議決ノ權ト施行ノ權トヲ合セテ、右ニ議決權ヲ持チ左ニ施行權ヲ持ツノヲ即チ完全ノ自治ト名ケ、之ヲ府縣ニ向ツテ與ヘルコトヲ好マヌ。之ニ反シテ今ノ府縣會ハ議決ノ權アリテ施行ノ權ナク、即チ關係ノ自治デアル。兎モ角モ府縣ノ公選サレタル集議體ニハ議決ノ權ヲ與ヘルハヨイガ、施行ノ權ヲ與ヘナイガヨイ、次ニハマタ府縣公共ノ資本ヨリ成リ立ツ隨意ノ施設物ガアル、即チ學校病院ノ如キモノ是レナリ。府縣ノ法律上ノ義務トシテ府縣稅ニテ算スルモノ、外、府縣ノ隨意トシテ府縣ノ金デ支辨スル施設物ニ限ツテノ

支配ハ、自治體ニ施行ノ權ヲ與ヘテ政府ハ監督ノ權ヲ持ツテヨロシイ。右隨意ノ施設物ノ外ハ府縣ノ民選體ニハ議決ノ權ヲ與ヘテ施行ノ權ヲ與ヘナイガヨイ。是レガ私ノ府縣制ニ就テノ實際上ノ考ヘデ有ル。

商品取引所條例施行規則

伊東巳代治

第一章 商品取引所設立手續

第一條 商品取引所ヲ設立スル爲、東京及大阪ニ於テハ五十名以上、其他ノ地方ニ於テハ十五名以上、一般ノ商業若クハ各其營業セントスル特種ノ物品ニ關シ相當ノ知識ヲ有スル者ヨリ、東京及大阪ニ於テハ十五名、其他ニ於テハ九名ノ創立委員ヲ構成スベシ。創立委員ハ下文ニ記載スル項目ヲ記入シタル願書ヲ認メ、其地方官廳ヲ經由シテ之ヲ農商務省ニ差出シ、地方官廳其願書ニ付意見ヲ具狀スベシ。創立委員ノ願書ニハ各常員現時及既往ノ地位並職業ヲ記載シタル書面ヲ附添シ各常員之ニ記名調印スベシ。記入スベキ項目左ノ如シ。

- 一、商品取引所ノ名稱並位置。

- 二、商品取引所ノ設立ヲ要スル事由。
- 三、商品取引所ニ於テ賣買取引スル商品ノ種類。
- 四、其地方ニ於テ商業ノ廣狹商品ノ散集並將來賣買取引セントスル商品ノ豫算額。
- 五、其地方ニ於テ一般ノ商業ヲ營ム者及專科ノ商業ヲ營ム者ノ員數。
- 六、各種商品ノ爲ニ撰任スベキ仲買人ノ員數及仲買人ノ差入ルベキ保證金ノ額。

第二條 特種ノ商品ヲ限リテ商品取引所ヲ設立スル時ハ其商品ヲ明細ニ列舉シ、其理由ヲ明示スベシ。

第三條 商品取引所ノ設立ヲ許可スル時ハ農商務省ハ設立許可ノ證狀ヲ下付シ、官報及其他新聞紙ヲ以テ直ニ其旨ヲ公告スベシ。

第四條 商品取引所設立ノ許可ヲ得ル時ハ創立委員ハ(第一)商品取引所ノ常員タランコトヲ欲スル者ノ爲ニ名簿ヲ整備シ(第二)細則ヲ起草シテ農商務省ニ提出シ其認可ヲ請フベシ。

第五條 細則ノ認可ヲ得常員タランコトヲ記入シタル者ノ數其地方商人全數ノ三分之一以上ニ達シタル時ハ、商品取引役員ノ選舉ヲ執行スル爲常員ヲ招集スベシ。

第六條 前條ノ選舉ヲ結了セザル内ハ創立委員ニ於テ商品取引所役員ノ權利義務ヲ執行シ、商品取引所開業ノ爲相當ノ準備ヲ爲スベシ。

第七條 商品取引新役員ヲ構成シ定員三分一以上ノ仲買人ヲ撰任シタル時ハ、官報其他新聞紙上ニ於テ豫メ公告ヲ爲シテ商品取引所ヲ開キ賣買ヲ始ムルコトヲ得。

第二章 商品取引所常員

第八條 商品取引所常員タルノ資格ヲ有セザル者ノ登簿ハ之ヲ承諾スルコトヲ得ズ。

前項ノ登簿ハ會社及各申込人ノ名義ヲ以テ之ヲ爲シ、其負擔セントスル手数料ノ等級ヲ記載スベシ。

第九條 婦女ハ商品取引所ニ於テ之ヲ代表スル所ノ代理人又ハ手代ノ姓名ヲ附記スルニ於テハ常員ノ登簿ヲ承諾スルコトヲ得。

第十條 登簿ハ一個年間其効力ヲ有スルモノトス。但其以後ハ免許證下付ノ願書ヲ以テ登簿ト見做スベシ。

前項免許證下付ノ願書ハ毎年最末ノ月ニ於テ差出スベシ。

第十一條 免許證ハ各常員一年期ノ手数料ヲ納ルトキ之ヲ下付スベシ。

第十二條 手数料ノ金額ハ一名ニ付十圓以上五十圓以下トシ、十圓及五十圓ヲ以テ最下限及最上限トナシ更ニ其間ニ等級ヲ細別スベシ。

各常員ノ等級ハ創設ノ際ニ於テハ創立委員又其以後ハ理事員各自營業ノ廣狹ニ據リ之ヲ酌定スベシ。

前項ノ酌定ニ對シ不服ヲ唱フルモノアル時ハ東京及大阪ニ於テハ農商務大臣其他ニ於テハ知事ノ裁決ヲ仰グベシ。

第十三條 代理人並手代ノ爲ニ入場券ヲ下付スルトキハ常員手数料ノ二分ノ一ヨリ多カラザル手数料ヲ更ニ其主人ニ課スルコトヲ得。

第十四條 商品取引所仲買人ハ常員ト同一ノ手数料ヲ納ムベシ。常員手数料ノ外更ニ別種ノ手数料ヲ課スルハ細則中特ニ定ムル所ニ依ル。

第十五條 常員ヨリ納付スベキ手数料政府ノ下賜金其他一個人ノ寄附金等ヲ以テ經費ヲ支辨スルニ充分ナラザル時ハ、常員各自其手数料高ニ割合ヒ更ニ補充賦金ヲ追徴シテ其缺額ヲ補充スベシ。

第十六條 豫メ農商務大臣ノ認可ヲ經ルニアラザレバ手数料又ハ賦金ヲ常員ニ賦課スルコトヲ得ズ。

第十七條 定期内ニ於テ免許證ノ出願ヲ爲サルカ、若クハ其相當ノ手数料及賦金ヲ納メザル常員ハ商品取引所ヨリ自ラ除名シタル者ト認ムベシ。

第十八條 商品取引所ヨリ常員ヲ除名スルコトニ關スル決議ハ理事員全數ノ會議ニ於テ除名人ノ陳述ヲ聽キタル上、三分ノ二以上ノ賛成ヲ以テ之ヲ爲スベシ。此會議ニ於テ裁判ノ儀式ヲ用ヒ又ハ代言人ヲ入ル、コトヲ許サズ。

前項ノ決議ニハ年號月日ヲ記入シ其理由ヲ記載シ理事長並理事員ノ記名シタル書面ヲ以テ之ヲ申渡スベシ。

第十九條 會社ノ組合人又ハ支配人ハ各商品取引所ノ常員タルベシ、其手数料並賦金ハ一個ノ商人ト同ジク之ヲ會社ニ課スルモノトス。其組合人又ハ理事人各自ニ手数料ヲ賦課スルハ細則中特ニ定ムル所ニ依ル。

第二十條 免許證並ニ入場券ハ一個年間效力ヲ有シ賣買其他之ヲ他人ニ讓與スルコトヲ許サズ。

第三章 細則並營業規程

第二十一條 商品取引所ノ細則ヲ以テ定ムベキ事項左ノ如シ。

- 一、商品取引所役員及處務規程ニ關スル事項。
- 二、商品取引所ノ位置並其裝置ニ關スル一切ノ事項。
- 三、常員ノ手数料並賦金ニ關スル事項。

四、仲買人ノ員數及其差入ルベキ保證金ノ額。

五、商品取引所ニ於テ賣買取引スベキ特種ノ商品並其仲買人ノ選任ヲ受ケタル特種ノ商業。

其他商品取引所ヲ管理シ其目的ヲ施行スル爲ニ要用ナル事項。

第二十二條 營業規程ハ賣買取引ニ關シテ生ズル所ノ常員ノ權理義務ヲ更ニ精確細密ニ畫定シ、且商業上ノ正當ナル慣習ヲ確定センガ爲之ヲ定ムベキモノトス。

第二十三條 細則及營業規程ハ商品取引所既定ノ細則ニ從ヒ理事員會ニ於テ之ヲ議決シ、農商務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ商品取引所常員ニ告知シタル時ハ常員各自之ヲ遵守スベキモノトス。

第二十四條 凡ソ細則及營業規程ニハ年月日ヲ記入シ理事長並事務員之ニ記名シ農商務大臣ノ認可ヲ經タル旨ヲ記載シ、豫メ之ヲ商品取引所内ニ揭示スベシ。

第二十五條 凡ソ細則及營業規程ハ之ヲ議決シタル理事員ノ記名ト共ニ其全文ヲ法廷ノ記録ニ登載スベシ。

第二十六條 凡ソ細則及營業規程ハ之ヲ議決スルト同一ノ方法ニ依リ之ヲ變更廢止スベシ。

第二十七條 細則又ハ營業規程ニ關シタル改正請願ハ少クモ常員十名以上記名シテ苦情及請願ノ事由ヲ明確ニ記載シ、之ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ得、此改正請願ハ細則又ハ營業規程中妥當ナラザル事項アルカ又ハ商業若クハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムベキ事項ニ限ル。

第四章 選舉

第二十八條 當初ノ理事員選舉ハ創立委員之ヲ施行シ、爾後ハ理事長三名以上理事員ノ輔佐ヲ受ケ商品取引所々在ノ地方ニ於テ之ヲ施行スベシ。

凡ソ選舉會ヲ開ク時ハ之ヲ監視シテ不當ノ所爲ナカラシメンガ爲、東京及大阪ニ於テハ農商務大臣、其他ニ於テハ府縣知事ヨリ一名ノ委員ヲ派出スルコトアルベシ。

第二十九條 凡ソ選舉ハ翌年期一箇月前之ヲ施行スベシ。但商品取引所内ニ揭示シテ豫メ其旨ヲ公告シ、及新聞紙ヲ以テ發兌スベシ。

第三十條 選舉ノ期日並時間ハ商品取引所ノ細則ニ依リ施行スル所ノ選舉方法ト共ニ之ヲ明確ニ公告文ニ記載スベシ。

第三十一條 選舉人ハ其正當ノ免許證ヲ示スニアラザレバ入場スルコトヲ許サズ。且代理ヲ以テ選舉スルコトヲ許サズ。

第三十二條 選舉人ハ一名ニ付投票一個ノ權ヲ有シ、選舉ハ必ズ投票ノ多數ニ依テ之ヲ決ス、又投票セザル常員ハ投票シタル常員ノ多數ト同意ナリト認ムベシ。
投票人ノ員數常員ノ半數ニ滿タザル時ハ更ニ選舉會ヲ開クベシ。

第三十三條 理事長若シ政府ノ特選ニ出ザル時ハ理事員全數ノ四分ノ三以上出席ノ上其投票ノ多數ニ依リ之ヲ選舉ス。但投票ハ記名タルベシ。

第三十四條 商業全般ノ利益ヲ代表センガ爲メ成ルベク各種ノ重要ナル商業ニ従事スル常員ヲ選舉シテ理事員並常置委員ト爲スベシ。

第三十五條 商品取引所常員ノ外ハ理事員常置委員並專科委員ニ選任スルコトヲ得ズ。但政府ノ特選ニ係ル理事長並商品取引所條例第二十三條ニ列舉スル商品取引役員ハ必ズシモ常員タルコトヲ要セズ。

第三十六條 常置委員會並專科委員會ノ議長ハ理事會ニ於テ之ヲ特選スベシ。

第五章 商品取引所集會

第三十七條 商品取引所集會ハ之ヲ分テ賣買集會并役員集會トス。

賣買集會ニ於テ商品取引所常員ハ賣買取引ヲ準備シ及之ヲ結了シ總テ須要ナル報道ヲ得ンガ爲ニ一同集會スベシ。

第三十八條 賣買集會ノ期日並時間ハ理事員ノ定ムル所ニ依ル、時間ハ毎日午前又ハ午後ニ於テ二時間ヨリ少カラズ四時間ヨリ多カラザルベシ。賣買集會ノ開閉ハ敲鐘ヲ以テ之ヲ報ズ。又集

會終ル時ハ商品取引所ヲ閉ヂ役員事務ノ爲ニ止マル者ノ外ハ一切退出セシムベシ。

第三十九條 賣買集會ノ秩序整頓ハ理事員ヨリ特ニ委任シタル商品取引所役員之ヲ掌ルベシ。又必要ト認ムル時ハ理事員ノ請願ニ依リ商品取引所ノ費用ヲ以テ巡查ノ派出ヲ許可スルコトアルベシ。

第四十條 亂暴又ハ醜行ヲ爲ス者、常員ニアラザル者役員ノ要求ニ應ジテ免許證又ハ入場券ヲ示スコト能ハザル者、又ハ相當ノ手續ヲ經ズシテ入場シタル參觀人ハ直ニ之ヲ商品取引所ヨリ退去セシムベシ。又敲鐘ヲ以テ閉會ヲ報ズト雖モ常員猶ホ商品取引所ヲ退去セザル時モ亦上文ノ場合ト同ジク退去セシムベシ。又止ムヲ得ザル場合ニ於テハ警察官ノ力ヲ假用スルコトヲ得。

第四十一條 役員集會トハ理事員常置委員及專科委員ノ集會ニシテ、毎月一回以上又ハ役員ノ事務上必要ト認ムル時又ハ理事長若クハ各委員長之ヲ須要ト認ムル時、又ハ二名以上ノ理事員若クハ常置委員若クハ專科委員ノ請求アル時、理事長及常置委員長若クハ專科委員長之ヲ招集スルモノトス。

第四十二條 役員集會ニ於テ議定スル決議及其他役員集會ニ於テ取扱ヒタル事務ハ別ニ整備スル所ノ記録ニ登載スベシ。

第四十三條 至急ヲ要スル場合ノ外ハ常員半数以上ノ出席アルニアラザレバ役員集會ヲ招集スル

コト能ハズ。決議ハ投票ノ多數ニ依ル。若シ可否ノ投票同數ナル時ハ議長ノ決スル所ニ依ル。理事長及政府ノ派出官(若シ之レアル時)ハ役員集會ニ出席シテ其議事ニ與ルコトヲ得ト雖モ理事員會ニ於テハ理事長ヲ除ク外投票ノ權ヲ有セザルベシ。

第四十四條 商品取引所會計事務ノ爲ニ毎年二回理事員會ヲ開クベシ。

第四十五條 商品取引所ニ關スル一切ノ書類ハ該取引所ノ名ヲ以テ之ヲ起案シ、且商品取引ノ印章ヲ鈐スルヲ要ス。政府ヘノ願伺並報告書又ハ條約書細則營業規程、其他總テノ要用ノ書類ニハ理事長必ズ之ニ記名調印スベシ。

第四十六條 商品取引所並役員ノ印影ハ農商務大臣ニ届出ベシ。然ル後前條ノ書類ニ捺用スルコトヲ得。

第六章 商品取引所仲買人

第四十七條 商品取引所仲買人ノ初度ノ選舉ハ商品取引所條例第七條ニ依リ創立委員之ヲ執行ス。仲買人組合ノ設置アル土地ニ於テハ其組合ニ下問シ意見ヲ述ベシムベシ。

第四十八條 仲買人ノ納ムベキ保證金ノ額ハ商品取引所ノ細則ニ依リ左ノ制限内ニ於テ之ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ。

東京及大阪ニ於テハ五千圓以上一萬圓以下其他ノ地方ニ於テハ千圓以上五千圓以下。
仲買人現金ヲ以テ保證金ヲ拂込ム時ハ商品取引所ニ於テ相當ナリト認ムル銀行ニ預ケ入レ、其預金證書ヲ以テ商品取引所ニ納メシムベシ。仲買人ノ保證金ハ大藏省ノ貯金銀行又ハ驛遞局ノ貯金預證書又ハ公債證書其他農商務大臣ノ許可スル株式ヲ以テ之ヲ納メシムルコトヲ得、其公債證書又ハ株式ノ價格ハ同大臣ノ定ムル所ニ依ル。

第四十九條 仲買人ノ種類左ノ如シ。
一、株式仲買人。

株式仲買人ハ金銀（貨幣ニ鑄造シタルト否トヲ問ハズ）公債證書其他諸株式並爲替手形ノ賣買取引ニ從事スル者トス。

二、物産仲買人。

物産仲買人ハ米茶生絲酒油砂糖綿鹽等ノ如キ一種ノ商品ニ付賣買取引ニ從事スルモノトス。

三、商務仲買人。

商務仲買人ハ船舶又ハ各種ノ保險ニ關スル事務ニ從事スルモノトス。

仲買人ハ前項各種ノ内ニ就キ又ハ一種ノ内特別ノ商品ニ就キ撰任スルコトヲ得。

第五十條 仲買人ハ常員ト均シク手数料ヲ其撰舉ノ時ニ於テ納ムベシ。但商品取引所ノ細則ニ依

リ更ニ手数料ヲ課スルコトアルベシ。

第五十一條 仲買人ハ商品取引所ノ内外ヲ問ハズ自己ノ爲ニ其營業ヲ爲スコトヲ得ズ、仲買人ハ

自ラ其業務ニ從事シ補助トシテ代理人又ハ手代ヲ使用スルハ其店內ノ事務ニ限ルベシ。

第五十二條 仲買人ハ商法ノ明條ニ從ヒ其營業ヲ爲スベシ。

第五十三條 仲買人ヨリ拂込タル保證金ハ其仲買營業ノ爲ニ仲買人ニ科スル罰金又ハ損害賠償ノ爲ニ之ヲ使用スベシ。

第五十四條 仲買人ハ其營業スル商品ニ關スル賣買集會ノ終ルマデ出席スルヲ要ス、其他要求ニ應ジテ役員集會ニ出席スベシ。

第五十五條 仲買人商品取引所ニ於テ撰任セラレタル時ハ其氏名並營業ノ種類ヲ記載シタル銀牌ヲ請クベシ。仲買人ハ一切ノ集會ニ於テ認メ易キ部分ニ之ヲ帶ブルヲ要ス。但仲買人ノ都合ニ依リ廢業スルカ又ハ他ノ情故ニ依テ廢業スル時ハ商品取引所ニ其銀牌ヲ返納スベシ。

第五十六條 仲買人其銀牌ヲ紛失シタル時ハ理事員ノ證書ヲ添ヘ其紛失ノ手續ヲ明細ニ證明スベシ。然ル時商品取引所ハ更ニ新銀牌ヲ交付スベシ。但此場合ニ於テハ手数料トシテ十圓ヲ拂ハシムベシ。

第五十七條 仲買人其職ヲ辭サントスル時ハ其旨ヲ商品取引所ニ申出ベシ。商品取引所ハ三十日

間其場内ニ公示シテ常員ヨリ其仲買人ニ對シ要求ノ事件ナキヲ明確ニシタル後辭職ヲ許可シ、豫テ納付セル保證金ヲ返付シ、其地方官ヲ經由シテ農商務大臣ニ届出ベシ。

第五十八條 前條辭職ノ外仲買人ノ營業ハ左記ノ場合ニ於テ之ヲ廢止スベシ。

一、商品取引所條例第三十三條ニ依リ其撰任ヲ取消シタル時。

二、死亡又ハ失踪シタル時。

三、身代限ノ處分ヲ受ケタル時。

四、仲買人ノ營業ヲ禁止セラレタル時。

第五十九條 仲買人撰任ヲ取消シタル時、該仲買人ハ再ビ仲買ノ職ニ復スルヲ得ズ。

第七章 公定市價

第六十條 物價委員ハ細則ニ依リ定ムル所ノ期日ニ賣買集會ヲ終リタル後直ニ集會ヲ開クベシ。

仲買人ハ該集會ヲ幫助シ、商品取引所常員ノ爲ニ仲買人トシテ其營業シタル當日ノ總賣買取引ノ物價ヲ實正精確ニ報道スベシ。又仲買人ハ物價委員ノ要求ニ應ジ其勘定帳ヲ該委員ノ檢視ニ付スベシ。

第六十一條 商品取引所ニ於テ賣買スル所ノ商品ニ對シ左ノ公定時價ヲ付スベシ。

一、寄附時價。

二、大引時價。

三、最高時價。

四、最低時價。

五、平均時價。

右ノ公定時價ハ現物賣買ト定期賣買ヲ區別シ之ヲ二様ニ作ルベシ。

第六十二條 前條ノ公定時價ハ一定ノ表ニ作り之ヲ印行シテ直ニ商品取引所ニ掲出スベシ。此公定時價ヲ當日ノ公定市價ト見做スベシ。

第八章 仲裁

第六十三條 仲裁委員ハ左ノ事件ヲ成ルベク平穩ニ調停裁決スベシ。

- 一、商品取引所々在ノ地方ニ於テ又ハ營業上ノ關係ニ於テ商品取引所常員ノ間ニ生ズル苦情并ニ不和、例ヘバ侮辱其他商業上ノ名譽信用ヲ害スル所爲。
- 二、商品取引所賣買ニ關シテ起ル所ノ爭論要求ニシテ法廷ノ裁判ヲ受クベキ性質ニ屬スル事項。

第六十四條 物價委員ハ一定ノ期日及ビ時間ニ於テ商品取引所内ニ三名以上ノ出席ヲ以テ開會スベシ。決議ハ投票ノ多數ニ依リ遲滯ナク之ヲ決スベシ。

第六十五條 被判人ハ口頭又ハ書面ヲ以テ仲裁ヲ請願スベシ。但仲裁委員ハ被判人ヲシテ其供述ヲ書面ヲ以テ差出サシムルコトヲ得。

第六十六條 被判人ハ自身ニ出頭スベシ。若シ代理ヲ出ス時ハ其雇代理人ニ限ルベシ。

第六十七條 仲裁手續ハ文書并ニ法律上ノ儀式ヲ用ユルコトナシ、又直ニ仲裁委員ノ面前ニ提出スルコトヲ得ベキ證書并ニ證人ニ限り之ヲ許可ス。仲裁委員ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ仲買人又ハ常員ヲ證人トシテ呼出スノ權ヲ有ス。

第六十八條 仲裁委員ノ裁決ニ服セザル者ハ商品取引所常員ヨリ除名ス可シ。此場合ニ於テハ對手人ハ相當ノ法廷ニ其要求ヲ提出スルコトヲ得、但仲裁委員ノ裁決商法ニ違反スル時ハ即チ法律ノ明條ニ反シ公安ヲ害シ、若クハ必要ノ手續規程ヲ履行セザル時ハ被判人ハ仲裁委員ニ對シテ抗辯スルコトヲ得。

第六十九條 仲裁委員ハ仲裁ニ關スル入費ノ納付ヲ命ズルノ權ヲ有ス。

第九章 賣買取引

第七十條 總テ商法ニ依リ正當ノ約定又ハ賣買ハ之ヲ商品取引所ニ於テ爲スコトヲ得、其履行ハ商品取引所細則ノ定ムル所ニ依ル。

第七十一條 商品取引所ニ於テ爲ストコロノ約定ハ之ヲ現物見本又ハ公認標準（即チ建物ニ依テ之ヲ取結ブベシ。例ヘバ東京ニ於テハ武州米ヲ以テ標準ト爲スノ類ナリ。）

第七十二條 現物ノ賣買ハ遅クモ取極メ翌朝之ヲ執行スベシ。定期賣買商品取引所ノ細則ニ依テ定ムル所ノ期日ニ於テ之ヲ執行スベシ。

第七十三條 約定ノ履行ヲ確實ナラシメン爲メ商品取引所ハ賣主又ハ買主ヲシテ若干圓ノ差金ヲ商品取引所又ハ仲買人ニ預置セシムルコトヲ得、差金ノ額ハ商品取引所ノ定ムル所ニ依ル。

第七十四條 賣買ヲ完了スル約定ハ其双方ノ取極ニ依リ商品取引所内又ハ其外ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得。

第十章 報告

第七十五條 理事員ハ左記ノ報告ヲ農商務大臣ニ差出スベシ。

一、每日市價報告。

二、每日賣買取引報告。

商品取引所條例施行規則

- 三、半年ノ會計報告、
- 四、前年度賣買取引ノ總高其結果前年以前トノ比較及商業上ノ利益ノ爲ニ必要ナル考案ニ關スル年報。

第十一章 罰 則

第七十六條 右ニ記載スル場合ヲ除クノ外ハ理事員ハ商品取引所常員ノ犯則ヲ裁判スルノ權アルコトナシ。

- 一、商品取引所條例第八條ニ依リ常員ヲ除名スルノ權アル事。
 - 二、前第四十條ニ依リ商品取引所内ノ秩序安寧ヲ保持センガ爲メ直ニ處分ヲ爲スヲ得ル事。
- 前諸項ニ載スルモノヲ除クノ外尙商品取引所規程ノ犯罪ハ現行法律ニ依リ相當ノ法廷又ハ警察官ノ處分ヲ仰グベキモノトス。

理由書

取引所ノ起ルヤ由來甚遠ク、通商貿易ノ事方ニ開クルノ始メ既ニ其基礎ヲナシ、歐米各國皆之ヲ以テ商業上必要缺クベカラザル機關トナセリ。太古羅馬人ノ如キハ最モ商家ノ業體ヲ卑ミ、頗ル商賈ノ分限ヲ輕ンジ、貿易會テ旺盛ノ域ニ達セザリシモ尙且取引所ノ類ヲ設ケテ商業ノ便利ヲ與ヘタリ。文化漸ク開ケ人口茲ニ繁キニ隨ヒ、此類ノ會場陸續トシテ起リ、人烟繁盛ナル都府ニ在リテハ所トシテ此設ケアラザルハ莫シ。佛國ノ如キハ其數實ニ六十五所ノ多キニ至レリ。今茲ニ取引所ノ要ヲ略言スレバ、市價ヲ平均シテ真正ノ格ニ就カシムベク、之ヲ調和シテ急激ノ昇降ナカラシムベク、需用供給ヲ交通シテ貨物ノ停滯ナカラシムベク、生産者消費者共ニ意ヲ安ンジテ各々其業ヲ營ムコトヲ得セシムベク、其他此ヨリ生ズル利益効用ハ一々枚舉スルニ遑アラズ。若シ此設ケナカリセバ商賈ハ一事ヲ約シ一物ヲ鬻グニ方リ、東奔西走其煩言フベカラズ。焉ンゾ有無ヲ通ジ糶糴ヲ平ニシテ均一ノ幸福ヲ享受スルコトヲ得ンヤ。是則各國共ニ取引所ヲ設ケ商業ノ機關ヲ以テ之ニ托スル所以ナリ。

本邦ノ商賈ハ鎖國孤立ノ習慣其性ヲ爲シ、超然トシテ之ヲ脱却スルコト能ハズ。之ガ爲メ賣買

取引ノ道極メテ狭ク、但米ト株式ノミ其取引所アリテ、僅カニ發達ノ狀ヲ呈スルト雖モ、其餘ハ依然トシテ舊ニ仍リ市價ノ平準ヲ求メ、流通ノ圓滑ヲ促スノ道ナシ。之ヲ譬フルニ我邦ノ商業ハ五音六律ノ音調ヲ經紀スル所以ヲ覺ラズ、徒ラニ絲竹ヲ弄ビテ濫吹亂奏スルガ如ク、何ニ因リテカ律呂ノ正ヲ保チ雍熙ノ和ヲ致スコトヲ得ンヤ。今ヤ亂雜ヲ整理シテ真正ノ道途ニ進マシメント欲セバ此宿弊ヲ掃蕩シテ以テ其業ヲ振作シ、隨テ農工殖産ノ事ヲ伸張セザルベカラズ。其執ル所ノ務メ一ニシテ足ラズト雖モ、未曾テ萬商四來ノ門ヲ開キ、賣買取引ノ便利ヲ與ヘ程度ヲ踏デ進退セシムルヨリ急務ナルハアラズ。是今日取引所ヲ設ケ、重要商品ヲシテ價格ノ平準ヲ得貨物ノ交通ヲ計ラシメザル可ラザル所以ナリ。

其法ハ歐米ニ斟酌シ、其長短ヲ商量シ之ヲ本邦ノ慣習ニ照シ、利害得喪ヲ辨析取捨シテ以テ一定ノ條例規則ヲ設ケ、身元確實ナル實業者ヲシテ之ヲ創立セシメ、現品又ハ倉庫會社ノ預リ手形等ヲ以テ直取引及定期取引ヲ行フ所トナシ、而テ其組織ハ今ノ米商會所株式取引所ノ如ク株主ノ合資ヲ以テセズ、茲ニ來リテ賣買取引スベキ商業者即會員ヲ以テシ、若干ノ役員ヲ置キ、一切ノ事務ヲ料理セシメ、兼テ取引上ヨリ生ズル轆轤ヲ調停和解スルノ責ヲ負ハシムベシ。

市價平準ナラザルトキハ有無貿易ノ道開ケズ、融通圓滑ナラザルトキハ物貨一方ニ停滯スルノ患アリ。取引所ハ實ニ其機關ニ當リ、其運動ヨリ生ズル影響ハ國家ノ大計ニ繫リ、全國ノ經濟ニ

及ボスコト甚ダ大ナリ。然ドモ現今此類ノ會場ハ動モスレバ世ノ擯斥ヲ受ケ、物議ヲ免レザル所以ノ者ハ抑々何ゾヤ、顧フニ其物ノ非ナルニアラズシテ其組織ノ未ダ宜キヲ得ザルニ因ル。夫レ今ノ米商會所又ハ株式取引所ノ如キ、其業ニ從事スルモノ多クハ自ラ慎重セズ、或ハ本務ヲ誤リ唯空相場ヲ主トシ、奇利ヲ逐ヘント欲スルモノアリ。斯ヲ以テ世ノ輕蔑ヲ來スノミナラズ、甚シキニ至リテハ其場所ヲ視テ以テ一種ノ弊竇トナシ、禁止稅ノ如キ重稅ヲ課シテ之ヲ傾倒セシムルベキノ說ヲ持スルモノアルニ至リ、遂ニ密商脫稅ヲ計ルモノ續出シテ愈々警察ノ煩ヲ累ネ、其極殆ド將ニ効用ヲ失ハントス。乃之ヲ挽回シテ完全ナル地位ニ躋センニハ其組織ヲ改メ、從來ノ弊竇ヲ塞ギ、空想ヲ絶チ信用厚ク品行正キ者ヲシテ自ラ好ミテ此レニ從事スルノ氣風ヲ造爲セズンバアルベカラズ。茲ニ取引所ノ規程ニ從ヒ此ノ類ノ業ヲ行フニ至テハ、取引必ズ確實ニシテ信用モ亦世ニ重ク實用最モ大ナル良市場タルベキヤ疑ヲ容レザルナリ。

全國米商會所中來ル二十年八月ヲ以テ其營業滿期ニ至ルモノ十ヶ所、又株式取引所中來ル二十一年ニ及ビ滿期ヲ告グベキモノ若干アリ。既ニ滿期ニ至ルモノハ繼續スルコトヲ許サズ、而テ米商會所條例株式取引所條例モ亦其滿期ト共ニ廢止セラレ、凡此類ノ商業ハ悉ク取引所條例ニ據ラシメント欲ス。夫レ取引所茲ニ立チ倉庫會社銀行等ト相俟テ以テ互ニ連貫運動スルトキハ、百貨茲ニ輻湊シ衆商茲ニ群集シ、商業ノ體面漸ク革マリ、農工ノ事業モ亦隨テ進ミ、全國ノ經濟ニ裨

益スルコト固ヨリ淺少ナラザルベシ。之ヲ譬フルニ眞成ノ化域ニ達シ、音調正ニ整ヒ節奏其度ニ合ヒ肅雍和樂ノ美ヲ見ルニ庶幾ランカ。

又收税上ヨリ之ヲ觀レバ、此設立ハ獎業開産ノ源委ヲ改進スルヲ以テ、間接ニ收税額ヲ増加スベキハ論ナク、又直接ニ今ノ米商會所株式取引所ノ税額ニ倍蓰スル所アルベシ。顧フニ收税ノ法案ハ主務大臣之ヲ上申スベシト雖モ、此事タル大ニ營業ノ伸縮消長ニ關シ、若シ重ニ失セバ恐クハ取引所ニ就テ公然取引ヲ爲ス者其數ヲ減ジ、隨テ密商脱税ヲ圖ルノ弊風ヲ生ゼントス。試ニ海外ノ例ヲ按ジ其賣買ニ係ル税額ヲ舉レバ、獨逸ハ一萬分ノ一、佛國ハ賣買各二萬分ノ一、英國ハ五磅以上賣買毎ニ一片ヲ課スルノ制ニシテ、今假ニ一口ノ賣買ヲ二百磅ト爲セバ賣買各四萬四千分ノ一ニ當ル、別ニ仲買人ニ課スルニ營業税又ハ所得税ヲ以テスルモノアルモ其額僅々ノミ。今回創立スル所ノ取引所ノ課税ハ此等ノ例ニ徵シ、冀クハ極メテ之ヲ輕クセラレンコトヲ。而シテ其課税ノ方法モ亦多シ、或ハ今ノ米商會所株式取引所ノ如ク其賣買約定高ニ課スルヲ得ベク、或ハ歐洲諸國ノ例ニ據リ、印紙税ト爲スヲ得ベク、又或ハ取引所税トシテ一定ノ年税ヲ徵スルヲ得ベシト雖モ、是尙脱税ノ弊ヲ免レズ。更ニ仲買人營業税即分頭税ト爲スノ簡易ニシテ且正確ナルニ若カズ。夫此分頭税ハ賣買多キモノニ輕ク、其少キモノニ重キノ感アリ。稍公平ナラザルノ嫌ナキニアラズ。然レドモ仲買人ハ皆同一ノ條例規則ニ從ヒ、同一ノ權利義務ヲ負ヒ、同一ノ事業

營ムモノナリ。之ニ同一ノ税ヲ課スレバ各種ノ人民ニ對シ平等均一ノ分頭税ヲ課スルモノト同視スベカラズ。素ヨリ其取引所創設ノ初メニ於テハ暫ク其税ヲ免ジテ其營業ノ發達ヲ促サンコトヲ欲スルモ、若シ之ヲ得ベカラズンバ寧ロ分頭税ノ法ニ據リ、凡ソ仲買人ノ口錢ヲ賣買高一千分ノ二トシ、其口錢ノ二十分ノ一即賣買高一萬分ノ一ヲ標準トナシ、以テ其率ヲ定メラレンコトヲ希望ス。而シテ其收税規則ハ會員仲買人タラント欲スルモノ、最モ注目スル所ニシテ、其業ヲ企ツルト否トハ職トシテ税額ノ輕重寬猛如何ニ由ル、故ニ本條例ト共ニ税則ヲ制定シ同時ニ之ヲ發布セラレンコトヲ欲ス。

本條例ハ全ク要目綱領ヲ示スニ止メ、其他ノ事項即チ取引所創立出願ノ手續、會員仲買人ノ入退及役員選舉ノ方法、其權利義務賣買取引ノ方法仲裁和解ノ方法及會議ノ方法等凡取引所ニ關スル一切ノ細則ニ至テハ悉皆之ヲ省令ニ定メ、尙ホ取引所ヲシテ本條例及令ニ據リ一同ノ協議ヲ以テ申合規則ヲ作り本大臣ノ認可ヲ得セシメントス。

取引所條例說明

第一條 取引所ハ重要ノ商品、諸會社ノ株式及有價證券ヲ賣買取引スル所ニシテ其目的ハ左ノ如シ。

- 一、商業上ノ取引ヲ便利ニシ市價ヲ平準スル事。
- 一、商業上公正誠實ノ風ヲ馴致シ其慣習ヲ統一維持スル事。
- 一、商業上有益ノ報道ヲ發作傳播スル事。

一、商業上ノ事項ニ關シ取引所ニ於テ會員ノ間ニ生ズル差違レヲ仲裁和解スル事。

(說明) 本邦ノ取引所ノ設ケハ米商會所ト株式取引所ノ二アルノミ、此二者ハ賣買ノ品物ニ限リアリテ百般商業上樞要ノ機關トナスニ足ラズ、故ニ本邦商品中其重要ノ位置ヲ占ムルモノニ在リテ、公然タル一定ノ價值ヲ得ルノ途ナキモノ、尙其幾許ナルコトヲ知ラズ。何ヲ以テカ物貨ノ運轉圓滑ナルコトヲ望ムベケンヤ。夫商品運轉ノ道途悉ク開通セバ物産之ガ爲メニ興殖シ、一國經濟之ニ由リテ富饒ナルベキハ辯ヲ俟タズシテ明ケシ。是商品取引所ノ設ケナカニル可カラザル所以ニシテ、乃之アルニ於テハ從來零碎分散セル商品ハ自然ニ一定ノ標準ヲ得

ヲテ、市ニ價格ノ大差ヲ見ハサズ、又之ニ由リテ多額ノ賣買行ハレ、品物ノ運轉快活ナルニ至ルベク、賣買ノ方法確定シ、一般商業上公正誠實ノ風ヲ馴致シ、有益ノ報道ヲ發作シ、之ヲ傳播スルヲ得ベク、取引上ニ生ズル爭論苦情ヲ豫防調停シ以テ賣買取引ヲ便利ニシ、且之ヲ發達セシムベシ。今海外各國ノ實例ニ徴スルニ、萬商集會シテ其國重要ノ商品或ハ證券手形株券公債證書ノ如キモノヲ賣買取引シ、其價格ノ平準ト流通トヲ圖ルハ一々取引所ノ商場ニ由ラザルハナシ。歐米ノ商都到ル處「ブルルス」或ハ「エキスチエンジ」ノ設ケアルハ寔ニ偶然ニアラザルナリ。故ニ今其例ニ倣ヒ本邦ニ於テモ亦重要品ニ屬スルモノハ率ネ此取引所ニ由テ以テ賣買取引スルノ便利ヲ與ヘントス。而シテ重要物産ニ就キ之ヲ鑑別指定センニ、例ヘバ穀類、綿、油、生絲、製茶、肥料等ノ如キハ其產額著大ナルヲ以テ、此ニ其取引ヲ行ヘバ一ハ以テ公然價格ノ平準ヲ保チ、一ハ以テ其物件停滯不動ノ累弊ヲ除クニ足ラン。金銀貨モ亦此ニ交換授受ノ途ヲ開キ一定ノ標準ヲ得ントス。而シテ其賣買取引スベキ商品ノ種類ハ取引所設立ノ位置ト其貨物多寡ニ徴シ農商務大臣省令ヲ以テ之ヲ指定セントス。

第二條 取引所ハ農商務大臣ノ特許ニ依リ商業上便宜必要ノ地方ニ於テ設立スルモノトス。

(說明) 取引所ノ設置ヲ以テ農商務大臣ノ特許トナスモノハ既ニ前條ニ掲ゲシ如ク、商業ノ機關ヲ以テ之ニ托スル所ニシテ、其相場ハ都鄙一般取引上ノ標準トナリ、全國ノ經濟ニ連貫ス

ルヲ以テ、政府ハ公衆ノ爲メニ常ニ之ヲ監督視察セザルベカラズ。是此設立ヲ以テ苟モ放任ニ付セザル所以ナリ。今歐米各國ノ例ヲ徵スルニ、獨國ハ商務大臣、墺國ハ大藏大臣農商務大臣ノ允許ニ係リ、佛國ハ內務大臣ノ許可ニ屬シ、(地方ニヨリ政府之ヲ創立スルモアリ)米國ハ州廳ノ許可ヲ受クルガ如ク、孰レノ邦國ト雖モ官ノ允准ヲ受ケザルモノ莫シ。又取引所ハ商業上便宜必要ノ地方ニ於テ初メテ其效用ヲ全シ、其目途ヲ達スベキモノナリ。故ニ便宜不必要ノ地方ニ於テ無用ノ企テ勿ラシメンガ爲メ、特ニ商業上便宜必要ノ地方ニ於テ設立スベキ旨ヲ明示セリ。

第三條 取引所ニ集會シ賣買取引ヲ爲スベキ者ハ其取引所ニ於テ賣買取引スベキ物品ノ一種若クハ數種ノ商業ニ從事スル者ニ限ル、之ヲ會員トス。

會員ハ身元保證金一千圓以上一萬圓以下ヲ差出スベキモノトス。

(説明) 取引所ハ其者ノ性質タル素ヨリ株式ヲ以テ組織スベキモノニアラズ。若シ之ヲシテ今ノ米商會所株式取引所ノ如ク株式發行ノ組織ニ依ラシメバ、蓋シ弊害アルヲ免レザラン。歐米各國ノ例ニ徵スルニ皆其賣買取引ニ從事スル者ヲ以テ組織シ、一モ株式組織ヲ以テスルモノヲ見ズ。又取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲ス者ハ歐米ノ例ニ徵スルニ多少ノ差アリト雖モ、概ネ社員又ハ取引所ノ允可ヲ得タルモノニ係レリ。故ニ本邦取引所モ亦會員ノ設立組成スル

所トシ、此ニ集會シテ賣買取引ヲ爲スベキ者ハ取引所ニ於テ賣買取引スベキ物品ノ商業ニ從事スル者、即チ會員ニ限ルトセシ所以ナリ。其時ニ商業ニ從事シ云々ノ制ヲ設ケタルハ他ナシ、商業ニ從事セザル者ハ此ニ來テ賣買取引スベキ必要ナク、然ルニ從來米商會所株式取引所ニ於テハ實際商業ヲ事トセザル者モ亦來テ財利ヲ試ムルノ弊アルヲ以テナリ。

又會員ヲシテ身元保證金ヲ出サシムルノ理由ヲ摘擧スレバ、其一、取引所ハ巨商豪賈ノ集合シ大取引ヲ爲ス所ニシテ、小賣商業ト規模趣向ヲ異ニスルガ故ニ、小賣人ノ如キ薄資者ハ此ニ來リテ賣買取引ヲ爲スノ必要ナキコト、其二、恒産ナキ者ハ恒心ナシ、衣食足テ禮節ヲ知ルノ主義ニ則リ、富者ハ貧者ト伍スルヲ羞ヅルコト、其三、此身元保證金ハ直接ニハ仲買人ノ營業ニ幾分ノ保護ヲ與ヘ、間接ニハ賣買取引ヲシテ亦幾分カ確實ナラシメ、之ヲ要スルニ取引所ノ賣買取引ヲシテ鞏固ナラシムルノ效力アル事業等大略此ノ如シ、暫ク米國紐育府珈琲取引所ノ例ニ徵スルモ、其申合規約ヲ以テ會員タランコトヲ欲スル者ハ、入場料トシテ一千弗ヲ拂入ル、モノトセリ。畢竟スルニ當器ノ會員ヲ選擇シテ取引所ノ鞏固ヲ謀ルノ主意ニ出ルモノニシテ、是皆既往ノ經過ニ照徴シ、將來ノ進行ヲ慮リ行政上止ヲ得ザルノ方略ニ係ル、果シテ之ニ依ラバ取引所效用初メテ全ヲ期スベシ。其金額ハ一千圓以上一萬圓以下ノ範圍内ニ於テ會員ヲシテ適宜ニ之ヲ定メシメ敢テ負擔ニ堪ヘザルノ憂ナカラシメントス。

第四條 左ニ掲グル者ハ會員タルコトヲ得ズ。

一、婦女及未丁年者。

但婦女ノ代理人未丁年者ノ後見人ハ會員タルコトヲ得。

二、公權剝奪若クハ停止中ノ者。

三、身代限りノ處分ヲ受ケ未ダ義務ヲ終ヘザル者。

四、取引所ニ於テ除名セラレタル後滿ニケ年ヲ經ザル者。

(説明) 會員タルヲ得ザル項目ハ歐米各國殊ニ獨國伯林相場會所ノ例ニ則ルモノニシテ、取引所ヲシテ公正着實完全無缺ノモノタラシメンニハ本項制限ノ必要ナル論ヲ俟タザルナリ。然レドモ婦女若クハ未丁年者ニシテ商業ニ従事スルヲ禁ゼザル以上ハ、其夫若クハ父ノ遺業ヲ守リ、商業ニ従事スル者アランニ、取引所ニ就テ賣買取引ノ利益ヲ享受スルノ途ヲ缺ケバ何ヲ以テ商業ノ利便ト發達トヲ望ムベケンヤ。故ニ婦女ノ代理人未丁年者ノ後見人ヲシテ會員タルヲ得ベシト爲セル所以ナリ。而シテ本條ノ項目ニ適應セザル代理人若クハ後見人ヲシテ會員タラシメザルコトハ省令ニ於テ之ヲ制限スベシ。

第五條 取引所會員ハ其業務ヲ經理スル爲メ規約ヲ作り農商務大臣ノ認許ヲ受クベシ。

(説明) 取引所ノ規約ハ取引所整理上極メテ緊要ニシテ、以テ會員ヲ制御シ賣買取引ノ方法ヲ確定施行スベシ。故ニ最モ周到綿密不正惡弊ノ生ズベキ餘地ナカラシメンヲ要ス。之レ會員ヲシテ之ヲ議定セシメ農商務大臣査閲認許スベシトナス所以ナリ。獨佛等ノ例ニ徵スルモ亦同一トス。

第六條 取引所ニ役員ヲ置クコト左ノ如シ。

一、幹事長。

一、幹事。

一、常置員。

第七條 取引所役員ハ會員中ヨリ撰舉シ、農商務大臣ノ認許ヲ受クベシ。但幹事長及幹事ハ會員ノ協議ニ由リ會員外ヨリ撰舉スルコトヲ得。

(説明) 取引所ヲ整理スルガ爲メニ役員ヲ置キ統轄ノ權利ヲ有セシムルト役員ヲ會員中ヨリ撰舉スルトハ歐米各國皆然リトス。唯孛國ハ其組織異ナル所アルヲ以テ商業組合ノ代員商業會社ノ長老又ハ頭取及商法會議所ノ頭取并ニ役員トナルト雖モ、其他ハ皆取引所會員中ヨリ互撰ス。其任命ハ獨英米及露國共ニ互撰ニ止マルト雖モ、澳國ハ商務大臣ト大藏大臣トノ協議ヲ以テス。即其任ヲ重ズルナリ。本邦ノ如キハ已ニ米商會所株式取引所ノ例アリ故ニ役員ハ農商務大臣ノ認許ニ屬セリ。

役員ハ取引所ヲ整理シ、所内ノ人ヲ統御スルノ地位ニ在ルヲ以テ、名望ト才能トヲ併有セザル可カラズ。茲ニ遺憾トスルハ本邦商賈ニ才識ヲ具スルモノ甚ダ多カラズ。會員中ニ求メテ能ク取引所ヲ總括管理スルノ才幹アル者ヲ得難キノ恐れアリ。或ハ役員ノ任ヲ荷ハンヨリ寧ロ會員タルノ利益多キニ若カズトシ、之ヲ忌避スル者モ亦之ナシトセズ。故ヲ以テ常置員ハ必ズ會員中ヨリ選撰スルモノトシ、幹事長并ニ幹事ハ特ニ會員外ノ人ヲ擧ゲ得ベキ便方ヲ設ケ、廣ク當器者ヲ採用スル餘地ヲ留メ、幹事長幹事ハ事務役トナリ、常置員ハ評議役トナリ、共ニ相待テ以テ取引所ヲ保持經理スルノ任ヲ盡ス所アラシメントス。

第八條 幹事長及幹事ハ其在任中取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サズ。

(説明) 役員ハ其務タル頗ル重シ、最正直篤實ナラザルベカラズ。然ルニ其身役員ニシテ賣買取引ノ自由ヲ併有スルニ於テハ、職務ヲ放棄スルノ恐れアルノミナラズ、人ヲ制スルノ權ハ却テ人ヲ弄スルノ具トナリ、取引ノ正確ヲ妨ゲ遂ニ言フベカラザルノ弊害ヲ生ズルニ至ラン。是レ役員ト會員トハ判然之ヲ區分シ、各其職務ニ服事セシムル所以ニシテ、歐米各國皆然ラザルハナシ。只常置員ハ事務ニ專任スルモノニアラザルヲ以テ、賣買取引ヲ行フモ妨ゲナキナリ。

第九條 取引所ニ仲買人ヲ置ク、仲買人ハ會員ノ委託ニ由リ賣買取引ヲ爲スヲ以テ業トス。

取引所ニ於テ會員ノ爲スベキ賣買取引ハ總テ仲買人ニ委託スベキモノトス。

(説明) 取引所ニ於テ賣買取引スベキモノハ即チ會員ナリ。此多數ノ會員ヲシテ各自ニ締約セシムルモノト爲セバ紛争雜選得テ整理スベカラザルノミナラズ、或ハ私ニ其約ヲ結ビ或ハ對手ノ財産ヲ知悉セザルガ爲メ契約履行ニ及ンデ違約ヲ生ズルモノヲ出シ、市價爲メニ正格ナラズ取引爲メニ確實ナラザルニ至ラン。故ニ茲ニ仲買人ヲ置キ、會員賣買ノ委託ニ應ゼシムルハ最モ便宜必要トス。若シ之レナクンバ取引ノ業務ヲシテ秩然タラシムル能ハズ、歐米各國ノ取引所ニ於テ仲買人ヲ置クモ亦此意ニ外ナラザルベシ。又會員ノ爲ス賣買ハ仲買人ニ委託スベシト爲スモノハ即チ前項ニ附隨スベキ要項ニシテ、本邦ノ賣買法タル賣買者各之ヲ仲買人ニ委託シ、其賣ルト呼ビ買フト唱フル一聲ノ下、能ク數千萬石ノ賣買ヲ結了シ、其取引ヲシテ便易明確ナラシムルハ古來ノ習慣ニシテ、一朝遽カニ之ヲ變ズベカラズ。否敢テ變ズルヲ要セザルナリ。故ニ本條ヲ設ケテ一ハ取引所ノ秩序ヲ正フシ、一ハ賣買法ノ舊慣ヲ破ラズシテ以テ賣買取引ヲ確實ナラシメント欲スルナリ。

第十條 仲買人タルベキ者ハ取引所々在ノ地方ニ居住スル會員ニシテ營業保證金三千圓以上二萬圓以下ヲ差出スコトヲ要ス。但重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ滿期後五ケ年ヲ經ザルモノハ仲買人トナルコトヲ得ズ。

(説明) 仲買人ハ會員ノ委托ニ依テ賣買取引ヲ爲スベキモノタレバ、正實正確ナルヲ要ス。苟モ其行爲不經ニ涉ラバ取引所ノ效用ヲ損スルヲ免レズ。故ニ身元確實ニシテ業務ニ熟練ナルモノヲ撰マザルベカラズ。依テ會員中ヨリ仲買人ヲ置キ、取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引所違約損害ノ要償ニ充ンガ爲メ、營業保證金ヲ出サシメ、且其加入ノ時ニ當テ同業者ノ同意ヲ要スベシトナシ、之ヲ始メニ慎ミ、終ヲ全カラシメントス。今其實例ヲ歐米ニ徵スルニ、獨逸ニ於テハ商業同盟組合中ヨリ行狀端正ニシテ營業ニ練磨セル者ヲ撰ビ、社員總代立會ノ上商務省長官ノ面前ニ於テ公正ナル誓ヲナサシメ、英國ニ於テハ滿二十一年以上ノ英國國民ニシテ四年間取引所ノ賣買ニ從事シタル正確ノ社員三名ノ保證ヲ要シ、其本人ニ於テ四ケ年以内ニ不正ノ行ヒアリ他人ニ損害ヲ與ヘタルトキハ保證人ヨリ各五百磅ヲ出スベキコトヲ約シ、而シテ入社ヲ許容セラレタル時入社金ヲ出スヲ以テ定例トス。佛國ニ於テハ滿二十五年以上ノ佛國民ニシテ、銀行頭取或ハ豪商數名ニ於テ其名望ト業務ノ熟練トヲ證明セシ證書ヲ所持スルモノニアラザレバ取引員トナルコトヲ得ズ。露國ニ於テハ露國民ニシテ三十年以上ノ年齢ニ達シ、一等若クハ二等ノ商人ニ位スルコト、銀行ノ出納ヲ管理シタルコト、及同業組合員ニ於テ其人ノ仲買人トナルヲ許容シタルコトヲ證明スル證書ヲ出シタル上、日ヲ定メテ其撰舉ヲ施行シ、而シテ候補人トナシ猶且一定ノ試験ヲ經テ始メテ其職務ニ從事スルコトヲ得

セシム。埃國ニ於テハ二十四年以上ニシテ其就職前忠實ニ職務ニ盡スベキ誓約ヲ行ヒ、身元保證金ヲ出シ、商業會議所又ハ營業會議所ノ意見ヲ諮詢スル等、渾テ輕々營業ヲ許スモノニアラズ。又身元金ニ至テモ英國ハ一千磅、佛國ハ身元金ノ定メナキモ自ラ株主トナリ、其一株四百萬「フランク」ノ市價ヲ以テ現ニ之ヲ賣買シ、露國モ亦身元金ノ定メナキモ商人ノ等級ニヨリ之ヲ制限スル等、渾テ多額ノ保證金ヲ要セザルハナシ。而シテ營業保證金ノ額ヲ一定セザルモノハ其設立地方ノ商況ト其營業ノ種類ニ依リ多少ノ差アルヲ要スレバナリ。即チ取引所ヲシテ適宜之ヲ定メ、農商務大臣ノ認可ヲ受ケシメ、以テ彼此輕重ナカラシメントス。

第十一條 仲買人タラント欲スルモノハ農商務大臣ノ免許ヲ受クベシ。之ヲ受ケタルトキハ免許料金五十圓ヲ納ムベシ。

(説明) 仲買人ノ營業ニ免許ヲ與フルノ制ヲ設ケタルモノハ、仲買人ハ會員ノ委托ニ依リ賣買取引スベキ實働者タレバ、最モ其撰擇ヲ鄭重ニシ、善良ノ仲買ヲ求メンガ爲メナリ。之ヲ海外諸國ノ例ニ徵スルニ、獨國ハ取引所幹事長之ヲ撰定シ、政府ノ認可ヲ得テ免許證ヲ渡シ、英國ハ舊トハ府知事之ヲ免許シ、佛國ハ大統領之ヲ宣命シ、埃國ハ大藏省ト商務省トニ於テ之ヲ任命シ、露國ハ通商局之ヲ任命シ、又米國ハ州廳之ヲ取引所ニ委囑シ、何レモ官許ノ性質ヲ帶ビザルナシ。而シテ其免許料ヲ徵收スルガ如キハ英國ニ於テハ毎年五磅ヅツヲ出サシ

メ、佛國ニ於テハ宣命ヲ受クル時會所ニ二千五百法ヲ入レ、露國ニ於テハ三十「ルーブル」ノ免許料ヲ徵收シ、之ニ代ヘテ其人ニ銀牌ヲ授ケ、市場ニ於テ賣買スル間ハ必ず之ヲ佩用セシムルノ例ニ徵シ、又現時ノ米商會所株式取引所仲買認許料ニ照シテ本條ヲ定ムル所以ニシテ、此取引所ノ仲買人タルモノニハ露國ノ例ニ準ジ、銀牌ヲ授與佩用セシメ、以テ高尚ノ氣風ヲ養成セントノ趣旨ニ出ヅ。即免許料ハ此等ノ費用及ビ取締ノ經費ニ充ンガ爲メナリ。

第十二條 仲買人ハ自己ノ名義ヲ以テ賣買取引ヲ爲シ、其約定ヲ履行シ了ルマデノ間ハ之ニ關スル一切ノ責任ヲ負フベシ。

仲買人ハ取引所ニ於テ自己ノ爲メニ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ズ。

(説明) 仲買人ハ其賣買取引ニ付キ一切ノ責任ヲ負擔スルト、自己ノ爲メニ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ザルトハ歐米各國通ジテ皆同一ニシテ、其自己ノ賣買取引ヲ許サザルハ仲買人ノ本務タル會員ノ委託ニ依リテ賣買取引ヲナシ、其口錢ヲ得テ以テ勞ニ酬ユルニ在リ。若シ自己ノ賣買取引ヲ許サバ自ラ其本分ノ委託ヲ後ニシ、自己一身ノ利益ヲ先ニスル等ノ弊害ヲ生ジ易キガ故ヲ以テナリ。又自己ノ名義ヲ以テセシムルハ取引ヲ便易敏活ナラシメンガ爲メニシテ、且本邦從來ノ賣買法ニ依ラシメント欲セバ必ず然ラザルベカラザレバナリ。

第十三條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ一定ノ時間ニ於テシ、現物直取引及定期約定取引ノ

二様トス、其方法ハ農商務省令及取引所ノ規約ニ從フベシ。

(説明) 凡取引所ニ於テ賣買取引ヲ舉行スルニ時間ヲ一定スルト、賣買スル物品ハ何種ヲ問ハズ其賣買取引ニ現物直取引ト定期約定取引トノ二様ヲ以テスルコトハ、歐米各國皆然ラザルハナシ。唯其國ノ風習ニヨリ期限ノ長短取引ノ手續ヲ異ニスルノミ。其現物直取引トハ商品其他ノ現物若クハ見本ヲ供置シ、即日ニ賣買取引ヲ完了スルモノヲ云ヒ、定期約定取引トハ同ク賣買約定ヲ爲スト雖モ、即日其受渡ヲ終結セズ、期ヲ刻シテ取引スルノ方法ヲ云フ、米國佛國ハ物品、手形、證券ヲ問ハズ各六十日ヲ限り、米國ハ其取引所ノ申合ヲ以テ之ヲ定メ、佛國ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム、故ニ本邦ハ現行米商會所株式取引所定期賣買ノ例ニ據リ九十日ト定メ、之ヲ省令ニ掲ゲントス。而シテ其賣買取引ノ方法ハ専ラ舊慣古例ニ基キ正確正實ナルヲ要ス。故ニ其方法ニ至テハ商業ノ進歩ニ從ヒ時々變易ナキ能ハズ。之レ農商務省令取引所ノ規約ニ讓リタル所以ナリ。

第十四條 取引所會員タルト否トヲ問ハズ、取引所ノ賣買取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ諸物品ノ定期約定ヲ取引所外ニ於テ爲スコトヲ許サズ。

(説明) 定期約定取引ハ商業上尤モ便益必要ノモノニシテ、而シテ之ニ伴隨スル弊害亦多少ナカラズ。能ク之ヲ防範セント欲セバ一定ノ規約ヲ履テ進退セシムルコトヲ要シ、又取引所ノ

業務ヲ發揚シ、商業ヲ暢達セシメント欲セバ一定ノ市場ニ來集シ、交通ヲ計ラシメントコトヲ要ス。故ニ獨佛塊露等相場會所ノ存在スル邦國ハ條例規則ヲ設ケテ之ヲ箝制シ、商業ノ便益ヲ進捗シ、弊害ノ生ズベキ餘地ナカラシム。然ラバ取引所外ニ於テ之ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ定期約定取引ヲ爲スモノヲ禁制スルノ必要ナルハ多言ヲ贅セズシテ明カナリ。現存米商會所株式取引所條例中ニハ本條ノ明文ナシト雖モ別ニ布告ノ禁制スルアリ。

第十五條 取引所ニ於テ賣買シタル相場ヲ一定シ之ヲ公定相場トナス。

(說明) 凡ソ物品ノ相場ハ其所ニ由リ時ニ隨テ終始變動ヲ爲スモノニシテ、其昂低常ナラザルナリ。故ニ取引所ニ於テ公正ニ立ツル所ノ相場ヲ標的トシテ以テ一定ノ公定相場トナスベシ。若シ然ラズンバ他日賣買取引上相場變動ノ爲メ紛雜ヲ生ズルコトアラバ、法律上何ヲ以テ一定ノ相場トナシ、之ヲ處斷スルヲ得ンヤ。故ニ本條例中取引所ノ相場ヲ以テ動カスベカラザルモノトシ、之ヲ公通シテ標的トナサシムルハ獨佛兩國ノ例ニ據ル。

第十六條 取引所ノ設立及維持ニ關スル經費ハ會員之ヲ負擔スベシ。

(說明) 取引所ノ費用ハ其取引所ニ入場シ賣買取引ヲ爲スノ便ヲ享受スルモノノ負擔スベキハ論ヲ俟タザル所ナリ。

第十七條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引上ニ付差纏レヲ生ズルトキハ、取引所役員ニ申告シテ

仲裁和解ヲ受クベシ。此場合ニ於テ取調ヲ受クルトキハ代言人ヲ出スコトヲ許サズ。

(說明) 賣買取引ハ相互授受ノ間頗ル敏捷活潑ヲ要ス。苟モ取引ヲシテ遲鈍ナラシムル障害アラバ、其商機ヲ挫キ商品ノ運轉金融ノ流通ヲ塞グコト幾許ナルヲ知ラズ。故ニ此賣買上ニ起ル紛議ノ如キモ亦速カニ之ヲ調停和解シ、可成的事件ノ未ダ長大ナラザルニ先ダチ、洞通疏開ノ途ヲ得セシムルヲ要ス。是ヲ以テ佛國ノ如キ各商法裁判所ノ設ケアリテ、商法上ニ係ル訴訟ヲ審判スルニモ拘ハラズ、取引所ニ於テハ更ニ審理局或ハ管理局等ノ仲裁々判所ヲ置キ、此ヲ以テ終審トシ、他ニ出訴セシメザルノ法ヲ布キ、以テ現ニ之ヲ實行セリ。是賣買取引上ノ事件ヲ速了シテ其費用ト時日トヲ徒耗セシメザルノ便方ニ外ナラズ。殊ニ本邦ノ如キ商法ノ設ケナキ今日ニ於テハ、最モ此等ノ仲裁法ヲ以テ必要トナス。獨米露ノ例ヲ左ニ摘擧ス。獨國 幹事長二十一名中互撰シテ仲裁委員若干ヲ置キ、取引所内ノ差纏ヲ仲裁和解セシム。若シ之ニ不服ノモノアルトキハ、商務省ニ上告シテ行政上ノ裁定ヲ仰ギ之ヲ終審決トナス。米國 取引所中ニ仲裁掛ヲ置テ之ヲ處理シ、覆審掛其越訴ヲ受ケ以テ調停裁了ス。但不服者アル時ハ控訴上告スルハ妨ゲナシト雖モ、同國ニ於テ裁判所ニ訴ヘシモノ未曾テ之アラズト云フ。

露國 取引所中ノ仲裁々判ハ始審裁判所ト同一ノ權理ヲ有シ、其處分ハ政府定ムル所ノ刑法

ヲ適用シ、之ヲ判決宣告スルコトヲ委任セリ。

前ノ如ク取引所内ニ起ル差違ハ各國共ニ其所内ニ於テ仲裁審了スルヲ主トシ、殊ニ露墺兩國ニ於テハ取引所内ノ裁判ヲ終審トシテ此紛争ヲ決シ、更ニ越訴スルコトヲ許サズ。本邦ノ如キ商法裁判ノ制未立タザルガ故ニ、之ヲ民法ニ訴フルトキハ空ク時日ト費用トヲ徒消シ、商業上ノ活動ヲ遲緩ナラシムルハ實際著顯ノ事トス。乃彼此ヲ參酌シ、賣買取引上ヨリ生ズル膠轕ハ取引所役員ノ仲裁和解スル所ニ委セリ。然レドモ仲裁和解ノ要ハ其人ヲシテ心服セシムルニ在リテ、之レガ越訴ヲ許サズンバ枉屈ヲ免レズ。故ニ其仲裁和解ニ服セザルモノハ法廷ニ訴フルコトヲ得セシメントス。

又取引所役員取調中代言人ヲ用フルコトヲ許サザルハ米國ノ例ニ據ルモノニシテ、代言人ハ多ク法理ヲ争フガ爲メニ、動モスレバ時日ヲ遷延スルノ傾向ヲ來シ、却テ仲裁和解ノ本旨ニ戻ルノ嫌ヒアレバナリ。

第十八條 取引會員又ハ仲買人取引所ノ規約ニ背反シ、又ハ紛擾爭論ヲ醸シ、若クハ不正ノ行爲アルトキハ役員ノ決議ヲ以テ百圓以内ノ過怠金ヲ徴收シ、又ハ其入場ヲ一時中止シ、若クハ之ヲ除名スルコトヲ得、但仲買人ヲ除名スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ。

(説明) 取引所役員ハ取引所ヲ總轄シ其安寧秩序ヲ保持シ、其效用ヲ全フセシムルノ責任アリ。

隨テ本條ノ處分權ヲ委スルハ素ヨリ當然ノ事トス。歐米各國皆然ラザルハナク、其事體ニ由リ、或ハ過怠金ヲ徴シ、或ハ除名スルヲ得セシム。殊ニ露國ノ如キハ取引所ニ許スニ刑法適用ヲ以テスルノ例アリ。但過怠金ヲ制限シ置クハ猥リニ其額ヲ多收スルノ憂ヲ防グガ爲メナリ。獨國ノ如キハ五十「ターレル」ヲ以テ最高額トス。且此事現存米商會所株式取引所ニ於テモ既ニ其例アリ、而シテ仲買人ヲ除名スル場合ニ際シテ、農商務大臣ノ認可ヲ受クベシトナシタルハ、仲買人ハ原ト農商務大臣ノ認可ニ依テ營業スルモノナレバ、取引所役員此ノ認可ヲ取消シ得ベキ理由ナケレバナリ。

第十九條 農商務大臣ハ取引所ヲ監督シ、常時地方長官ヲシテ其業務ヲ監視セシムルモノトス。

(説明) 取引所ハ商業交通ノ樞機ニシテ其運動ヨリ生ズル影響ハ國家ノ大計ニ係リ、全國ノ經濟ニ及ボス事甚ダ大ナルハ既ニ前ニ説明スルガ如シ。故ニ其業務ハ常ニ監督ヲ加フルヲ要ス。而シテ地方長官ヲシテ常時之ヲ監視セシムルハ行政上ノ便宜ニ出ヅ。

第二十條 農商務大臣ハ取引所會員又ハ役員ノ決議若クハ役員ノ所爲ヲ不當ナリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ執行ヲ差止メ又ハ其役員ヲ退罷シ尙會員タルコトヲ停止若クハ禁止スルコトアルベシ。

農商務大臣ハ取引所ノ規約中ニ不適當ノ條項アリト認ムルトキハ之ヲ取消スコトアルベシ。

(説明) 取引所會員又ハ役員ノ決議ニシテ不正ナルカ、若クハ役員ノ所爲其宜ヲ得ザルコトアレバ之ヲ取消シ、若クハ其執行ヲ差止め、尙ホ役員ヲ退罷セシムル等ノ制ヲ設クルノ要ハ前條ノ説明ニ依テ之ヲ推知スルヲ得ベシ。若シ然ラズンバ何ヲ以テ取引所ノ安寧秩序ヲ保持シ、其效用ヲ全カラシムルコトヲ得ンヤ。又規約中ノ條項ニシテ弊害ヲ醸スノ憂アラバ、之ヲ取消シテ其弊源ヲ杜塞スルモ亦必要ノコトタリ。

第二十一條 農商務大臣ハ取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引上ニ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ、該仲買人ノ營業ヲ差止め、之ヲ調査シ情況ニ由リ其營業ヲ停止シ、若クハ禁止シ、又ハ之ニ關係シタル會員ヲ停止シ若クハ禁止スルコトアルベシ。

(説明) 本條ノ必要モ亦辯ヲ俟タズ、既ニ本邦米商會所株式取引所條例中其明文アリ、歐米各國モ亦其例アリ、墺國ハ斯ノ如キ場合ハ大藏大臣商務大臣ノ同意ヲ以テ、取引所内管理局ノ職權ヲ停止シ、其管理ヲ他人ニ委ネ、又ハ商業會議所ニ諮詢シタル後、一時或ハ永久其會所ヲ解散スルノ權利ヲ有セシメ、露國ハ罰金ヲ課シ又ハ退場ヲ命ズ。佛國ハ取引所ニ處分ヲ委託スルモ其實行ハ前ニ異ナラズ。而シテ取引所ヲ禁止解散スルノ制ヲ置カザルモノハ取引所ハ會員ノ集會シ賣買取引ヲスル所ニシテ、其實働者ハ仲買人ナリ。故ニ取引所ノ賣買取引ニ不正ノ行爲ヲ視ルハ多クハ會員ノ非ニアラズシテ即チ仲買人ノ非ニ係レリ。茲ヲ以テ其不經

ノ行爲アル仲買人ノ營業ヲ禁止セバ即チ其弊害ヲ杜絶スルニ足ルベシ。然ルモ會員之ニ勾串シテ不正ヲ圖ルアラバ、之レ亦停止若クハ禁止スベシト雖モ、敢テ取引全體ヲ禁止解散スルコト等ノコトナク以テ商業社會ノ便益ヲ失ハザラシメントス。

第二十三條 本條例施行ニ關スル諸規則ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ據ル。

(説明) 本條例ハ一定不變ノ要目綱領ナリ、其他ノ事項即取引所創立願手續、會員仲買人ノ入退及役員撰擧ノ方法其權利義務、賣買取引ノ方法、會議ノ方法及仲裁法等ノ細別ニ至テハ官制ニ因リ省令ヲ以テ之ヲ發布スベシ。

第二十三條 以下ハ別ニ説明ヲ要セザルヲ以テ之ヲ省ク。

取引所條例施行規則

第一章 取引所ノ設立

第一條 取引所ヲ設立セントスルトキハ條例第三條ニ適應スルモノ、東京大阪ハ五十人其他ノ地方ハ十五人以上發起人トナリ、左ノ事項ヲ詳記シタル設立願書ニ各自署名調印シ、履歷書ヲ添付シ、地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ差出スベシ。

- 一、取引所ノ名稱及位置。
- 二、設立ヲ要スル事由。
- 三、賣買取引スベキ物品ノ種類。
- 四、取引所會員タルベキ各種類商人ノ概數及身元保證金。
- 五、各種類仲買人ノ定員及其營業保證金。
- 六、賣買取引スベキ物品集散ノ實況及將來賣買取引高ノ目算。
- 七、取引所設立ニ關スル費用ノ豫算額及支出ノ方法。

第二條 地方長官ハ前條ノ願出ヲ受ケタルトキ取引所設立ノ要否ヲ考へ、發起人ノ身元ヲ糺シ意見ヲ具申スベシ。

第三條 取引所ハ地方ノ狀況ニ由リ第十條ニ定ムル物品中特ニ其種類ヲ限リテ設立スルコトヲ得取引所ノ設立ハ一地方一ヶ所ニ限ルモノトス。

第四條 農商務大臣ハ取引所ノ設立ヲ特許シタルトキ特許狀ヲ下付スベシ。

第五條 取引所設立ノ特許ヲ得タルトキハ發起人ニ於テ其發起人中ヨリ委員ヲ撰定シ、其氏名ヲ農商務省ニ届出ヅベシ。委員ハ假ニ役員ノ事務ヲ執行シ、取引所設立ノ特許ヲ得タル旨ヲ官報又ハ其地方重モナル新聞紙ヲ以テ廣告シ、取引所ヲ開クニ付必要ノ準備ヲ爲スベシ。

第六條 取引所會員ノ員數第一條第四項概數ノ三分ノ一以上ニ達スルトキハ總會ヲ開キ、役員ヲ撰舉シ取引所規約ヲ議定スベシ。

第七條 取引所ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ、但自餘ノ事項ト雖モ必要ト認ムルモノハ掲載スルコトヲ得。

- 一、取引所ノ名稱及位置。
- 二、會員入退ニ關スル規程。
- 三、會員ノ權利義務。

- 四、會員組合ニ關スル規程。
- 五、會員ノ手代入場ニ關スル規程。
- 六、役員撰擧ノ方法。
- 七、役員ノ職務章程。
- 八、各種類仲買人ノ定員。
- 九、仲買人開業廢業ニ關スル規程。
- 十、仲買人組合ニ關スル規程。
- 十一、仲買人ノ補助員入場ニ關スル規約。
- 十二、仲買口錢ニ關スル規程。
- 十三、身元保證金及營業保證金ニ關スル規程。
- 十四、賣買取引スベキ物品ノ種類。
- 十五、新株式賣買舉行ニ關スル規程。
- 十六、現物直取引ニ關スル規程。
- 十七、定期約定取引ニ關スル規程。
- 十八、賣買受託ニ關スル規程。

- 十九、證據金ニ關スル規程。
 - 二十、轉賣買戻ニ關スル規程。
 - 二十一、取引ノ結了ニ關スル規程。
 - 二十二、取引所市場整理ニ關スル規程。
 - 二十三、休暇日及市場開閉時刻ノ定限。
 - 二十四、賣買中止ニ關スル規程。
 - 二十五、公定相場ニ關スル規程。
 - 二十六、會議ニ關スル規程。
 - 二十七、帳簿及記録ニ關スル規程。
 - 二十八、取引所ノ經費ニ關スル規程。
 - 二十九、仲裁和解ニ關スル規程。
 - 三十、違約處分ニ關スル規程。
- 第八條 取引所役員ハ規約ノ認許ヲ得各種類仲買人ノ定員三分ノ一以上ニ達スルトキハ農商務省ニ届出ノ上賣買取引ヲ開始スベシ。但定員三分ノ一ニ充タザルモノハ其種類ニ限リ充ルヲ俟テ賣買取引ヲ開始スベシ。

第九條 取引所設立ノ特許ヲ得タル日ヨリ滿一ケ年以内ニ賣買取引ヲ開始セザルトキハ其特許ハ無效タルベシ。

第二章 取引所ノ規程

第十條 取引所ニ於テ賣買取引スベキ物品ハ左ノ種類ニ限ル、但地方特種ノ物品ニシテ農商務大臣必要ト認ムルモノハ其賣買取引ヲ許可スルコトアルベシ。

- 一、穀物（米麥大豆）
- 一、生 絲
- 一、製 茶
- 一、清 酒
- 一、繰 綿
- 一、燈 油
- 一、砂 糖
- 一、食 鹽
- 一、肥料（鱒搾粕、鯔搾粕、乾鱈）

一、株式（制法又ハ特許ニ依リ成立シタル諸會社ノ株券、公債證書、商業手形及金銀貨）

第十一條 取引所ニ本部及前條物品ノ種類ニ依リ各部ヲ置キ取引所ノ業務ヲ整理スベシ。

第十二條 本部ハ取引所全般ニ關スル事務ヲ總轄シ及金錢ノ出納ヲ掌リ、各部ハ部内ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル所トス。

第十三條 取引所ノ位置ヲ移轉セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ。

第十四條 取引所ニ關スル一切ノ文書ハ所名ヲ署シ役員ノ印章ヲ捺スベシ。但願伺届及契約書其他重要ノ文書ハ幹事長之ニ署名調印スベシ。

第三章 取引所會員

第十五條 會員タラント欲スルモノハ加入申込書ニ履歷書ヲ添付シ取引所役員ニ差出スベシ。

取引所役員ハ其職業履歷ヲ糺シ身元保證金ヲ差入レシメタル上加入ヲ承諾シ會員タル名簿ニ記名調印セシメ會員證ヲ交付スベシ。

第十六條 婦女ノ代理人若クハ未丁年者ノ後見人會員タラント欲スルトキハ加入申込書ニ履歷書及委任狀ヲ添付シ取引所役員ニ差出シ其承諾ヲ請フベシ。但條例第四條ニ觸ルル代理人若クハ後見人ハ會員タルコトヲ得ズ。

第十七條 會社又ハ組合其名義ヲ以テ會員タラント欲スルトキハ代表人ヲ定メ加入申込書ニ會社又ハ組合ノ規約及代表人ノ履歷書ヲ添付シ取引所役員ニ差出シ其承諾ヲ請フベシ。但條例第四條ニ觸ル、モノハ代表人タルコトヲ得ズ。

第十八條 會員退去セントスルトキハ其旨ヲ取引所役員ニ申出ヅベシ。

取引所役員ハ賣買取引其他計算上關係ナキヲ認メタル上承諾ヲ與ヘ身元保證金ヲ返付スベシ。

第十九條 會員ハ左ノ場合ニ於テ會員タルノ效ヲ失フモノトス。

- 一、廢業シタルトキ。
- 一、死去失踪シタルトキ。
- 一、會員ヲ除名セラレタルトキ。
- 一、會員ヲ禁止セラレタルトキ。
- 一、公權ヲ剝奪若クハ停止セラレタルトキ。
- 一、身代限リノ處分ヲ受ケタルトキ。

第二十條 會員ハ取引所役員ノ承諾ヲ得手代ヲシテ入場セシムルコトヲ得。

第二十一條 會員ハ適宜人員ヲ定メテ組合ヲ爲シ組合中ヨリ委員一名ヲ撰定シ取引所役員ニ届置クベシ。

委員ハ其組合會員ノ代議人トナリ取引所總會ニ列スルモノトス。

第四章 取引所仲買人

第二十二條 仲買人タランコトヲ欲スルモノハ營業願書ニ履歷書ヲ添付シ取引所役員ニ差出スベシ。

取引所役員ハ其身元ヲ糺シ部内同業者過半数ノ同意ヲ得タル上地方廳ヲ經由シテ其願書ヲ農商務省ニ進達スベシ。

第二十三條 農商務大臣仲買人タルコトヲ免許スルトキハ取引所役員ヲ經テ銀章ヲ下付スベシ。

役員ハ免許料及營業保證金ヲ差出サシメタル上之ヲ本人ニ交付スベシ。

第二十四條 仲買人ハ取引所ニ於テ立會中銀章ヲ佩用スベシ。

第二十五條 仲買人ハ其部内同業者五名乃至十名ヲ以テ組合ヲ爲シ組合中ヨリ組長一名ヲ撰定シ取引所役員ノ認可ヲ受ケ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムベシ。但組長ノ氏名ハ取引所役員ヨリ農商務省ニ届出ベシ。

第二十六條 仲買人ハ本規則第十條ニ定ムル物品中ノ一種ニ限リ賣買取引スベキモノトシ、其賣買取引スル物品ノ名目ヲ冠シ、其仲買人ト稱スベシ。但地方ノ狀況ト物品ノ種類ニ由リ他ノ一

種ニ限リ兼業スルコトヲ得、此場合ニ於テハ更ニ出願ノ手續ヲ爲スベシ。

第二十七條 仲買人ハ取引所役員ノ承諾ヲ得一名若クハ二名ノ補助員ヲシテ取引所ニ於テ其業務ヲ補助セシムルコトヲ得。

第二十八條 仲買人廢業セント欲スルトキハ其屆書ヲ取引所役員ニ差出スベシ。取引所役員ハ十日間其旨ヲ市場ニ揭示シ賣買取引其他計算書上關係ナキヲ認メタル上地方廳ヲ經由シテ其屆書ヲ農商務省ニ進達シ營業保證金ヲ返付スベシ。

第二十九條 仲買人ハ左ノ場合ニ於テ免許ノ效ヲ失フモノトス。其效ヲ失フトキハ本人又ハ相續人若クハ親族ヨリ取引所役員ヲ經由シ銀章ヲ農商務省ニ返納スベシ。

一、仲買業ヲ廢シタルトキ。

一、仲買業ヲ禁止セラレタルトキ。

一、仲買人ヲ除名セラレタルトキ。

一、重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ。

一、會員タルノ效ヲ失フタルトキ。

第三十條 仲買人銀章ヲ紛失シタルトキハ其事由ヲ詳具シ、取引所役員ノ保證ヲ得テ更ニ銀章ノ下付ヲ請フベシ。但此場合ニ於テハ手数料トシテ金十圓ヲ上納スベシ。

第五章 身元保證金及營業保證金

第三十一條 身元保證金及營業保證金ハ取引所會員其額ヲ定メ農商務大臣ノ認許ヲ受クベシ。農商務大臣ハ時宜ニ由リ其増額ヲ命ズルコトアルベシ。

營業保證金ハ物品ノ種類ニ由リ其額ヲ定ムベキモノトス。

第三十二條 身元保證金及營業保證金ハ左ニ掲グル證書ヲ以テ代用スルコトヲ得、但身元保證金預リ證書ハ營業保證金ニ兼用スルコトヲ得。

現金ヲ以テ差入レントスルトキハ取引所役員ノ指命スル銀行ニ預ケ入レ、其預リ證書ヲ以テ取引所役員ニ差入ルベシ。

一、預金局又ハ驛遞局ノ預リ證書。

一、公債證書。

(公債證書ハ農商務大臣ノ指定スル價格ニ據ルベシ)

第三十三條 身元保證金及營業保證金ヲ差出シタルトキハ取引所役員ハ預リ證書ヲ付與スベシ、其證書ハ抵當又ハ質入書入ト爲スコトヲ許サズ。

第三十四條 營業保證金額ニ減少ヲ生ジタルトキハ之ヲ補填スルニアラザレバ其仲買人ハ營業ヲ

爲スコトヲ許サズ。

第三十五條 營業保證金ハ之ヲ差入レタル仲買人ニ於テ賣買引上ノ遞約ヲ爲シタルトキ損害辨償ノ用ニ供スルモノトス。

第三十六條 身元保證金ハ之ヲ差入レタル會員ニ於テ其委托ノ事件ヨリ仲買人ヲシテ前條違約ノ處分ヲ受ケシメ、辨償金ニ不足ヲ生ジタルトキ其不足金ニ對シ辨償ノ用ニ供スルモノトス。

第六章 役員

第三十七條 幹事長幹事及常置員ハ會員一同ノ投票ヲ以テ會員中ヨリ撰舉シ、就任願書ヲ農商務省ニ差出スベシ。但會員外ヨリ幹事長及幹事ヲ撰舉スルトキハ其履歷書ヲ添付スベシ。

農商務大臣ハ時宜ニ由リ役員ノ改撰ヲ命ズルコトアルベシ。

第三十八條 幹事長ハ幹事ヲ率ヒテ取引所ノ事務ヲ總轄シ、總會及役員會ノ議事ヲ整理シ幹事ノ分掌ヲ定メ所屬員ヲ任免シ、及規約違反者ヲ處分スルノ權ヲ有シ、取引所一切ノ事務ニ付其責ニ任ズルモノトス。

第三十九條 幹事ハ指揮ヲ幹事長ニ受ケ各部ノ事務ヲ分掌シ仲買人會ノ議事ヲ整理シ及部下ノ屬員ヲ指揮監督スルノ權ヲ有ス。

第四十條 常置員ハ取引所全般ノ事務ニ付意見ヲ具シ幹事長ヲ輔佐シ金錢ノ出納及他ノ諸役員行爲ヲ監視スルノ權ヲ有ス。

第四十一條 幹事ハ幹事長事故アルトキ其事務ヲ代理スルノ任アルモノトス。

第四十二條 取引所役員ノ在職年限ハ滿一ケ年トス、但滿期復撰スルコトヲ得。

第四十三條 會員外ヨリ撰舉シタル幹事長及身元保證金ヲ取引所役員ニ差出スベシ。

第四十四條 取引所役員ノ印章ハ其印鑑ヲ農商務省ニ届出ノ上使用スベシ。

第四十五條 取引所役員其任ニ堪ヘザルカ又ハ不當ノ行爲若クハ懈怠アルトキハ臨時總會ヲ開キ其決議ヲ以テ退職セシムルコトヲ得、此場合ニ於テハ其顛末ヲ具シ農商務省ニ届出ベシ。

第七章 賣買取引

第四十六條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現物又ハ見本品若クハ一定ノ建物（賣買物品ニ付一定ノ標準ト爲シタルモノヲ云フ。例セバ米ナレバ東京ニ於テ武州米ヲ以テ標準ト定ムルガ如シ）ニ據リ賣買約定ヲ爲スベキモノトス。

第四十七條 現物直取引ハ現物又ハ見本品ヲ以テ賣買約定ヲ爲スモノトス。約定ヲ爲シタルトキハ其部幹事ニ届出テ翌日マデニ受渡ヲ爲スベシ。

第四十八條 約定期限内ニ於テ賣渡タルモノヲ買戻シ又ハ買受タルモノヲ他人ニ賣渡スコトヲ得。

第四十九條 定期約定取引ノ約定ヲ鞏固ナラシメンガ爲メ、取引所役員ハ賣買双方ヨリ相當ノ證據金ヲ差入レシムルコトヲ得、其額ハ豫メ之ヲ定メ農商務省ニ届出ベシ。

第五十條 定期約定取引ノ期限ハ三個月ヲ超ユルコトヲ得ズ。

第五十一條 賣買品ノ受渡ハ其部幹事立會ノ上執行完結セシムベシ。

第五十二條 賣買品ノ受渡ハ制法又ハ特許ニ依リ成立シタル倉庫ノ預リ手形ヲ以テ其用ニ供スルコトヲ得。

第八章 仲買口錢

第五十三條 仲買人ハ賣買ノ委托ヲ受クルトキハ其報酬トシテ口錢ヲ收受スベシ。

第五十四條 前條ノ口錢ハ其物品ノ種類ニ由リ豫メ其額ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ。

第九章 公定相場

第五十五條 公定相場ハ取引所ニ於テ日々賣買取引スル物品ニ付左ノ種別ニ依リ現物直取引ト定

期約定取引トテ區畫シ取引役員之ヲ調定シ表ヲ作リテ市場ニ相示スベシ。

寄付相場（賣買立會ノ最初ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ）

大引相場（賣買立會ノ最終ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ）

最昂相場（賣買立會中最モ高キ直段ヲ云フ）

最低相場（賣買立會中最モ低キ直段ヲ云フ）

平均相場（賣買立會中相場ノ異ナルモノヲ加ヘ更ニ其數ニテ除シタル直段ヲ云フ）

第十章 取引所經費

第五十六條 取引所經費ノ豫算額及其賦課徴收ノ方法ハ總會ニ於テ之ヲ議定シ農商務省ニ届出ツベシ。

第五十七條 取引所ノ經費ハ毎年兩度收支ノ決算ヲナシ會員一同ニ報告スベシ。

第十一章 會議

第五十八條 會議ヲ分テ總會仲買人會役員會ノ三トス。

第五十九條 總會ハ委員一同集會シ毎年二回之ヲ開クモノトス。

第六十條 總會ニ於テ議スベキ事項ハ左ノ如シ。

- 一、賣買取引上ノ利害得失ニ關スル事項。
- 二、取引所規約ノ改正。
- 三、取引所經費ノ豫算額及賦課徵收ノ方法。
- 四、取引所維持ニ關スル事項。
- 五、役員ノ撰擧。

第六十一條 仲買人會ハ仲買人集會シ毎年二回總會ニ先チ之ヲ開クモノトス。

第六十二條 仲買人會ニ於テ議スベキ事項ハ左ノ如シ、其決議ハ總會ノ議案トナスモノトス。

- 一、營業上ニ關スル利害得失。
- 二、賣買取引ニ關スル規約ノ改正。
- 三、仲買口錢額。

第六十三條 役員會ハ幹事長幹事及常置員集會シ期ヲ定メテ之ヲ開キ、取引所事務ノ整理賣買取引上ノ便否及金錢取扱ノ事ヲ議スルモノトス。

第六十四條 總會及仲買人會ハ其總員三分ノ一以上ノ請求又ハ幹事長ノ意見若クハ常置員衆議ニ依リ臨時開會スルコトヲ得。

第六十五條 會議ハ總員ノ半ニ滿タザレバ議事ヲ開クコトヲ得ズ。但急遽ノ事件ハ此限ニアラズ。

第六十六條 會議ハ過半数ニ由テ決ス。可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル、但第六十二條ノ議案ハ出席員三分二以上ノ同意ニアラザレバ否決スルコトヲ得ズ。

第六十七條 總會及役員會ハ幹事長之レガ議長トナリ、仲買人會ハ幹事之レガ議長トナルベシ。

但第四十五條ノ場合ニ於テハ議員中ヨリ議長ヲ撰擧スルコトヲ得。

第六十八條 總會ヲ開カントスルトキハ開會ニ先チ議件ヲ詳記シ農商務省ニ届出ツベシ。農商務大臣ハ時宜ニ由リ開議ヲ差止メ又ハ中止スルコトアルベシ。

第十二章 報 告

第六十九條 取引所役員ハ左ニ掲グル件々ヲ農務省ニ報告スベシ。

- 一、毎日公定相場表。
- 二、每半季功程及計算報告。
- 三、每半季功程及計算報告。
- 四、每半季全員入退報告。

第七十條 取引所役員取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引上ニ異狀アルトキハ其時々農務省ニ報告スベシ。

第十三章 帳簿

第七十一條 取引所役員及仲買人ハ必要ノ諸帳簿ヲ備ヘ名目用法ヲ農商務省ニ届出ベシ。其帳簿ハ記載ノ末日ヨリ滿五ケ年間保存スベシ。

第七十二條 取引所役員及仲買人ハ毎日取扱タル事項及金錢ノ出納ヲ帳簿ニ詳記スベシ。農商務大臣ハ時宜ニ由リ帳簿ノ補正ヲ命ジ又ハ記載ノ方法ヲ指示スルコトアルベシ。

第十四章 仲裁和解

第七十三條 取引所ニ仲裁掛ヲ置キ賣買取引上ニ付生ズル一切ノ差違レヲ仲裁和解スベシ。

第七十四條 仲裁掛ハ幹事長主裁トナリ、幹事及常置員ヲシテ列席セシメ、一定ノ期日及時間ニ於テ其事實ヲ審査シ仲裁和解ヲ爲スモノトス。

仲裁和解ハ掛員ノ衆議ヲ以テ決スベシ。可否同數ナルトキハ幹事長ノ決スル所ニ依ル。

第七十五條 仲裁和解ヲ請フ者ハ口頭又ハ書面ヲ以テスルモ妨ゲナシ、但仲裁掛ニ於テ必要ト認

ムル場合ニ於テハ書面ヲ出サシムルコトヲ得。

第七十六條 仲裁和解ヲ請フモノ其取調ヲ受クルトキハ自身出頭スベシ。止ヲ得ザル事故アルトキハ會員ハ手代仲買人ハ補助員ニ限り代理タラシムルコトヲ得。

第七十七條 仲裁掛ハ仲裁ノ言渡ヲ爲ストキ掛員其言渡書ニ記名調印スベシ。但細事ニ限り口頭ヲ以テ言渡スモ妨ゲナシ。

第七十八條 仲裁掛ハ必要ト認ムルトキ會員中ヨリ證據人ヲ召喚スルコトヲ得、此場合ニ於テ會員ハ理由ナク之ヲ辭スルコトヲ得ズ。

第七十九條 仲裁掛ハ其仲裁和解ヲ爲シタル事件ヲ詳記シ之ヲ保存スベシ。

第八十條 仲裁掛ハ仲裁和解ニ關スル費用ヲ曲者ヨリ差出サシムルコトヲ得。

第八十一條 仲裁掛ハ會員外ノ者ヲ以テ仲裁事件ノ顧問トナシ又ハ仲裁ノ席ニ參セシムルコトヲ得。

第十五章 違反處分

第八十二條 本規則ニ違ヒタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金又ハ二日以上二十五日以下ノ禁錮ニ處ス。

取引所條例施行規則ノ説明

取引所ノ要旨ハ條例ノ逐條ニ就キ曲サニ之ヲ辯晰シ、且添フルニ理由書ヲ以テセリ。今又施行規則ノ每條ヲ説明スルハ却テ煩冗ニ渉ルノ恐レアリ、因テ止タ其要項ヲ略述セントス。

第一章

本章ハ取引所ヲ設立セントスル者ノ履行スベキ手續ト心得ベキ事項ヲ開示ス。

第一條ニ於テ取引所發起人ノ定數都鄙ニ由テ異同アルハ其賣買取引ノ高、土地ノ冷熱ニヨリテ差アリ、隨テ會員ノ數モ亦各異ナルベキヲ以テナリ。而テ其發起人ノ定數稍少キニ失スル觀アルモ是レ其設立ヲ促ガス爲メニシテ、實際ノ事情ヲ酌量考定スル所ナリ。

第三條ニ取引所ハ一地方ニ於テ一ヶ所ニ限ルトナスハ百貨ノ取引ヲ一所ニ湊合シ、以テ交通運轉ヲ敏活ニシ又取締ヲ容易ニシ經費ヲ省減シ而テ取引所ヲ起ス所以ノ本旨ニ通セント欲シテナリ。

第五條發起人中ヨリ委員ヲ撰定シ假ニ役員ノ事務ヲ執行セシムルノ要ハ、取引所設立ノ認許ヲ

得バ會員ヲ募集セザルベカラズ。會員ヲ募集スルニ至テハ第三章ニ於テ規定スル會員加入ノ手續ヲ執行處理セザルベカラズ。

又取引所開市ニ付萬般ノ準備ヲナサルベカラズ。故ニ委員ヲシテ之ガ局面ニ當リ開市遅ルノ憂ナカラシメントス。

第七條取引所ノ規約ハ周到明確ナランコトヲ要ス、故ニ豫メ其中ニ掲グベキ要項ヲ明示シ、之ニ依テ以テ立案議定セシメバ各取引所ノ規約自ラ整然タランコトヲ欲スルナリ。

第二章

本章ハ取引所ノ規程ヲ示スモノナリ。其第十條ニ於テ賣買取引スベキ商品ヲ限リタルハ需用供給ノ多寡ニ隨ヒ、標準ヲ產額百萬圓ニ超ヘ、全國偏ク需用スルモノニ取レリ。或ハ其額百萬圓ニ上ルモ建物ヲ定メ格付ヲ爲シ難クシテ、此方法ニ準スベカラザルモノ、又ハ從來ノ慣習ニ由リ此所ニ賣買取引スルコトヲ要セザルモノハ之ヲ省ケリ。茲ニ掲グル商品ノ外一地方或ハ特ニ取引ヲ要スルモノハ本條但書ニ從フベシ。

第三章

本章ハ會員入退ニ關スル規程ニシテ其第十七條ニ會社又ハ組合ノ名義ヲ以テ會員タラント欲スルトキハ代表人ヲ定メ加入セシムルノ制ヲ設ケタルモノハ、取引所ニ於テ賣買取引スベキ物品ハ悉ク本邦重要ノ商品タレバ、此等ノ商業ニ從事スル會社若クハ組合モ亦多カラントス。然ルニ取引所ニ就テ賣買取引ノ便益ヲ享受セザランニハ、其商業ノ發暢得テ望ムベカラズ。況ンヤ會社若クハ組合ヲシテ、此便宜ヲ享受セシメザルノ理ナキニ於テヤ。然レドモ單ニ會社組合ヲ以テ會員トナサバ、會社員若クハ組合員ハ其何人ヲ問ハズ皆取引所ニ入場スルヲ得ベクシテ條例第四條ノ本旨ニ違ハントス。是代表人ノ制ヲ設ケタル所以ナリ。又第廿一條ニ會員ハ適宜組合ヲナシ其組合中ヨリ委員即チ代議人ヲ撰定シ、總會ニ列セシムルモノトナスハ、多數ノ會員ヲシテ悉ク議場ニ立テ討議セシメバ、徒ニ議論冗長ニ涉リ議事ノ整理ヲ缺クノ憂アルヲ以テナリ。

第四章

本章ハ仲買人ノ入退及其心得ベキ事項ヲ示ス、節廿二條ニ於テ仲買人タラント欲スルモノハ其部内同業者ノ同意ヲ要スベシトナスハ、其同業者間賣買取引ヲ爲スニ方リ互ニ信ヲ措クニアラザレバ其事能クスベカラズ、豫メ同業者ニ諮リテ新入ヲ許スハ理ノ當ニ然ルベキ所ナレバナリ。佛獨英米皆然ラザルハナシ、第廿四條ニ仲買人ハ賣買立會中銀章ヲ佩用スベシトセシハ、露國ノ例

ニ據ル、又本邦米商會所ノ實驗ニ由リ其ノ取引所ノ整理ニ必要ナルヲ以テナリ。

第廿六條本文ニ於テ仲買人ノ兼業ヲ許サルハ其業務ニ練熟シ、且精細ナルヲ要シ、加之此市場ニ於テ賣買スベキ物品ハ皆需要供給ノ最多ク二三ノ經營ニ兼涉スルノ違アラザルヲ以テナリ。然レドモ其物品ト地方ノ狀況ニ由リ兼業ヲ必要トスルノ場合アルハ、假令バ米ト肥料トノ如シ。且海外ニ於テモ亦其例尠カラズ、是レ但書ヲ以テ一種ノ兼業ヲ許セル所以ナリ。其兼營ヲ爲スニ方テハ更ニ身元保證金ヲ入レ其營業ノ責任ヲ負ハシムベキハ勿論ナリトス。

第廿七條ニ於テ補助員一名若クハ二名ヲ取引所ニ出シ、其業務ヲ補助スルヲ得セシムルハ、賣買周旋ノ間補助者ナクンバ能ク其事ヲ辨ズベカラザルガ故ニシテ、佛國ノ如キハ他ノ仲買人ヲシテ代理セシムルコトヲ得、又補助員一名若クハ二名ヲ使用シ賣買ノ結約ヲナスコトヲ得セシメ其他英獨等ノ國ニ於テモ亦補助員ヲ用フルノ例アリ。

第五章

本章ハ會員及仲買人ヨリ出スベキ身元保證金營業保證金ノ規程ヲ明ニス。其之ヲ徵スルノ要ハ既ニ條例ニ於テ説明セシ如ク無資ノ徒ヲシテ會員トナリ、又ハ仲買人タルコトヲ得ザラシメントスルニ在リ。又仲買人ノ營業保證金ヲ以テ違約ノ賠償ニ充テシムルハ固ヨリ當然ノコトナリ。而

シテ仲買人ニ於テ賣買取引上ノ違約ヲ爲スモノハ多クハ其源ヲ會員ニ發ス。然ルニ仲買人ノミヲ違約ニ處シ、其營業保證金ヲ以テ辨償セシメ、尙不足ヲ生ズル場合ニ於テ之ヲ相對私訴ニ任セバ或ハ仲買人ヲシテ倒産ノ苦境ニ陥ラシムルコトナキヲ保シ難ク、頗ル不公平ナリトス。故ニ會員ノ身元保證金ヲ以テ其不足ヲ辨償セシメ、以テ賣買ヲ確實ニシ信用ヲシテ厚カラシメントス。而シテ其保證金額ヲ取引會員ノ定ムル所ニ任セタルハ都鄙ト品類ニ依リ賣買取引ニ繁閑ノ差アリテ茲ニ一定ノ適度ヲ得ザルヲ以テナリ。

第六章

本章ハ役員ノ撰擧及其權限責任等ヲ示ス、其役員ハ農商務大臣ノ認許ヲ受ケテ就任シ、又農商務大臣ハ時宜ニ由リ改撰ヲ命ズルコトアルベシト爲スハ、此取引所ノ業務ハ全國ノ經濟ニ關係シ、尋常一商社ノ類ニアラズ、或ハ取引所ニ利ニシテ一般社會ニ不利ナルモ未知ルベカラズ。故ニ全般ノ經濟ヲ主裁スルノ衙門ニ於テ其役員ノ當否ヲ鑑視スルコト必要ナルヲ以テナリ。

第七章

本章ハ賣買取引ノ方法手續ヲ示スモノニシテ、其第四十六條ニ一定ノ建物ニ據ルノ制ヲ設ケシ

所以ハ商品中見本ヲ以テ賣買ヲ爲スコト能ハザルモノアルガ故ニシテ、即物品ノ種類品等數段ノ差アル場合ニ於テ一定ノ標準ヲ設ケ、是ニ據テ以テ賣買ヲ約定シ受渡ヲ結了セシムルモノトス。東京米商會所ニ於テ武州中米ヲ建物トナシ以テ賣買ノ約ヲ定メ、格付ニ照シ他國ノ米ヲ以テ其受渡ヲナスノ類即是ナリ。此他株式取引所ニ於テモ亦七朱利付ノ公債ヲ建物トナシ、之ニ準ジテ他ノ公債證書ヲ授受スルヲ以テ例トナス。要スルニ建物ハ定期賣買上苟モ缺クベカラザルモノナリ。第四十八條ニ轉賣買戻ヲ許セシハ、從來ノ舊慣ニ仍リ生意ヲ發揚センガタメ必要ナレバナリ。歐米ノ例ヲ按スルニ皆然リ。

第四十九條ニ於テ證據金ヲ差入ル、ト否トヲ取引所役員ニ任ジタルハ會員及仲買人ハ既ニ多額ノ身元保證金及營業保證金ヲ取引所ニ出シ、以テ賣買契約ノ擔保ニ當ルニ足ルベシ。故ニ賣買ノ時別ニ證據金ヲ差入レシムルノ要ヲ見ズ。況ンヤ仲買人互ニ信ヲ措キテ取引スルニ於テヲヤ。

第八章

本章ハ仲買人ノ口錢高タルコト、其收受スベキ口錢ノ事ヲ示スモノニシテ、營業ノ種類ニ由リ口錢ノ異ナルハ固ヨリ當然トス。而シテ認許ヲ得セシムルハ過重ニ失スルノ弊ヲ避ケンガ爲メナリ。澳魯兩國ノ如キ政府ニ於テ之ヲ定ムルモ蓋此意ニ外ナラザルベシ。

第九章

本章ハ公定相場ノ種類及其算出ノ方法等ヲ示スモノニシテ、公定相場ヲ要スル所以ハ既ニ條例ニ於テ之ヲ詳説セリ。但佛國相場表調製ノ方法ヲ一言センニ、毎日取引契約中首尾ノ相場ト最高最低相場ノ四者ヲ記載シテ直ニ取引場内ニ揭示スルヲ以テ例トス。

第十章

本章ハ取引所ノ經費支出ノ事ニ係ル其賦課徵收ノ方法ニ至テハ仲買人ノ賣買高ニ應ジテ支出セシムルコトアルベク、又ハ會員ノ人頭ニ配付スルコトアルベシ。要スルニ取引所ニ於テ自ラ之ヲ議定スルニアリ。

第十一章

本章ハ會議ノ種類、會議ニ付スベキ事項及議事ノ規程等ヲ掲グルモノナリ。

第六十二條ニ於テ仲買人會ノ議決セシ事項ヲ總會ノ議案トナシ、又第六十六條ニ於テ其議案ハ出席員三分ノ二以上ノ同意ニアラザレバ否決スルコトヲ得ズトナセシハ、取引所ニ於テ會員ノ爲

スベキ賣買取引ハ舉テ之ヲ仲買人ニ委託シ、會員自ラ之ニ從事セザルノ制ナレバ、賣買取引上ノ便否ニ付テハ其痛痒ノ感自ラ淺深ナキ能ハズ。當局者タル仲買人ニ於テ取引上ニ關スル規約及口錢額等ヲ議定セシメ、之ヲ總會ニ附シ審議決定セシメバ彼是權衡ヲ得、其規約ハ以テ周到明確タルヲ得ベシ。然レドモ會員ハ仲買人ヨリ多數ヲ占ムルモノナレバ、自ラ多數壓制ノ弊ナキ能ハズ。依テ三分ノ二以上ノ同意アルニアラザレバ否決スルコトヲ得ズトシ、其議案ニ幾分ノ勢力ヲ與ヘテ多數壓倒ノ憂ナカラシメントス。

第六十七條但書ニ於テ議長ヲ議員中ヨリ撰舉スル所以ハ、役員ノ當否ヲ議スルニ方リ、幹事長之ニ長タルハ甚不可ナレバナリ。獨逸ノ如キハ議事若シ役員ノ利害ト議員一同ノ利害ト相抵觸スルモノニ涉レバ、役員ヲシテ其議ニ與ラシメザルハ勿論、其議事中ハ議場ニ入ルヲ許サルヲ以テ例トス。

第六十八條ニ於テ議件ヲ届出デシメ及時宜ニ由リ開議ヲ差止メ、若クハ中止スルノ制ヲ設ケシハ、取引所ノ業タル當ニ其者一己ニ止ラズ、公衆一般ノ利害ニ關シ其議或ハ公衆ヲ害スルノ事ニ涉ルナキヲ保スベカラザルヲ以テナリ。

第十二章第十三章及第十四章

三	等	〃	〃	金二百圓
四	等	〃	〃	金百八十圓
五	等	〃	〃	金百五十圓

第二條 仲買人營業稅ノ等級ハ大藏大臣農商務大臣之ヲ指定スベシ。

第三條 税金ハ毎年四月十月前半ケ年分ヲ取引所役員ニ納ムベシ。取引所役員ハ其月内ニ地方廳ニ上納スベシ。

第四條 税金ハ開業シタル現月ヨリ月割ヲ以テ上納スベシ。又廢業シタルトキハ其現月マデノ月割ヲ以テ上納スベシ。

第五條 兼業スルモノハ其兼ヌル所ノ營業稅ヲ上納スベシ。

第六條 税金ハ仲買人營業保證金ニ對シテ第一先取ノ特權ヲ有ス。

第七條 第三條ノ期限内ニ税金ヲ上納セザルトキハ又取引所役員其取立ヲ怠リタルトキハ其不納額三倍ノ罰金ニ處ス。

取引所收稅規則法案ノ理由

取引所ハ本邦未曾有ノ事業ニシテ、其規模宏大素ヨリ米商會所株式取引所ト同視スベキモノニ

アラズ。宜ク保護監督ヲ加ヘテ以テ其業務ノ發達ヲ圖ラシムベシ。既ニ保護監督ヲ加ヘントセバ須ク之レガ費用ヲ要スベク、故ニ之ニ課スルニ相當ノ稅ヲ以テスルハ理ノ當ニ然ルベキ所ナリ。唯極メテ其稅ヲ輕クシテ、生意ヲ發揚シ、商品運轉ノ道途ヲシテ梗塞ノ患ナカラシメンコトヲ要ス。請フ米商會所ノ實例ニ照シテ少シク之ヲ辯ゼン。夫レ明治十六年以前ニ在テ定期賣買ヲナスニ、一石ノ相場ヲ五圓五十錢ト假定セバ、其賣買委託人ハ拾石ニ付會所手数料八錢八厘、仲買口錢八錢二厘五毛、合セテ十七錢五毛ヲ拂フニ過ギザリシニ、十六年仲買人稅則發布ノ後ハ、會所ノ手数料五錢五厘、仲買人稅金二十七錢五厘、仲買口錢八錢二厘五毛、合計四十一錢二厘五毛ヲ出サザルヲ得ズ。之ヲ其發布前ニ比スレバ拾石ニ付實ニ二十三錢七厘五毛ノ増加ヲ見ル。是ニ於テ會所ニ就テ公然賣買ヲ爲スモノハ頓ニ其數ヲ減ジ、更ニ仲買人若クハ會所近傍ノ家屋ニ相會シ、或ハ名ヲ茗會ニ托シ、或ハ面ヲ醜集ニ粧ヒ、其實ハ竊ニ會所ノ相場ヲ標準トナシ、唯其差金ヲ以テ輸贏ヲ決シ、直ニ空相場ヲナスモノ相踵デ起リ、靡然トシテ密賣買ノ弊風ヲ增長セリ。昨年稅則ノ變更以來大ニ其負擔ヲ輕減セリト雖モ、之ヲ十六年以前ニ比スレバ拾石ノ賣買ニ付、要スル所尙多キコト七錢一厘五毛ニシテ、未ダ十六年以前ノ景況ニ回復セズ。夫レ商民ハ利ニ趨クコト殊ニ敏捷ニシテ、苟モ利ノアル所ハ直前急進惟後レンコトヲ恐ル。而シテ利ノ乏シキ所ハ即之ヲ忌避スルコト亦甚切ナリ。故ニ現行ノ稅法ニ依テ賣買ヲ爲シ、果シテ其利得アラバ政府ノ特許ニ

安ジ公然ノ賣買ヲ喜ビ、會所ニ來會群集スベキヤ必セリ。然ルニ之ヲ避ケ却テ法律ヲ憚ラズ、國禁ヲ恐レズ、或ハ密賣ト變ジ、或ハ袂相場ト化シ危險ヲ蹈テ省ミザルモノハ蓋シ自ラ好デ然ルニ非ズ、實ニ不得止ニ出ルモノアラン。且此稅ハ酒煙草等ノ如キ有形物ニ課スルモノトハ大ニ其趣ヲ異ニスル所アリ、乃其賣ルト呼ビ買ハント唱フルモ唯其聲ノミ、其形アルニアラズ、即チ無形ナル其聲ニ課スルニ稅ヲ以テス、是故ニ其稅一朝重ニ失セバ賣買者ト共ニ其聲ヲ潛メテ消散シ、一物ノ課稅スベキモノナキニ至ルハ必然ナリ。既ニ十六年收稅改革後頓ニ其數ヲ減ジタルモ亦以テ之ヲ證スベシ。

稅額重キニ失スレバ則營業ノ發達ヲ妨グルノミナラズ、收額モ亦自ラ減ズルハ前段說ク所ノ如シ。試ニニ海外ノ例ヲ按ジ其賣買ニ係ル稅額ヲ舉レバ別紙ノ表ノ如ク、獨逸ハ一萬分ノ一、佛國ハ賣買ノ各二萬分ノ一、英國ハ五磅以上賣買毎ニ一片ヲ課スルノ制ニシテ、今假ニ一口ノ賣買ヲ二百磅トナセバ賣買各四萬八千分ノ一ニ當ル。別ニ仲買人ニ課スル營業稅又ハ所得稅ヲ以テスルモノアルモ、其額僅々ノミ。今回創立スル所ノ取引所ノ課稅即此等ノ例ニ徵シ、凡賣買高一萬分ノ一ヲ標準トシ、以テ其率ヲ定メラレンコトヲ欲ス。其賦課方法ニ至テモ亦頗ル得失アリ、今ノ米商會所株式取引所ノ如ク其賣買高ヲ標準トシテ課稅スルトキハ假令公平ナルモ、其徵收ノ方法煩雜ニシテ且密商脫稅ノ弊ヲ免レズ。又歐洲諸國ノ例ニ據リ印紙稅トナセバ稍之ニ勝ル所アルガ

如シト雖モ、是亦全ク脫稅ノ患ヲ絶ツ能ハズ。更ニ取引所稅トシテ、一定ノ年稅ヲ課スルカ、若クハ仲買人營業稅即分頭稅トナスノ簡易ニシテ且正確ナルニ若カズ。然レドモ取引所ハ損益共擔ノ集合體ニアラズ、各仲買人ノ經濟ハ互ニ相連貫セズ、其條例ニ於テ取引所ヲ認メ一個人ト爲サザルニ於テハ直ニ仲買人ニ課稅シ、會員ヲシテ間接ニ之ヲ負ハシムルヲ以テ最モ妥當ナリトス。夫レ此分頭稅ハ賣買多キモノニ輕ク、其少キモノニ重キノ感アリ、稍公平ナラザルノ嫌ナキニアラズ。然レドモ仲買人ハ同一ノ條例規則ニ從ヒ同一ノ權利義務ヲ負ヒ、同一ノ事業ヲ營ムモノナリ。之ニ同一ノ稅ヲ課スルハ各種ノ人民ニ對シ平等均一ノ分頭稅ヲ課スルモノト同視スベカラズ。且賣買ノ多少ヲ論ゼズ同一ノ稅ヲ課スルニ於テハ各其賣買高ヲ增加センコトヲ勉メ、逸居不良ノ策ヲ講ズルノ暇ナク、公然市場ニ立テ真正ノ競爭ヲナシ、其誠實ニシテ勉ムルモノハ勝利ヲ獲、狡猾ニシテ逸スルモノハ劣等ニ陥リ、其極仲買人ノ地位ヲ高尚ニ躋スノ益アルベシ。乃仲買人ノ口錢ヲ凡賣買高ニ千分ノ二トナシ、其口錢ノ二十分ノ一、即賣買高一萬分ノ一ヲ標準トシ、之ヲ分頭稅ト爲シテ賦課スルニ於テハ乃密商脫稅ノ根本ヲ絶チ、奸商黠賈モ亦其術ヲ施ス所ナキニ至ラシメンカ。

前段具申スル所ノ稅則ニ依リ其納ムル所能ク幾許ノ額ニ上ルヤ、今日ニ之ヲ豫定スルコト極メテ難シ。要スルニ取引所ハ獎業開産ノ源委ヲ改進シ、間接ニ收稅ノ額ヲ增加スベキガ故ニ既ニ此

ヲ以テ則足レリトナシ、更ニ之ヨリ多額ノ稅ヲ課出セザランコトヲ要ス。
(各國商品取引所稅率一覽表アルモ複雜ニツキ略ス)

伊東巳代治

口 上 書

附 願 書

謹デ奉申上候。今般新ニ取引所條例御制定相成遠カラズ御發布可相成趣ニ付テハ、我米商會社株式仲買人共不容易心痛仕、是迄百方哀願愁訴仕候得共未ダ何等之御沙汰モ不相蒙、然ルニ右條例昨今元老院之御議定ヲ經テ、彌御發令可相成哉之趣、現ニ市場恐慌ノ狀ニ由リ、乍恐閣下ニ在リテモ御聞及被爲在候御儀ト奉存候。元來米商會所株式取引所等現在ノ株主共ガ最初發起之節ヨリ株式ヲ所有仕、終始利得ヲ領收シ、且百圓ノ原株價増進致候義ニ有之候ハ、此際ノ御處置モ亦將來ノ利得ヲ失フ迄ノ事ニテ、敢テ苦情ヲ鳴ラスベキ筋ニ無御座候得共、右兩會所新發起ノ株主共ハ株價最昂ノ日ニ當リ、其株式ヲ賣拂ヒ、現ニ株主トシテ現在ノ損益ヲ負擔候者ハ中途ヨリ代リテ株主ト相成候無心純正ノ者共ニ有之、此ノ者共ヲシテ意外ノ大損害ヲ蒙ラシメ候義實ニ痛歎大息ノ至ニ御座候。然レドモ閣議既ニ前述之御運ニ相成今ハ何ト可仕様モ無御座、此上ハ只閣下ノ深仁嚴明ナル御資稟ヲ以テ能ク此ノ事件ニ係ル顛末ヲ御究諒被成下、幾千百人ノ株主仲買共不慮ノ災厄ヲ免レ候事ヲ得候ハ、其恩山海誓ナラザル義ニ奉存候。尤モ株主等一同不肖ト雖モ

決テ望ムベカラザル望ミヲ抱キ候者ニ無御座、只至當公平ナル御處分ヲ以テ、損害ノ不幸ヲ免レ候得バ満足可仕義ニ御座候。口演ニ易ヘ此段略陳仕候。誠惶謹言

別紙東京府廳ヲ經由シ農商務大臣ヘ差出候願書御參考ノ爲メ供高覽候也

明治二十年五月七日

願書 (別紙)

側ニ承リ候得者、今般政府ニ於テ在來ノ米商會所株式取引所兩條例ヲ廢止セラレ、更ニ取引所條例ヲ御制定相成候哉ノ趣ニテ、右條例案ハ目下元老院ニ於テ御審議中ノ由ニ付、不遠御發布相成候義ト奉存候。元來米商會所ノ株主ガ其資金ヲ相投ジ置候ハ全ク米商會所條例第一條第三節ノ御主意ヲ奉戴シ、營業滿期ニ至ラバ必ズ繼續ノ許可ヲ蒙リ候義、恰モ酒造營業免許期限鑛山ノ借區期限等ト同一ニシテ、永ク其特許ヲ蒙リ候トノ確信ニ基キ候次第ニ御座候。然ルニ新ニ取引所條例ヲ御發布相成候ニ付テハ、現在ノ米商會所廢滅ニ歸シ候ハ勿論ノ義ニシテ、由之株主一同ハ其株式ニ對シ巨萬ノ損害ヲ相蒙リ、資産ヲ盪盡仕候ハ必然ノ義ニ有之、寔ニ痛歎ノ至ニ御座候。乍然此義ニ關シ候テハ政府ニ於テモ決シテ等閑ニ付セラル、義有之間敷、必ラズ深キ御趣意被爲在相當ノ御處分ニ可相成筋トハ確信仕候得共、何分其御趣意ノ在ル所ヲ拜承不仕候テハ一同安心

難仕、多數ノ株主中ニハ心痛ノ餘前後ヲ熟慮仕候ノ遑モ無之、妄ニ其株式ヲ手放シ他日政府御惠ノ御處置有之節ニハ其恩賜現在株主トハ無縁ノ人々ノ手裏ニ歸シ候等ノ恐モ有之候間、何卒此際特別ノ御詮議ヲ以テ右御處分ニ關スル御趣意至急御垂示被成下度此段奉願上候也。

明治二十年五月六日

東京米商會所

- 頭取 早川 勇
- 肝煎 永井 松右衛門
- 同 宮部 久
- 同 小川 爲次郎

農商務大臣 伯爵 山縣 有朋 殿

株式取引所改正ニ關スル意見

株式取引所ノ現制ハ正ニ今日ヲ以テ改正ヲ加ヘザル可カラザルナリ。顧ルニ明治十一年ヲ以テ當時制定ノ株式取引所條例ヲ遵奉シテ初メテ東京ニ株式取引所ヲ設立セシ以來已ニ八年ノ歲月ヲ經過シタリ。此際政府ニ於テハ時々該條例ニ改正ヲ加ヘラレ、取引所モ亦之ニ從テ改良ヲ施シ、以テ弊害ヲ杜絶シ、以テ取引ヲ確實ナラシムル事ヲ勉メタリト雖モ、要スルニ一時ノ急ヲ救ヒ目前ノ弊ヲ矯ルニ過ギザルノミ。夫レ明治十九年ノ商業世界ハ復明治十一年ノ商業世界ニ非ザレバ、今日ニシテ徐々株式取引所ノ制ヲ改正スルノ基礎ヲ定メ、漸ヲ以テ之ヲ實行セシムルノ計畫ヲ立ルニ非ザレバ將來ニ於テ該取引所ヲシテ大ニ理財ノ樞要機關タラシムルノ效果ヲ觀ルニ難カル可シ。是レ改正議ノ今日ノ問題タル所以ニシテ、某亦此議ノ今日ニ緊要ナルヲ感覺スル者ナリ。然レドモ事物ノ改正ハ其急激ナルヲ忌ム、理財ニ關スルノ事物ニ於テ尤モ然リトス。苟モ現制ノ弊害ノミヲ察シテ之ヲ矯直スルニ熱心ナルガ爲ニ、頻ニ新制ノ利益ニノミ着目シ英斷ヲ以テ一時ニ急施シ、盡ク現制ヲ舉テ全廢シ、之ニ代ルニ經驗ナキノ新制ヲ以テスル時ハ新制ノ利益ヲ見ズシテ却テ現制ノ便宜マデヲモ併失フコト其例蓋尠シトセザルナリ。所謂新法ノ不便ハ職トシテ

是ニ由ラザルハ莫シ。株式取引所ノ改正ノ如キモ亦實ニ此定則ノ外ニ立ツベキニ非ザレバ、急激ノ改正ハ某ガ株式取引所ノ爲ニ取ラザル所ナリ。側ニ聽ク、當局ニ於テハ米商會所竝ニ株式取引所ノ現制其宜ヲ得ズシテ弊害ノ多ヲ患ヒ、新ニ商品取引所ヲ創始セシメテ之ニ代ラシムルノ議アリト、此議ハ某ガ尤モ聽クヲ喜ブ所ニシテ、洵ニ今日ニ必要ナリト思惟スル者ナリ。但シ其改正ニ關シテハ聊カ愚見ナキニ非ズ、請フ其概要ヲ具陳セム。抑モ商品取引所ハ英語ノ所謂「プロジユース」エキステ「エーヂ」ナル可シ。日常必要ノ商品米穀鹽油綿茶等ノ如キ物品ヲ始トシ、衣食其外ニ必要ナル諸品ノ取引ヲ該所ニ於テ行ハシムルノ制ナル可シト推考ス。我東京ノ如キ一大都府ニ於テハ斯ル取引所アリテ其社員即チ仲買人ヲ定メ、確實ノ賣買ヲ爲サシムルハ實ニ適當ノ方法ナリ。徒ニ之ヲ投機商等ガ弄スル所ニ放任シテ時價ノ昂低ヲ擅ニセシメ、正業者ヲシテ着實ノ賣買ニ彷徨セシムルハ固ヨリ商賈ヲ保護スルノ道ニ非ザルナリ。然レドモ諸公債諸株式ノ取引ヲモ併セテ此商品取引所ニ於テスルノ賣買ト爲スベシト云フニ至リテハ某未ダ其可ナルヲ知ラザル也。竊ニ歐米諸國ノ例ヲ聞クニ、其小府市ノ如キハ物品取引ヲモ株式取引ヲモ集テ之ヲ一所ニ於テスルコト往々是アリト雖モ、大都府ニシテ商業ノ中心タルノ地ニ至テハ、物品取引所ト株式取引所トハ必ズ之ヲ別ニスルヲ多トス。是レ商業ノ情勢然ル而已ナラズ物品ト株式トハ元來其性質ヲ異ニスルガ故ナリ。倫敦巴里新約克ノ諸府皆是ノ如シ。今夫レ我東京ニ於テハ現ニ株式取引所ア

リテ其組織ノ未ダ完全ナラザルニ拘ラズ、公債株式ノ取引ヲ他ノ物品ニ殊別スル茲二年アリ、然ルヲ今日ニ際シテ之ヲ混交セント云フハ何ノ理由アリテ爾ル乎、假令従前ニハ混交シテ一所ニ於テスルモ、明治十九年ノ今日ニ際シテハ之ヲ殊別シテ前途ノ爲ニ理財ノ機關タラシメザル可カラズ。況ヤ従前ヨリシテ已ニ其殊別アルニ於テヤ。

夫レ株式取引所ハ所謂「ストツクエスキチエーシヂ」ニシテ、實ニ理財ノ樞機タリ。財政ノ機關タリ。大藏大臣ノ特ニ直轄シテ親ラ監督セラレベキノ要地ナリトス。彼ノ物品取引所ハ其地ニ消費スル物品若クハ其地ニ聚散スル物品、若クハ其地ヲ以テ賣買ノ中心トスル物品ノ爲ニスル者ナレバ、其特種ノ物ニハ自ラ全國ニ關係ヲ有スルモノ無キニ非ザレドモ、要スルニ其地方ノ爲タルニ過ギズ。株式取引所ニ至リテハ則チ然ラズ、已ニ東京ニシテ全國理財ノ中心タルヲ知ラバ東京ノ株式取引所ハ即チ其中心ノ機關タルコトヲ知ラザル可カラズ。試ニ日本帝國ノ公債全額ヲ見ヨ、其東京ニ管轄スルモノ過半タリ。試ニ諸會社ノ株券全額ヲ見ヨ、其東京ニ蒐集スルモノ過半タリ。又試ニ公債ノ募集ヲ見ヨ、株金ノ募集ヲ見ヨ、其申込ニ於テ東京ハ常ニ三分ノ二ヲ占ムルニ非ズヤ。斯ル事實ハ決シテ他ノ商品ニ見ザル所タリ。然ラバ則チ株式取引所ヲ殊別スルコト事實ノ然ラシムル所ナリト云ハザル可カラザル也。

此ノ事實アルヲ以テ東京ニ商品取引所ヲ新創シテ以テ諸物品ノ賣買ヲ確實ナラシムルハ固ヨリ

善良ノ計畫ナリト雖モ、株式取引所ハ之ヲ殊別ノ設立ナリトシテ其外ニ置キ、専ラ理財ノ機關タラシメザル可カラズ。雖然株式取引所ノ現制ハ未ダ其機關タルノ效果ヲ見ルニ十分ナラザレバ漸ヲ以テ大ニ改正ヲ加ヘ、大藏大臣ヲシテ將來ニ其運用ノ巧妙ヲ施スノ要地ヲ茲ニ得セシメンコト、是レ某ガ切ニ希望ヲ懷ク所ナリ。竊ニ株式取引所ノ現制ノ由テ來ル所ヲ聞クニ、明治六七年ノ頃ニ際シテ政府ハ倫敦「ストツクエスキチエーシヂ」ノ制ニ倣ヒテ株式取引所ヲ東京ニ設立セシメンコトヲ望ミ、當局ヲシテ其草案ヲ立テシメタルニ、仲買社員協立ノ制ハ當時遽ニ之ヲ我國ニ施シ得ベキニ非ザルヲ以テ、姑ク米商會所ノ例ニ依テ株主合資會社ノ制ヲ取リテ其條例ヲ制定シ頒布セラレタルニ、尙未ダ當時ノ商情ニ適セザル所アルヲ以テ、更ニ明治十一年ニ於テ之ヲ改正セラレタリ。是レ現制ノ基礎ニシテ即チ株式取引所ノ創立シタル所ナリ。而シテ政府ニ於テハ當時ヨリシテ此制ノ漸次ニ改正ヲ要スル者タルヲ豫定シテ、先ヅ其營業期限ヲ五年ト定メ、繼續ノ節毎ニ改正ヲ加ヘ、數回ノ後ニハ遂ニ「ストツクエスキチエーシヂ」ノ制ニ豹變セシメン事ヲ豫期セラレタリト聞ク。其定款規則中ニ仲買人ヲ指シテ社員ト云ヘル稱アルガ如キハ豈其豫期ヲ初ヨリ微露シタル者ニ非ズヤ。果シテ然ラバ政府ガ株式取引所ニ於テ當初ヨリ其將來ノ改正ヲ豫期スルニ計畫ノ深厚周密ナルハ某大ニ感嘆シ敬服スルノ外アラザル也。

政府ガ株式取引所ニ豫期スル所ハ實ニ斯ノ如シトセバ、商品取引所ノ設立如何ヲ問ハズ、之ヲ

他ノ物品取引所ヨリ殊別スルハ即チ政府本來ノ目的ナリ。之ヲ漸次ニ改正シテ「ストックエキスチエーション」ノ制タラシムルハ即チ政府本來ノ目的ナリ。之ガ取引ヲ旺盛ナラシメテ理財ノ樞要機關タラシムルハ即チ政府本來ノ目的ニシテ、政府ガ此目的ヲ變更セザルハ某ガ固ク信ジテ疑ハザル所ナリ。然ラバ則チ政府ハ營ニ株式取引所ヲ今日ニ全廢シテ之ヲ他ノ物品取引ト混交セシムルヲ肯ゼザル而已ナラズ、益々之ヲ殊別シテ漸次ニ改正ヲ加ヘ、其目的ヲ達セラル、ノ趣意ナルベシ。此趣意ニ對シテハ某敬テ之ヲ翼賛セザル可カラズ。

改正ヲ議スルニ臨ミテ豫メ一言セザル可カラザル事アリ。識者ガ今日ノ株式取引所ヲ論ズルヤ動モスレバ其投機ニ傾向スルヲ咎メテ之ヲ忽ニス可カラザルノ弊害ナリト極言シ、専ラ矯直ヲ要スルノ主點ナリトスルガ如シ。其投機ニ傾向スルノ狀アルハ實ニ然リ、某ト雖モ其多少ノ弊害アルヲ覺ラザルニ非ザルナリ。然レドモ眼ヲ轉ジテ政府ガ時ニ數千萬ノ公債ヲ募集シ、或ハ會社ガ數百萬ノ株金ヲ募集スルニ當リテ、常ニ應募者ノ非常ニ過多ナルヲ見ルニ、是レ政府ニ信用ノ厚キ、會社ノ起業ニ成功ノ目的アルガ故ナリト雖モ、其ノ公債其株券ハ、取引所ノ賣買活潑ナルガ爲ニ之ヲ他ノ資本ニ轉換セント欲スレバ何時ニテモ容易ニ爲シ得ルノ便アルガ故ニ非ズヤ。而シテ此便ニ向テハ投機モ亦時トシテハ其助ナキニ非ザルナリ。畢竟スルニ投機ノ傾向ハ常ニ抑制シテ其甚ニ至ラシメザルノ注意ハ、勿論ナサル可カラズト雖モ、賣買活潑ノ氣象ハ之ヲ適當ニ保

有セシメ以テ理財ノ運用ニ應ゼシムルコト、我國ノ如ク資本十分ナラズシテ興起スベキ事業ノ數多ナル國ニハ幾分カ其要用ヲ覺ル所アルベキ歟。是亦株式取引ヲ觀ルニ他ノ商品取引ト同一視シ難キ所以ナリ。

改正ノ期ニ當リテ尤モ緊要ナリトスル所ハ先ヅ株式取引所ノ管轄ヲ確定スルニ在リ。政府ハ當初之ヲ大藏大臣ノ監督ニ屬セシメタリ。是レ當然ノ歸着ニシテ歐米諸國ノ實例ニ適合スル者ナレバ今日ニ於テ宜シク前ニ復シテ大藏大臣ノ管轄ニ屬セシメ、大藏大臣ガ理財ノ運用ヲ爲ス機關タラシムベシ。日本銀行ノ如キ諸銀行ノ如キ既ニ大藏大臣ノ監督スル所タリ、株式取引所ニシテ豈ニ其監督ノ外ニ在リテ理財ノ機關タルニ隔靴搔痒ノ患アラシムル可ケンヤ。

將タ株式取引所ノ現制即チ株主合資會社ノ制ヲ轉變シテ仲買社員協立ノ制タラシムルノ要ハ實ニ改正ノ主眼ナリト雖モ、之ヲ急激ニ實施センコトヲ謀ラバ或ハ其體面ヲ改ルヲ得ルモ、其實相ヲ更ルヲ得ズシテ爲メニ數年來拮据經營シテ養成シタル取引ノ活潑ナル慣習ヲ併セ失ヒ、政府本來ノ目的ニ背馳スルノ慮ナシトセズ。是某ガ其改正ヲ漸次ニ望ミ徐ニ其歩ヲ進メ、數年ヲ期シテ成功ヲ希フ所以ナリ。其方法順序ニ至リテハ某ガ愚考モ亦敢テ盡クニ歸スルニ非ズ、各自ニ愚考スル所アルヲ以テ併テ之ヲ附呈シ尊覽ニ供ス。幸ニ一二ノ採擇ニ足ルモノアラバ實ニ某ガ榮ナリ。抑株式取引所ノ改正ニ關シテハ閣下ノ理財ニ精練ナル大勢ニ達觀ナル、疾ニ尊慮ノ定マルモ

ノアリテ敢テ某ガ鄙言ヲ要セザルヤ明ナリト雖モ、某親ク其局面ニ當ルヲ以テ之ヲ默シテ其罪ヲ得ベキニ非ザレバ、冒瀆ヲ顧ミズシテ意見ノ在ル所ヲ具陳ス。恐悚ノ至ニ堪ヘズ。頓首々々

商品取引所意見書

伊東巳代治

問題ノ要旨ハ商品取引所ハ仲買人ノ會社トシテ之ヲ設置シ、仲買人ノ利益ノ爲ニ特種ノ商業ヲ壟斷スルノ場所トナスベキ乎、將タ商業全般ノ進歩ヲ圖ル爲ニ商人ノ組合トシテ之ヲ設置スベキ乎ニ在リ。既ニ日本商法草案ニアルガ如ク、仲買人ハ固ヨリ仲買業務ノ措辦整頓ノ爲ニ、組合又ハ會社ヲ構成スルヲ得ベキハ勿論ナリト雖、斯ノ如キ仲買人組合ハ全ク商品取引所ト異ナルモノナリ

各國商品取引所ヲ觀ルニ、其原義トスル所ハ皆各商人ヲシテ其常員若クハ入場人^{ワキジトル}タラシメ、且商業取引ノ媒介者トシテ仲買人ヲ其役員ニ選舉スルニ在リ。即チ

佛蘭西國商法第七十一條

商品取引所ハ商人船主株式仲買人其他國王ノ特許ヲ有スルモノ、集會スル所ナリ（千七百九十五年十月二十日ノ法律第一條ヲ參考スベシ）

白耳義國商法第六十一條

商品取引所ハ各商業地ノ商人船主株式其他ノ仲買人ノ公共ノ組合ナリ。
獨逸國ニ於テハ商品取引所ニ關スル一定ノ法律ナク各商業地ニ對シ特ニ成定法ヲ設ケ明條ヲ掲
グ。

伯林千八百六十六年四月二十日ノ成定法第一條

伯林商品取引所ハ政府ノ特許ニ依リ賣買取引ヲ便利ニセン爲メ、商人仲買人代理人其他ノ人
ノ集會スル所ナリ。

ダンチツク千八百六十五年九月十四日ノ成定法第一條

商品取引所ハ政府ノ特許ニ依リ賣買取引ヲ便利ニセン爲メ商人仲買人船主其他ノ人ノ集會ス
ル所ナリ。

コローン千八百六十二年六月九日ノ成定法第一條

商品取引所ハ政府ノ特許ニ依リ、商法議所ノ監督ヲ以テ賣買取引ヲ便利ニセン爲メ商人仲買
人其他ノ人ノ集會スル所ナリ。

ライプチヒ千八百七十年三月廿八日ノ成定法第一條第三條並ニ第六條

ライプチヒ商品取引所ノ目的ハ一定ノ期日ニ集會ヲ開キ、以テ賣買取引ヲ便利ニスルニ在リ

成定ノ例外ヲ除キ何人タリトモ入場券ヲ所持シ、又ハ商法會議所ニ納ムベキ手数料ヲ拂込タ
ルモノハ此集會ニ臨ムコトヲ得。

スタットガルト千八百七十七年五月廿四日ノ成定法第一條並ニ第三條

商品取引所ハ政府ノ特許ニ依リ商法會議所ノ監督ニ屬シ、賣買取引ヲ便利ニセン爲メ商人仲
買人及其他ノ者ノ集會スル所ナリ。

集會ニ臨マントスルモノハ一年期ノ入場料ヲ拂フヲ要ス。

塊太利國千八百六十年二月廿六日ノ物產取引所條例第一條第五條並ニ第七條

物產取引所ノ目的ハ商品賣買其他（保險船賃等ノ如キ）商業上ノ事務ヲ便利ニスルニ在リ。
總テ獨立ノ人ハ手数料ヲ納テ其集會ニ臨ムコトヲ得。

千八百五十四年七月十一日ノ維納株式取引所條例第一條第二條並ニ第四條ニ於テモ亦同一ノ明
條ヲ設ケタリ。

和蘭國商法第五十九條

商品取引所ハ商人船主仲買人商社^{カシエール}出納取扱人其他商業ニ從事スル人ノ集會スル所ニシテ地方
官ノ監督ニ屬スルモノナリ。

ルーメニア國千八百八十一年六月一日ノ法律第一條並ニ第二條

商品取引所ハ總テ賣買ヲ便利ニセン爲メ商人船主仲買人竝ニ代理人ノ集會スル所ナリ。
凡ソ商品取引所ナルモノハ以上臚列スル所ノ原義ニ基テ設立スルモノニシテ、獨リ仲買人ノ爲
ニ之ヲ設立スルノ例アルヲ聞カザルナリ。今更ニ紐育物產取引所ノ例ヲ舉ゲンニ、千八百六十二
年四月十九日ノ同取引所條例ニ依レバ同取引所ハ紐育商法組合會員ノ組織スル所タリ。

然レドモ常員ニ關シテハ各國成定法ニ少異同ナキコト能ハズ、往時ニ在テハ商人ニ限り常員タ
ルコトヲ得、且常員ニ限り商品取引所ニ於テ賣買ヲ營ムヲ得ルノ原義行レ、現時合衆國并ニ獨逸
國ニ於テモ各地商社社員又ハ商法會議所ノ會員ハ其地ノ商品取引所常員タルベシト云フノ程度内
ニハ此原義ヲ存シ守ルモノナリ。且名義上ニ於テハ其他ノ人ニテモ入場料ヲ納メ商業上ノ目的ヲ
以テ入場セントスルモノハ集會ニ加フルコトヲ得ルト雖モ、實際斯ノ如キ入場人ハ例外ニシテ、
商品取引所ハ依然トシテ通常商人ニ限り出入スル所タリ。

巴里商品取引所ニ於テハ往時商人ニ限り其常員タルヲ得ルノ成規ナリシガ、近年入場料ヲ納ム
ルモノハ皆之ニ入場スルコトヲ許スニ至レリ。物產ノ賣買ニ關シテハ商人ニ限り入場ヲ許スヲ以
テ通例トスト雖モ、株式即チ公債證書ノ賣買ニ關シテハ復タ敢テ然ラザルモノノ如シ。蓋シ株式
賣買ニ從事スルモノノ内ニハ商人ニアラザルモノ多キガ故ニ、商人タルノ資格ヲ有セズト雖モ入
場スルヲ得ルナリ。然レドモ佛蘭西國ニ於テハ株式ノ投機賣買甚ダ盛ニシテ、國家ノ禍害ヲ爲ス

ガ故ニ、余ハ決シテ佛國ノ例ヲ以テ着實ニシテ且稱揚スベキモノト認ムルコト能ハズ。何トナレ
バ株式賣買ニ於テ投機輸贏ヲ爭フノ賭博ニ類スル惡弊ヲ誘導スルノ憂アレバナリ。

是レヲ以テ余ハ入場料ヲ納ムル商人ハ其地ノ商品取引所常員タルコトヲ得ルト云フ持説ヲ主張
セントス。但其他ノ者ト雖モ商法ニ從事シ、且成規ノ入場料ヲ納ムルモノヲシテ商品取引所ニ出
入セシムルコトニ付テハ余ハ敢テ反論ヲ唱ヘベト雖モ、獨リ賭博ヲ目的ト爲ス如キ輩ニ至テハ斷
ジテ其入場ヲ禁止セザル可カラズ。何トナレバ商品取引所ハ眞實正當ノ商業ヲ營ムモノノ便益ノ
爲ニ設置スベキ組合ナレバナリ。

商品取引所ハ左ノ方法ニ依テ之ヲ設置スルモノトス。即チ

第一ハ組合又ハ會社ノ組織ヲ以テスルト否トヲ問ハズ、土地ノ商人商業上ノ建設物トシテ之ヲ
設置スルモノトス。此ノ場合ニ於テハ商品取引所ノ役員ハ其商人ノ内ヨリ成立チ、其集會ニ出
入スルハ自ラ其常員ノ専ラニスル所ニシテ、時宜ニ依リ臨時商業ニ從事スル者ニ出入ヲ許スコ
トヲ得ベシ。

第二ハ佛蘭西國ニ於ケル如ク政府ノ設立ニ係ルモノトス。此ノ場合ニ於テハ商品取引所ノ事務
ハ主トシテ地方廳又ハ中央政府ノ措辦ニ屬シ、銀行者商人等之ヲ補助シ、商人ニ限り又ハ其他
ノ臨時商人モ均シク商品取引所集會ニ出入スルコトヲ得ルモノトス。以上二個ノ場合ニ於テ仲

買人ハ商品取引所役員タルモノトス。

商品取引所ノ組織ヲ獨リ仲買人ニ限リ、仲買人ノ組織スル所ノ會社ヲシテ商品取引所ノ效用ヲ爲サシメントスルガ如キハ決シテ多ク見ザル所ナリ。佛蘭西ニ於ケルモ猶ホ商人ハ或ル點ニ於テハ商品取引所常員ト認メザルコトヲ得ザルモノアリ。何トナレバ商人ハ各自其專賣稅ノ額ニ應ジテ賦金ヲ爲シ、以テ商品取引所ノ歳費ヲ支辨スルノ義務アレバナリ。

故ニ商品取引所ノ入場人又ハ常人タルコトヲ許サレタル商人ハ、同商品取引所ニ於テ商業上ノ取引ヲ爲スヲ得ベキモノトス。是レ各國ニ行ハル、通則ニシテ何ノ故ニ獨リ仲買人ニ限リ商品取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ル歟、是レ實ニ解ス可ラザルノ論ナリ。抑々仲買人ナルモノハ何レノ國ニ於テモ他人ノ中間ニ立テ其商業取引ノ周旋ヲ爲スモノニシテ、其職務ヲ盡サンニハ公平無私ノ心ヲ以テ之ニ從事セザル可ラザルヲ以テ、自己ノ商業ヲ營ムコトヲ得ズ。若シ仲買人ニシテ自己ノ爲ニ賣買ヲ爲スコトヲ得ル時ハ、自ラ物價ノ高低ニ依リテ自家ノ利害ヲ生ズルニ至リ、人々之ニ信任ヲ措ク能ハザル可シ。又斯ノ如キ許可ヲ仲買人ニ與フルノ要アルコトナシ。何トナレバ其員數ニシテ須要ノ點ヲ過グルコトナキ時ハ、其間ニ有害ノ競争ヲ生ズルノ恐ナク、且斯ノ如キ許可ヲ與フル時ハ反テ利益アル營業ヲ爲スコト能ハザル可ケレバナリ。或ル地方ニ於テ法律ニ反シ暗ニ株式賣買上仲買人ヲシテ法律ノ嚴禁ヲ犯サシムルガ如キハ是レ一個ノ惡習タルニ

外ナラザルナリ。法律ノ嚴禁ハ左ノ如シ。

佛蘭西國商法第七十四條并ニ第八十五條

法律ハ仲買人ヲ認テ賣買取引ノ仲買周旋人トナス。

仲買人ハ何等ノ場合ニ於テモ又何等ノ口實アリトモ自己ノ名義ヲ以テ銀行事業又ハ賣買取引ヲ爲スヲ得ズ。

倫敦仲買人規則

他ノ商業ヲ營ムモノハ仲買業ニ從事スルヲ得ズ、又已ニ仲買人タルノ免許ヲ得タルモノニシテ商業其他ノ職業ニ從事スルモノハ、商社又ハ仲買人ノ雇ヲ解クベシ。又仲買人ハ自己ノ名ヲ以テ小荷物ノ送狀等ヲ認ム可ラズ。

獨逸國商法第六十六條并ニ第六十九條

仲買人ハ賣買取引ヲ爲スタメニ公然選任セラレタル周旋人ナリ。

仲買人ハ直接若クハ間接ニ自己ノ名義ヲ以テ商業ヲ營ムヲ得ズ、又其仲買業ニ於テハ自ラ其事ニ從事スベシ。

合衆國ケント氏釋解卷二第六百二十二頁第六「ノート」

仲買人ハ唯商業上契約ノ周旋ヲ爲ス爲ニ使用サル、モノニシテ商品ノ所有權ナリ、又自己ノ

名義ヲ以テ其取引ニ從事スルコトナカルベシ。何トナレバ仲買人ノ職業ハ取引即チ株式并ニ商品ノ賣買ヲ周旋スルニ在レバナリ。株式仲買人ハ掛金ニテ賣渡シヲ爲スヲ得ズ、是レ其職業ノ常道ニアラザレバナリ。

和蘭國商法第六十二條并ニ第六十五條

仲買人ハ公然選任セラレタル周旋人ナレバ自己ノ名義ヲ以テ取引ヲ爲スヲ得ズ。

奧太利國千八百七十五年四月四日ノ法律

仲買人ハ賣買取引ノ爲ニ選任サレタル周旋人ナリ。

仲買人ハ自己ノ名義ヲ以テ何等ノ商業モ營ムコトヲ許サズ。

ルーマニア國千八百八十一年六月一日ノ法律第三十五條

仲買人ハ自己ノ名義ヲ以テ何等ノ取引モ爲スヲ許サズ。

佛蘭西ニ於テハ（商法第八十七條）仲買人ニシテ自己ノ名義ヲ以テ取引ヲ爲シタルモノハ之ヲ解職シ、復ビ之ヲ仲買人ニ選任スルコトヲ得ズ。又オーストリア其他諸國ニ於テモ之ト同義ノ成規アリ。商品取引所ノ組立ヲ仲買人ニ限ルノ不可ナル所以ハ獨リ法律ノ通義ニ相悖ルノミナラズ、猶左ノ批評ヲ免レザルナリ。

第一 何故ニ商品取引所ノ事務ヲ其地方商人ノ一小部ヲ成ス所ノ仲買人ニ限り之ヲ委托スベシ

トスルカ。

第二 何故ニ仲買人ニ限り商業上ノ規則慣習ヲ設立ニ馴致スル事ヲ専ラニセシムベキカ。

第三 何故ニ仲買人他ノ商人ニ協議スルコトナクシテ公定時價ヲ專定セシムベキカ。況ンヤ仲買人ト雖モ自己ノ名義ヲ以テ取引ヲ爲ス以上ニ於テ何故ニ此ノ如キ專斷ヲ許スベキ歟。

第四 何故ニ仲買人ヲシテ獨リ仲裁委員ノ事務ヲ擔當セシムベキカ。

斯ノ如キ非常ノ權力ヲ舉テ仲買人ニ委托スル時ハ他ノ商人ノ正當ノ利益ヲ損害セザラント欲スルモ豈得ベケンヤ。

佛蘭西ニ於テハ商品取引所ノ管理ハ警察官吏ノ權内ニ屬ス、故ニ警察官ハ特ニ商品取引所委員ヲ構成シテ其用ニ充ツ、他ノ諸國ニ於テハ其管理ハ常員ノ推舉ニ係ル。特別ノ役員若クハ其土地ノ尋常商人即チ商社役員ニ歸ス。

佛蘭西ニ於テハ千八百一一年四月十九日ノ命令第十四條ヨリ第十六條ニ至ル諸條ヲ以テ、株式仲買人ヲシテ組合ヲ組織シ、委員ヲ選舉シテ仲買人間ノ内部ノ取締ヲ掌リ、且其營業上相互ノ間ニ生ズル紛議ヲ調停セシムルコトヲ許シタリ。然レドモ斯ノ如キ裁決ハ強迫ノ權力アルコトナク、且其應用ハ株式仲買人間ニ止リ他ノ商人ハ其權力ニ屈從スルコトヲ要セザルナリ。

草案第十九條ニ於テ商品取引所ノ規則ニ犯觸スルモノニ罰金ヲ科シ、又ハ之ヲ除名スルノ權ヲ

商品取引所ニ與フルハ決シテ其當ヲ得ザルモノナリ。獨逸ニ於テハ商品取引所ノ科罪權ハ瑣細ノ
犯則ニ限り之ヲ認許シ、罰金ノ最高額ヲ二十「ターレル」ト定メ、其以上ノ科罪ノ申渡ハ法庭又
ハ警察官署ニ於テ之ヲ爲ス。

以上開陳スル所ニ依レバ農商務省ノ草案ハ其要點ニ於テ各國ニ行ハル、所ノ通義ニ反スルコト
昭然トシテ明ナレバ更ニ充分ノ修正修補ヲ要スルナリ。

商品取引所條例案意見書

ロエスレル氏口述
伊東巳代治筆記

農商務省ノ提案ニ係ル商品取引所條例ヲ通閱スルニ、緊要ノ項目ニ關シテ杜撰ヲ免レザルモノ、
及異議ヲ容ルベキモノ一ニシテ足ラズ、故ニ余ハ別ニ案ヲ起シ謹デ裁鑒ヲ仰グ。

凡ソ商品取引所ハ商業上ノ利益ヲ謀ル爲ニ設ラルル公共ノ組合ニシテ、商品ノ賣買取引スル爲
ニ商人ヲ集會シ公正精確ナル營業規程ヲ設ケ、各商品ニ正實ナル市價ヲ確定シ、信據スベキ報告
ヲ傳布シ、取引上ニ生ズル爭論竝ニ苦情ヲ豫防調停シ、以テ商業取引ヲ便利ニシ、且ツ之ヲ發達
セシムルモノナリ。之ヲ要スルニ商品取引所ハ確實ニシテ昌榮ナル商業ニ就テ、前述ノ須要ニ應
ゼンガ爲ニ設立スル商人ノ集會所ナリ。然ラバ則チ商品取引所ハ素ヨリ官署ノ性質ニ屬スルモノ
ニアラズ、即チ政府ノ一部分ニアラザルナリ。何トナレバ政府ハ商業ノ細事ニ干與シテ其責ヲ負
フモノニアラズ。商品取引所ノ事務ハ商業上ノ智識ト、實際ノ經驗ヲ兼備スル商人自ラ之ヲ措辨

セザルベカラザレバナリ。而テ商品取引所ハ商業上ノ會社、即チ全ク自己ノ利益ノ爲ニ或ル商業ヲ營マントシテ設立スル私立會社ニ同ジカラズ。是レ商業ノ會社ト商品取引所ノ相異ナル所以ニシテ、商業上ノ會社ハ二三ノ商人協力シテ利益ヲ收メン爲ニ設立スル私立ノ組合ナリト雖モ、商品取引所ハ一國ノ貿易及商業全體ノ便益ノ爲ニ設立スル公共ノ組合ナリ。惟フニ日本ニ於テハ商品取引所ナルモノハ米穀等特種ノ商業竝ニ其利益ヲ壟斷シ、一般商人ニ對シテ賣買取引ノ上ニ於テ其方法ヲ措磨スル爲ニ二三資本家ノ特有ニ屬スル組合トシテ之ヲ設立シ得ベキモノノ如ク考慮スル者アラン。若シ此ノ如キ目的ヲ以テ設立シタル商品取引所ナリセバ、或ル専科ノ商業ニ莫大ノ資産ヲ使用シ、所謂常員ナル者ハ自ラ其商品取引所ノ株主トナリ、隨テ其株式ハ非常ニ騰昂シ、取引所ハ徒ダ巨利アル資本ノ注入所トナランノミ。抑モ真正ノ商品取引所ハ資本ヲ有シテ商業ヲ營ムベキモノニアラズ。其常員モ亦株主トナリテ以テ其株式ヨリ巨利ヲ博スルコトナシ。歐洲ニ於テ商品取引所ナルモノハ元來商人等ノ賣買取引ヲ便益ナラシメン爲ニ集會スル場所ヲ云フニ過ギザリキ。然レドモ其利益ハ専ラ會合ニ止マラズ、勢ヒ自ラ他ノ便益モ之ニ隨伴シ來リ、殊ニ確實公平ナル營業規程及商業上ノ慣習ヲ馴致シ、必要有益ナル報道ヲ傳布シ、且商業上ノ事件ニ關シテ一定ノ裁判權ヲ有シ、彼ノ法廷ノ緩漫ニシテ洪費ヲ要スル審判ノ煩ヲ省クニ至リシコト等ヲ以テ又商品取引所ハ或ル場合ニ於テ商法會議所ニ比スルヲ得ベシ。抑商法會議所ナルモノハ商品

取引所ニ均シク公共ノ組合ニシテ、殊ニ立法上行政上ニ於テ商業ヲ發達セシムルコトニ關シ、實地ノ意見ヲ政府ニ具申スルニ於テハ、二者甚ダ相尙タルモノアリ。唯ダ其異同アル點ハ商品取引所ハ専ラ一地方ニ於テ商人間ノ賣買取引ヲ便ナラシムル爲ニ設立セラレタルモノナリト云フニ在リ。而テ其便益ノ重要ナルモノハ載セテ條例第二條ニ詳ナリ。夫レ此ノ如キ便益ハ普ク其地方ノ商人ニ蒙ラシムベキモノニシテ、決シテ之ヲ二三ノ商人ニ專有セシメ、新ニ其常員タランヲ欲スル者アルモ之ヲ許否スルノ權ハ全ク舊常員ノ取捨ニ任ズルガ如キ情弊アルベカラズ。此主義ヲ推シテ論ズルトキハ、素ヨリ仲買人ノミヲ以テ商品取引所ノ常員タラシムベカラズ、凡ソ仲買人ハ代理人ト均シク商業上ノ補助人ニシテ、賣買ヲ爲サントスル商業者ノ間ニ介立シ、以テ其双方ノ爲ニ賣買ニ關スル有益ナル報道ヲ爲スヲ以テ其責任トス。是ヲ以テ仲買人ハ其商品取引所ノ内外ヲ論ゼズ、自己ノ爲ニ商業ヲ營ムコトヲ許サレズ。是レ其職任ヲ盡スニ公平無私ニシテ利己ノ念慮ナカラシメンガ爲ナリ。

然ルニ農商務省ノ提案ハ以上論述スル所ノ要點ニ反スルモノ多シ。試ニ同省ノ提案ニ據レバ、仲買人ニ限り商品取引所ノ常員トナルヲ得、仲買人ハ自己ノ名義ヲ以テ營業シ、其賣買ヨリ起ル一切ノ義務ヲ負擔スルモノナリ。

農商務省立案ノ趣旨ハ全ク歐洲商品取引所ヲ組織スルノ主義ト相反シ、他ノ商人ヲシテ常員ト

ナルヲ得セシメザルガ故ニ、其既ニ常員トナリタル者ハ商品取引所内ニ於テ賣買スル商品ニ限り殆ンド專賣者トナルヲ得ベシ。言ヲ換テ之ヲ云ヘバ、商品取引所ハ巨利壟斷ノ地ト爲リ、仲買人ハ之ニ由テ利益スルモ他ノ商人ハ爲ニ非常ノ不利ヲ被ルヤ必セリ。

歐洲ニ於テハ決シテ巨利壟斷ノ爲ニ商品取引所ヲ設クルニアラズ、之ニ反シ商人一般ノ利益ヲ増進センガ爲ニ之ヲ設置スルナリ。此ノ如クニシテ始メテ取引所ノ設立ハ其効用實益ヲ顯ハスベキナリ。余ノ知ル所ニ依レバ、常員ヲシテ賣買取引ノ業ヲ專占セシムルモノハ獨リ倫敦株式取引所アルノミ。素ヨリ此株式取引所ハ仲買人ヨリ成立スル純然タル私立ノ組合ナリ。故ニ新ニ常員ヲ加入セシムルノ權ハ其組合中ノ取捨ニ存スベシ。然レドモ龍動株式取引所ハ月々之ガ釐革アルノ必要ヲ感ジ、已ニ其端緒ヲ啓キタリ。畢竟此株式取引所ハ全ク他ノ商品取引所ト其性質ヲ異ニスルモノナリ。而テ日本商品取引所ヲ之ニ模倣シテ設立セントスルガ如キハ萬々得策ニアラザルナリ。

余ノ新案ノ趣旨ハ、商品取引所ナルモノハ商業全般ノ便益ノ爲ニ設立スル公共ノ組合ニシテ、其賣買取引ヲ準備シ、且之ヲ整理スルノ便益ヲ與フルヲ以テ目的トシ、所在ノ商人ニシテ不正ナル者、殊ニ負債ヲ償還セザル者、又ハ其取引所ニ對スル義務ヲ盡スコトヲ務メザル者ヲ除クノ外、商品取引所ノ費用ヲ支辨スル爲ニ相當ノ賦金ヲ納ムル者ハ、總テ商品取引所ノ常員トナルヲ得セ

シメ、自己ノ利益ノ爲ニ營業セズシテ、他ノ商人ノ爲ニ取引ノ業務ニ從事スル仲買人ハ商品取引所ノ役員ニ選舉セラル、ヲ得セシメントスルニ在リ。

以上叙述スル所ノ如クナルヲ以テ、苟モ仲買人タル者ハ信用經驗ナカラザルベカラズ。又必要ナル資格ヲ維持セン爲メニ其員數ヲ限り、之ヲシテ一定制限ノ下ニ居ラシメザルベカラズ。

商品取引所ノ要ハ専ラ商業ノ利益ヲ圖ルニ在ルヲ以テ、一定ノ程度ヲ設ケテ自由ナラシメザルベカラズ。之ヲ換言スレバ十分ナル結果ヲ得ベキ商業盛ナルノ地方アリテ、其地ノ商民商品取引所ノ設立ヲ望ム者アルトキハ、之ヲ設立スルノ自由ヲ與ヘザルベカラズ。然レドモ其設立ハ政府ノ認可ヲ經、且常ニ政府監督ノ下ニ在ルベシト雖モ、既ニ上文ニ論ズル如ク、商品取引所ハ果シテ政府ノ一部ニアラズトスル以上ハ、其管理ノ如キ之ヲ商人即チ其被選役員ノ手裡ニ委ネザルベカラズ。此點ニ於テ商品取引所ノ他ノ商業會社ト大ニ異ナル點アルヲ看ルベシ。乃チ商業會社ノ社員ハ收利ヲ目的トシテ特種ノ商業ヲ營ミ、爲ニ其資本ヲ積ミ、便宜之ヲ其商業ニ使用シ、其會社内ノ協議ニ依リ何等ノ指揮命令ト雖モ之ヲ其役員ニ下スコトヲ得ルナリ。然レドモ商品取引所ニ於テハ此ノ如キ事絶テ無シ。商品取引所ニ於テハ役員ハ常員ノ信用ヲ有スルモノナラザルベカラズト云フノ故ヲ以テ、常員其役員ヲ選舉スルヲ正當ニシテ且便利ナリトスルナリ。而テ他ノ場合ニ於テハ常員役員ノ職務ニ干與スルヲ不可トス。何トナレバ役員ハ其職務上ニ於テ獨立ノ地歩

ヲ占メ、裁判官又ハ行政官ニ比スルヲ得ベケレバナリ。唯ダ專科委員ヨリ意見ヲ理事員ニ開陳シ、且疑議ニ渉ルモノハ理事員其忠告又ハ報道ヲ要求スルヲ以テ足レリトスルノミ。

以上論述スル所ニ次デ起ルベキ問題ハ凡ソ商品取引所ナルモノハ商業全般ノ爲ニ設立スベキカ、將タ某種ノ商業ニ限リ之ヲ設立スベキカト云フニ在リ。而テ現時ニ於テ某種ノ商品、殊ニ重要ナルモノニ限リ之ヲ設立スベキノ說稍世上ニ傳播スルノ勢アリト雖モ、此問題ニ付緊要ナル點ハ商品取引所ナルモノハ米又ハ茶等ノ如キ一種ノ商品ニ對シ、各別ニ之ヲ設立スベキヤ、乃チ十種ノ商品アル地方ニハ十種ノ商品取引所ヲ設置スベキヤ、否ニ在リ。然レドモ此點ニ付一理直截ノ言ヲ以テ答フルハ最モ難事ニシテ、然カモ實際ニ劃一ノ實例アルヲ見ズ。獨佛二國ニ於テハ一地方ニ一ヶ所ノ商品取引所ヲ設置スルノ風行ハレ、伯林ライプジヒ其他獨佛二國ノ市府ニ於テモ亦然リトス。然リト雖モ塊英米國等ニ於テハ各種ノ商品ニ付分設スルノ習致アリ。故ニ株式取引所ト物産取引所ヲ分別シ、其物産ノ内ニ於テモ穀類家畜類ノ爲ニ各別ニ之ヲ設置スルモノアリ。是レ其地方ノ慣行或ハ沿革ノ事情ニ因リ然ルモノトス。今汎ク觀察ヲ下ス時ハ分設法ノ不可ナルヲ示スガ如シ。其理由ヲ擧グレバ、

第一 商品取引所ハ商法會議所ト均シク商業全般ノ利益ノ爲ニ設置シ、各種ノ商業ヲ獎勵スルニ在ルヲ以テ、其役員タルモノ能ク各種ノ商業ヲ代表スル時ハ其目的ヲ達スルヲ得。

第二 政府ヨリ之ヲ視ルモ商品取引所ヲ一個所ニ限ル時ハ、其監督上ニ便ニシテ且其業務上ニ著大ナル勢力ヲ及ボスコトヲ得。

第三 經濟上ヨリ云フ時ハ商品取引所ヲ一個所ニ限ルノ利ハ其經費少ク隨テ常員ノ納ムベキ賦金ヲ輕減スルコトヲ得。

第四 商業上ノ利益ヨリ論ズルモ、商品取引所ハ一地方ニ一個所ト限ル時ハ、更ニ其勢力ノ強大ヲ致シ、自ラ其目的ヲ達スルニ便ナリ。一地方ニ於テ一個所ノ商品取引所ノ爲ニ必要有力ナル理事員ヲ其商人中ヨリ選舉スルハ容易ナリト雖モ、若シ二個所以上アリテ各適任ノ理事員ヲ得ントスルハ最モ難事ニシテ、殆ド絶望ノ事タリ。家屋或ハ業務ノ爲ニ缺クベカラザル要具其他取引上ノ便利ニ付テモ亦然リトス。又商人ノ爲ニ云フモ數種ノ商品ニ就テ營業セントスル時ハ、勢ヒ數多ノ商品取引所ニ出入セザルヲ得ズ。故ニ其往來ニ時間ヲ空費スルノ憂アリ。

商品取引所真正ノ目的ヨリ觀察スルモ、商業全般ノ爲ニ設立スルモノニアラザレバ、決シテ其要ヲ得ルコト能ハザルガ如シ。夫レ商品取引所ハ營ニ賣買双方ノ爲ニ市場トナルノミナラズ、賣買取引ノ須要事項ヲ蒐集スル機軸タラザルベカラズ。試ニ賣買取引ノ須要ヲ擧ゲンニ、一ニ曰ク事實殊ニ商品ノ性質並ニ價值ニ關スル正當ナル報告、二ニ曰ク確實ナル市場時價ノ査定、三ニ曰ク商業慣習劃一ヲ保持スル事、四ニ曰ク商法ノ外ニ公正直實ナル營業規程ノ確定、五ニ曰ク法廷ヲ

煩ハサズシテ賣買取引ニ關シ商人ノ間ニ爲スベキ調停和解等はナリ。以上記載スルノ所ノ樞要事項ハ商品ノ種類ニ依テ其體裁ヲ異ニスト雖モ、皆均シク公正實利ノ精神ヲ以テ之ヲ貫通スルヲ要スルガ故ニ、各々其間ニ分離スベカラザル密着ノ關繫アルガ如シ。而テ分設ノ商品取引所ハ決シテ商業全般ノ爲ニ設立スルモノ、如ク強大ナル勢力ヲ顯シ、之ト同一ナル效驗ヲ顯ハスコト能ハザルナリ。其役員ノ如キモ亦寡カニ權力孱弱ニシテ重キヲ示スコト能ハズ。是レ其措施スル所商業全般ニ關シ統一ヲ主持スルコト能ハザレバナリ。夫レ既ニ此ノ如クナレバ、各所ニ分設スル商品取引所ハ決シテ其創設ノ旨趣ヲ貫クコト能ハズ、殊ニ狹小ナル土地ニ於テハ單ニ之ヲ看ルニ一市場ヲ以テスルニ過ギザルベシ。

以上ノ關係ニ於テ猶ホ愛ニ重要ナル一事アリ。乃チ商業全般ノ爲ニ設立スル商品取引所ニ於テハ、不正ナル賣買殊ニ賭博ニ類スル投機賣買ヲ豫防シ、又之ヲ禁制スルヲ得ルハ分設商品取引所ニ於ケルヨリ一層容易ニシテ、且實効ヲ奏スベシ。此一事ハ就中株式或ハ通貨ノ賣買ニ就テ國家ノ財政上ニ重大ナル影響ヲ及ボスベシ。之ニ依テ觀レバ商業全般ノ爲ニ設立スル取引所ヲ以テ優等ナルモノト判定セザルヲ得ズ。但ダ特別ノ場合即チ假例セバ全般ノ商業未ダ發達セズ、或ル商品ニ限り賣買取引ノ隆盛ナル土地ニ於テハ必ズシモ此說ニ適合セザルコトアリ。然レドモ此ノ如キ土地ニ在テモ亦一個所ヨリ多クノ商品取引所ヲ設置スルハ甚ダ不可ナリトスル所ナリ。故ニ若

シ商業上ニ變動ヲ生ズルコトアルモ、之ニ應ジテ商品取引所ノ組織ヲ變更セバ可ナランノミ。

假ニ一地方ニ於テ一種ノ商品毎ニ一個所ノ商品取引所ヲ設置スルトセバ、十種ノ商品アル地方ニハ十個所ノ商品取引所ヲ設置セザルヲ得ズ。若シ此ノ如クナレバ一定ノ規律ヲ維持スル能ハズシテ遂ニ其數ニ制限ナキヨリ不測ノ禍害ヲ惹起スルニ至ランノミ。

以上全體ヨリ觀察シ了リタルヲ以テ更ニ進デ特ニ左ノ諸點ニ付異見ヲ陳述セントス。

一 政府商品取引所ノ設置ヲ許可スルニ年月ヲ限ルベカラズ。何トナレバ某種ノ商業ヲ營ム者ニ限り特種權ヲ與ヘラレ、他ノ商業者ニ向ツテハ之ヲ與ヘザルノ理ナケレバナリ。又特種權ヲ有スル商社ノ爲ニハ斯ノ如キ期限ヲ制定スルコト或ハ允當ナラント雖モ、苟モ一般商業者ノ利益ヲ増進スル爲ニ設立シタル公共組合ノ爲ニハ不利ナリト云ハザルベカラズ。

二 商品取引所ハ資本ヲ所有スルノ要ナキヲ以テ、其常員ヨリ株金ヲ募集スルコトナシ。其經費ハ成ルベク常員ヨリ之ヲ辨ゼザルベカラザルヲ以テ、常員ハ爲ニ手数料ヲ納メ、尙ホ不足ナル時ハ補充賦金ヲ納ムルモノトス。又營業稅ヲ徵收セラルベキ地方ニ於テハ常員各自ヨリ政府ニ納ムベキ營業稅額ニ應ジテ其手数料並補充賦金ヲ課セラルベシ。若シ營業稅ヲ徵收セザル地方ニ於テハ理事員會ニ於テ此手数料並補充賦金額ヲ酌定スベシ。又手数料ニ等級ヲ設クルコトハ其酌定ヲ彼此ノ間ニ不公平ナカラシムル爲ニ便法ナリトス。通常仲買人ハ他ノ常員ト同一ノ手

數料ヲ納ムベキモノナリト雖モ、商品取引所ニ於テ其從事スル賣買ヨリ生ズル收得金ハ甚ダ僅少ナラザルコトヲ得ベキガ故ニ、之ニ對シテ更ニ手數料ヲ課スルモ妨ナシトス。

三 一地方ノ商人ハ必要ノ資格ヲ具備スルニ於テハ何人ト雖モ商品取引所ノ常員トナルノ權アラシムルヲ要ス。但不正實者若クハ負債ヲ辨償セザル者ハ常員トナルヲ許サズ。如何トナレバ商品取引所ハ公正着實ナル商業上ノ組合ナレバナリ。商品取引所ノ役員ハ自己ノ裁量ヲ以テ其常員ノ登簿ヲ制限スルノ權アルベカラズ。蓋シ取引所ハ壟斷ノ性質ヲ有スル會社ニ異ナルヲ以テ擅ニ登簿ヲ左右シ私利ヲ謀ルノ道ナカルベシ。又婦女ヲ舉テ常員タラシメザルハ、男子ノ公會ニ女子ノ加入スルノ不便アルヲ以テナリ。然リト雖モ商法ニ依テ婦女ノ商業ニ從事スルヲ許シタル以上ハ、復タ以テ商品取引所ニ於ケル便益ヲ享受スルヲ禁ズベカラザルガ如シ。故ニ婦女ハ其代理人又ハ手代ヲシテ商品取引所ニ對シテ自己ヲ代表セシムルヲ得ベシ。

四 外國殊ニ獨國ノ商品取引所條例ニ依レバ、常員ニシテ過失アルカ又ハ不正ノ所爲アル時ハ之ヲ除名スルノ條款アリ、何トナレバ商業上ノ德義ヲ維持スルハ國家ノ重事ニシテ、賣買ヨリ生ズル紛擾百端ナルヲ以テ之ヲ豫防セザルベカラザレバナリ。

五 總テ商品取引所ニ於テハ其常員ノ賣買集會時間ヲ一定スルヲ要ス。是レ常員ヲシテ商品取引所外ニ於テ其商業ノ爲ニ拮据奔走スルニ便ナラシメ、且商品取引所ノ公務就中公定時價ノ査定竝ニ仲裁事務等ヲ辦理スルノ便ヲ與ヘンガ爲メナリトス。若シ之ニ反シテ時間ヲ制限スルコトナク、終日賣買ヲ爲サシムル時ハ精確ナル時價ヲ査定スルニ由ナシ。故ニ商品取引所ニ於テハ一定ノ時間ヲ恪守スルコト最モ緊要事トス。而テ其時間外ニ爲シタル一切ノ賣買ハ商品取引所ニ於テ之ヲ公認セザルベシ。

六 常員ハ通常其賣買取引ノ爲ニ仲買人ヲ使用スルノ自由アリ、何トナレバ仲買人ハ必要缺クベカラザル區域ノ外ハ權力ヲ有セザレバナリ。是レ近世ノ商品取引所條例ノ通則タリ。仲買人ヲ使用スレバ賣買取引ヲ進捗スルガ故ニ、商品取引所ノ賣買ハ多ク其媒介者ニ依テ之ヲ爲スナリ。又巴里商品取引所ニ於ケル如ク、公債證書ヲ賣買スル等或ル特種ノ取引ニ就テハ必ず仲買人ヲ使用スルノ規程ヲ定ムルヲ得ベシ。凡ソ此ノ如キ例外ハ全ク政府ノ意見ニ存スルモノニシテ、其目的トスル所ハ政府財政上ノ便宜ヲ増進スルカ、若クハ國家重要ノ商品ニ關スル營業規程ヲ決行スルニ在リトス。

七 新案第三十九條ニ載スル如ク、多少ノ特權ヲ商品取引所ニ與フルコトアリ、此特權ノ例ハ外國ニ於テモ亦往々之レアリ、現ニ奧國商品取引所條例ノ如キ是ナリ。蓋シ商品取引所ノ賣買ハ其商品取引所ノ權内ニ於テ之ヲ爲スモノニシテ、一個人ノ賣買ニ於ケル如ク法院ノ故障干涉ヲ受クベキモノニアラザルガ故ナリ。

八、仲買人ノ資格及其職務執行ニ關スル法律ノ意義ハ載セテ商法ニ詳ナルヲ以テ、復タ本條例ニ之ヲ記載セズ。而シテ其資格ニ關シテハ商法草案中左ノ如キ事項ヲ載セタリ。

(一) 仲買人ハ年齢二十五歳以上ニ限ルベシ、何トナレバ仲買人ハ其業務ニ就キ多少ノ判斷力及ビ經驗ヲ有セザルベカラザレバナリ (二) 仲買人ハ其選任セラレタル特種ノ商業ニ五個年以上從事シタル者ニ限ルベシ、何トナレバ仲買人ハ其商業ニ關シ殊ニ商品ノ價值性質賣買ノ方法營業ノ慣習等ニ付十分ナル意見ヲ有セザルベカラザレバナリ (三) 仲買人ハ善良ノ聲望ヲ有セザルベカラズ。何トナレバ仲買人ハ信用スルニ足ルベキ確實ノ人タラザルベカラザレバナリ (四) 仲買人ハ前ニ述ベタルノ理由ヨリシテ負債ヲ辨償セザル者、賭博ヲ爲ス者、又ハ之ニ類スル所爲アル者タラザルベカラズ。仲買人ハ其商品取引所ノ賣買ヨリ生ズル罰金又ハ損害賠償ニ充ツル爲ニ保證金ヲ納ムベシ。仲買人ハ營ニ其業務上ニ於テ爲ス所ノ犯罪ニ對シテ加罰セラル、ノミナラズ、義務上ノ怠慢ニ依リ其賣買主ニ被ラシムル損失、其他不正ノ所爲ニ對シテ其責ニ任ズベキモノタリ。而シテ其保證金額ハ商業ノ狀況及ビ仲買人ノ要價豫算額ヲ酌量シテ各商品取引所ニ於テ各別ニ之ヲ定ムルヲ要ス。

仲買人ノ法律ニ於ケル義務ノ重要ナルモノヲ擧グレバ下文ノ如シ。

(一) 仲買人ハ其自己ノ名義ヲ以テ又ハ其利益ノ爲ニ賣買ヲ爲サズシテ、賣買主(顯名若クハ匿

名)ノ名義ヲ以テ竝ニ其利益ノ爲メニ之ヲ爲スベシ。又仲買人ハ商品取引所ノ賣買ニ關シ時價ノ高低ニ利己ノ意見ヲ狹ムベカラズ。若シ然ル時ハ其職務ヲ公平ニ執行シ能ハザルヲ以テナリ (二) 仲買人ハ賣買主ノ代表者トシテ受授スベキモノ、外、其賣買主ノ爲ニ金錢ヲ仕拂ヒ、又ハ之ヲ受取ルベカラズ。何トナレバ仲買人職ハ代辦人又ハ銀行者ノ職業ト同ジカラザレバナリ (三) 仲買人ハ其賣買ニ於テ賣買主ノ爲ニ自ら從事シ、決シテ其代理人又ハ手代ヲシテ代理セシムベカラズ。何トナレバ仲買人ノ義務ハ其一身ニ關シタルモノニシテ、之ヲ執行センガ爲ニ特種ノ資格ヲ要シ、若シ其資格ナキ時ハ法律上選舉セラル、コト能ハザレバナリ。是ヲ以テ仲買人ハ筆算其他ノ技藝ニ關スル業務ニ限り、代理人又ハ手代ヲ使用スルヲ得ベシ。其他仲買人記録簿ノ保存、約定記録ノ渡方及ビ仲買人手數料ノ受取方等ニ關スル規程ハ既ニ商法草案ニ於テ詳細記載シ且之ヲ解説シタルヲ以テ復ビ茲ニ贅論スルノ要ナカルベシ。

該草案ニ依レバ仲買人ハ相集合シテ一ノ組合ヲ成シ、仲買人委員會ヲ構成スルコトヲ得ト雖モ、此ノ如キ組合ハ全ク商品取引所ニ同ジカラズシテ、特ニ仲買業ノ利益ヲ圖ルベキモノタリ。然レドモ双方互ニ其細則ニ矛盾セザランガ爲メ、仲買組合ハ商品取引所ト多少ノ連絡ヲ通ゼザルベカラズ。又仲買委員會ハ少クモ一名ノ代表人ヲ商品取引所ノ理事員會ニ出席セシムルヲ緊要トス。

九 農商務大臣ハ一國商務ノ監督主任者ナレバ、商品取引所ニ關シテ最高等ノ監視權ヲ執行スベキモノナリ。新案商品取引所條例ニ於テハ、多少ノ協同權ヲ大藏大臣ニ委囑セリ。蓋シ大藏大臣ハ通貨ノ融通公債證書ノ賣買其他國家ノ信用ニ關スル事項ニ付、政府財政上ノ利益ヲ監視スルノ任アルヲ以テナリ。是ヲ以テ株式賣買ニ關スル事項ハ特ニ大藏大臣ノ監督ニ屬スベキナリ。

十 商品取引所理事員ハ其常員若クハ參觀人ニ對シ多少ノ裁判權ヲ有スト雖モ、其程度ハ商品取引所内ノ秩序ヲ整理センガ爲ニ必要ナル範圍内ニ止ルベキモノナリ。其他商品取引所規程ノ犯罪ニ關シテハ之ガ處分ヲ擔當ノ法廷若クハ警察官ニ仰ギ、以テ一定ノ管轄ニ違フコトナカルベキナリ。

十一 苦情并ニ爭論ノ調停ニ關スル法理モ亦商法草案ニ詳載シタリ。然レドモ商品取引所ニ於テ爲ス所ノ調停ヲシテ他ノ商業上ノ爭論ニ於ケルヨリモ更ニ服從義務ヲ嚴ニシ、且之ヲ有效ナラシムル爲ニ、商品取引所ノ調停ニ關シ商法ノ意義ニ多少ノ更正ヲ加ヘタリ。例ヘバ商品取引所ノ常員ノ間ニ生ジタル爭論ハ取引所ノ調停和解ヲ仰グベキノ義務、仲裁委員ノ身分及ビ裁決ヲ下スノ手續等ニ於ケルガ如シ。若シ被告人ニ於テ相當ノ事由ナクシテ裁決ニ服セザル者ハ、商品取引所ノ處分ニ服從セザルノ故ヲ以テ其常員タルノ資格ヲ禁止スベシ。事茲ニ到ル時ハ乃チ其事ヲ以テ法廷ノ審判ヲ仰グノ一途アルノミ。

上 陳 書

(第二百八十九號)

當取引所株主竝ニ仲買一同ヨリ上陳書進達副書

當取引所營業上ニ關シ株主竝ニ仲買一同ヨリ別紙上陳書捧呈之儀申出事情無餘儀次第ニ候間即チ進達仕候以上

明治十九年十一月八日

東京株式取引所頭取

河 野 敏 鎌

農商務大臣伯爵 山縣有朋殿

別紙上陳ノ趣詮議及ビ難シ

明治十九年十一月十一日

上 陳 書

農商務次官 吉田清成

上 陳 書

東京株式取引所株主並仲買人等一同謹デ此上陳ヲ爲スノ趣意ハ、共同相場會所設立ノ風聞當今專ラ世ニ喧ク、爲ニ株主並ニ仲買人ハ測ル可カラザルノ困難ヲ前途ニ被ルノ不幸ニ陥ル事モアラシク懸念シ、憂苦措クコト能ハザルニ出候。

聞ガ如クナレバ共同相場會所ヲ新ニ設立セシメ、凡ソ日常必要ノ物品ニシテ市場ニ其相場ヲ立ルモノ、例バ米麥綿鹽油等ノ如キ物品ハ渾テ共同相場會所ニ於テ相場ヲ立テ、其取引ヲ成サシムルノ制ヲ定メラル可シト、而シテ諸公債及諸株券ノ取引ハ右ノ日用物品ト其性質ヲ異ニスルニ拘ラズ、之ヲモ或ハ共同相場會所ニ移サルベキ歟ト云フ風聞アルガ爲ニ、株主及仲買人ハ驚愕シテ依ル所ヲ知ラズ。萬一ニモ風聞ノ臆説スルガ如キ事アリテ、其舉突然ニ出デバ株式取引所及仲買人ハ一朝ニシテ其營業ヲ失ヒ、禍ノ底止スル所ヲ知ラザルノ場合ニ至ランコトヲ憂苦スルガ爲ニ、第一ニハ斯ル急劇ノ御處分ナカランコトヲ惴願シ、第二ニハ之ト同時ニ當株式取引所現在ノ組織

ヲ改良セシメラル、ノ時ニ臨ミテ、穩當圓滑ノ御處分ヲ蒙ラン事ヲ惴願ス。是株主及仲買人等ガ一己ノ身上ニ取リテ尤モ其緊切ヲ感ズル而已ニ非ズ、市場ノ全體ニ取リテ亦甚ダ緊切ナリト感想仕候。

當株式取引所之儀ハ、條例ヲ以テ規定セラル、所タルハ、今更申上候迄モ無之候得共、去ル明治十一年條例御發行ノ當時ヨリ今日ニ至ル迄ノ有様ヲ顧思スルニ、當初ニ在リテハ民間ニ於テ該條例ノ御趣意ヲ深ク心得ザルガ爲ニ、只其責任ノ嚴密ナルニ畏縮シ、容易ニ株式ノ募集ニ應ズルモノ無カリシニ、發起人等ハ百方勸誘ノ方便ヲ盡シ、漸クニシテ二十萬圓ノ株式ヲ整備シ、御許可ヲ得テ此取引所ヲ新設スルニ至リタルハ實ニ容易ノ業ニ無之、且ツヤ當時仲買人ハ未ダ其資力ニ乏シク、隨テ世人ノ信用薄カリシモ、幸ニ株主ノ集合力ニ依頼シ、漸ク世人ノ信用ヲ惹キタル姿ニシテ、恰モ株主ハ保險者ノ如ク、仲買人ハ株主ノ保險ニ依テ世人ノ信用ヲ來シタル有様ハ明治十一年株式取引所創設ノ際顯ハレタル現象ニ候。

創設以來日ヲ追ヒ、月ヲ重ヌルニ從ヒ、漸次當所營業ノ隆盛ヲ致シタル所以ノモノハ、世運ノ然ラシムル儀トハ乍申、株主及仲買人等踴勉從事ノ勞モ亦與テ之ヲ助成セシモノト可申歟。要之明治十一年以降今日ニ至ル迄ノ有様ヲ以テ觀レバ、該條例ハ我邦株式取引ノ創業ニシテ此條例アリテ此氣運ヲ誘致シ、隨テ該條例ヲ遵奉シ此營業ニ從事セル株主及仲買人等モ亦其幸榮ヲ蒙リタ

明治十一年以降爰ニ九ケ年ノ星霜ハ實ニ市場ノ經驗ニ著シキ歲月ニシテ、當初世人ノ危險ト看做セシ營業モ今日ニ至テハ商業必須ノ要ヲ感じ、當初信用ノ薄キ仲買人モ今日ニ至テハ世人ヲシテ之ヲ羨慕スルニ至ラシメタルモノハ即チ經驗效用ナリ。當初ノ株式ガ漸次ニ價格ヲ増シ仲買人ノ加入ヲ競フモノ殊ニ夥シキニ至リシハ、畢竟世人ガ當所ヲ信ズルノ徵證ナリト云フベシ。此有様ヲ以テ推セバ將來猶經驗ノ功ヲ積ミ時ニ應ジ宜ニ從ヒ、營業上ノ改良ヲ勉メ以テ當所ノ規模ヲシテ彌々完全ノ域ニ進マシムルハ敢テ期シ難キ業ニ無之候。

凡ソ社會ノ事物ヲ改良スルニ臨ミテ、其既ニ多少ノ經驗ヲ重ネ幾多ノ勞費ヲ要シテ以テ成立シタル事業ヲ一旦ニ廢棄シ、更ニ新規ニ創始スル所ノモノヲシテ之ニ代ラシムル事ハ深ク其利害ヲ考察セザルベカラズ。商業上ノ處理ニ於テハ尤モ之ヲ然リトス。蓋シ新規ノ事業ヲ考察スルニ際シテハ、其事業ノ完全無缺ナルハ常ニ考察者ノ想念ニ固信スル也ト雖モ、其之ヲ實地ニ施スニ至テハ往々意外ノ瑕瑾ヲ發見スルコト其例決シテ尠ナカラザレバ、彼ノ新規ノ事業ヲ創始スルヲ將テ直ニ改良ノ成果ヲ見ル者ナリト豫斷スルハ寧ロ速了ノ見解ナリト云ハザル可カラズ。良シヤ新奇ノ事業ニシテ其目的ヲ達シ得ルモノトスルモ、舊物ヲ廢スルガ爲メニ生ズル弊害ノ著大ナルニ於テハ其益果シテ安クニ在ルベキヤ。是レ最モ考察ヲ要スベキノ點ナルベシ。

明治十一年以降當初ノ株主ハ巨額ノ金ヲ投ジ、仲買人ハ多年ノ勞ヲ積ミテ以テ今日ニ至リ、苟モ條例ヲ遵奉シテ其則ニ違ハザル限リハ營業ノ繼續ヲ得ベキモノト厚ク信ジテ市場ノ取引ヲ爲シ、孜孜躡勉爰ニ從事シ、彌將來ノ隆盛ヲ期シテ止マザル折柄、今日ノ世上ニ風聞スルガ如ク當所ノ營業マデヲ俄然舉テ之ヲ新創ノ共同相場會所ニ移サシメラル、コトアラバ、株主及仲買人等ニ取リテハ實ニ無上ノ不幸ナリト云ハザル可カラズ。而シテ此不幸ハ單ニ株主仲買人ノミニ止マラズ、其間接ニ及ボス所ノ不幸モ亦決シテ鮮少ナラズト信ジ候。當所株主ガ有スル株式ハ二千株ニシテ、其株金ハ二十萬圓ナレドモ、現ニ市場ノ實價ニ於テハ之レニ數倍ヲ加フルノ價值ヲ有ス。又仲買人ハ七十名ニシテ身元金ハ二萬八千圓（一名四百圓）ナレドモ、其營利ノ歸スル所ハ殆ド株式二千株ニ對スル收利ト均シキ價值ヲ有ス（取引所ニ收ムル手数料ト仲買人ガ收ムル口錢ト其額同ジキヲ以テ其收利ノ額モ均シキ理ナリ）或ハ株式ノ騰貴スルハ眞價ニアラズシテ虛影ノ如クニ見做スモノ有ルベシト雖モ、決シテ然ラズ。現ニ價值ハ其收益ヲ根據トシテ生ズルモノナルガ故ニ、當取引所年々ノ純益配當ノ實利上ヨリ算スレバ、當株ノ價額數倍ノ騰貴ヲ來スコト、素ヨリ當然ノ數ニシテ怪シムニ足ラザル儀ナリ。斯ク巨額ノ財産ハ積年ノ功勞上ヨリ生ゼル結果ニシテ、決シテ偶然ノモノニ非ザララ一朝ニシテ之ヲ廢棄セラル、不幸ニ遭遇セバ忽チ市場ニ劇變ヲ生ジ、株主及仲買人等ガ被ル損害ハ申ス迄モナク、是レヨリ波及スル弊害ハ其際限アル可カ

ラズ。今現ニ株主名簿ニ存スル株主ハ二百餘人ナレドモ、中ニハ該株式ヲ以テ他人ニ對シ抵當保證等ノ用ニ供スルモノアリ、或ハ株主ノ名ハ一名ナルモ其實ハ數家ノ產ヲ合スルモノアリ、士族ガ祖先傳來ノ金祿ヲ株式ニ換ヘテ僅ニ一家ヲ維持スルモノアリテ、所謂一家倒ルレバ俱ニ數戸ヲ覆スノ關係ヲ有スルモノニシテ、其關係ノ及ブ所種々無量ナレバ、謔ニ所謂將棋倒ノ慘狀ヲ社會ニ現出シ、大ニ民間ノ取引ヲ妨ゲ相互ノ信用ヲモ害スルニ至リ申スベシ。是等ノ事情ハ當局ノ君子ハ素ヨリ御高察被爲在候儀ト萬々信ジテ疑ハザル儀ニ候。

若シ夫レ現行ノ條例ヲ不完全ナルモノトシテ改正ヲ加ヘラル、儀ニ候ハ、其進歩ノ改良ハ固ヨリ株主及仲買人等ガ希望スル所ニシテ、實地ノ利害ニ就キ多少考究スル所モアレバ猶其順序ヲ逐テ之ヲ上申シ、彌當所ノ規模ヲ擴張シ、漸ヲ以テ終ニハ歐米ニ設立セル株式取引所ノ如キ至重至要ノ經濟機關タルニ到ランコト實ニ一同ノ素願ナリ。苟モ今日ノ小成ニ安ズルノ心得ニハ無之候。

若シ又物品取引ト株式取引ト同一ノ場所ニテ行ハシメンガ爲ニ、當取引所ヲ廢シ強テ佛蘭西諸國ノ模範ニ準ヒ彼ノ「ブールス」ノ如キ會社ヲ新ニ設立スルヲ必要ト認メラル、義ニ候ハ、宜ク當所ノ株主及仲買人等ヲシテ歸向ノ道ヲ得セシメ、改良ノ手段ヲ圓滑ナラシムベシ。元來當所株主及仲買人等ハ偏ニ條例ニ依遵シ、營業ヲ勉メタルモノニシテ、現行條例ノ範圍ニ於テ顯レ

タル結果ニ不都合ノ舉措ナキハ現ニ明治十一年ヨリ今日マデニ未ダ一人ノ條例ニ抵觸スルノ反則者ヲ出サザルヲ以テ之ヲ明證スルヲ得ベシ。然ラバ則今日ノ株主仲買人ハ法律ヲ善守スルモノト云フベクシテ、決シテ秋毫モ條例ノ答責ニ背クモノニアラザルナリ。然ルヲ一概ニ之レヲ委棄シテ其忽ニ營業ヲ失ヒ、其忽ニ財産ヲ損スルヲ顧ミズ、却テ之ヲ將テ他ノ新規者ニ付與スルガ如キ狀況アランハ穩當圓滑ノ處分トハ云ヒ難カルベシ。

上陳ノ趣旨ヲ約言スレバ今日共同相場會社ノ風聞ヲ事實ナリト假定シ、其相場取引ハ日常物品ニ止マリテ敢テ諸公債諸株式ノ取引ニ及ボスコト無シトセバ、當株式取引所ノ株主及仲買人等ハ固ヨリ一言ノ趣意ヲ陳ル可カラズ。然レドモ若シ風聞ノ如ク諸公債諸株式ノ賣買取引ヲモ其共同相場會社ニ於テ行ハシムルノ議アリトセバ、其議ヲ突然斷行セラル、ニ當リテハ忽ニ市場ニ激變ヲ起シテ名狀ス可カラザルノ慘狀ヲモ民間ニ現出セシメンハ必然ノ勢ニ付、豫メ之ヲ上陳シテ急劇ノ御處分ナカランコトヲ悃願スルニ外ナラズ。將タ共同相場會社設立ノ是非得失及方法手段等ニ關シテ、當局ニ於カセラレテハ民間ノ實際ヲ御酌アランガ爲メニ、商業會社ニテ重立タル者共ノ意見ヲモ御垂問アル由ニ承リ候、寔ニ聖代ノ美事ナリ。果シテ然ラバ株式取引所ノ改良ニ關シテハ十分ノ御垂問ヲ蒙リ度、一同ノ者ガ積年ニ經驗スル所ト事實ニ推考スル所ヲ舉テ以テ當局ノ尊聽ニ達セバ、必ズ御參考ノ材料タルベキ者アルベシ。且ツ其改良ノ方法ニ就テハ各自ノ考案

モ有之候へバ御垂問ニ應ジテ必ズ之ヲ披陳セント欲ス。株主及仲買人等ハ今日ノ風聞ニ際シテ自ラ安ズルコト能ハザルニ由リ、差向キ右ノ事情ヲ上陳シテ宜ク御賢察アラセラレシコトヲ悃願ス。此段謹テ上陳仕候。拜首敬具

明治十九年十一月五日

東京株式取引所仲買總代

高野藤吉	須藤吉右衛門	山縣保兵衛	諸葛小彌太	天矢正剛	岡本善七	平松甚四郎	山中隣之助
------	--------	-------	-------	------	------	-------	-------

東京株式取引所株主總代

渡邊治右衛門

農商務大臣伯爵 山縣有朋殿

鄙見

河野敏鎌

近來取引所改革ノ議類ニ興リ、頗ル世上緊要ノ問題トナリ、殊ニ直接ノ關係ヲ有スル商人買客ノ間ニハ一層ノ感覺ヲ惹起シタルコト誠ニ自然ノ狀勢ニシテ、凡斯等ノ施設ハ全國ノ殖産財用ニ非常ノ關係アルコト敢テ某ノ贅言ヲ要スルマデモ之ナク、而シテ其關係極メテ大ナルガ故ニ、之レガ改革ヲ施スニ方リテモ一舉一措務メテ之ヲ慎重ニシ、其本質ヲ精究シ其利害ヲ熟計シ、必ズ十分ノ審査ヲ盡シテ而シテ後決然之ヲ實行セラルベキコト是レ亦敢テ喋々ノ辯ヲ待タズ。抑舊ヲ去リテ新ニ就クハ世態ノ上進ニ伴フベキ自然ノ行路ニシテ、徒ニ之ヲ以テ奇ヲ好ミ新ヲ愛スルノ心ニ歸スベカラザルハ勿論、苟モ舊物ニシテ弊端アレバ翻然之ヲ改メテ吝ナルベカラザルコト固ヨリ當然ノコトニシテ、某ト雖モ夙夜之ヲ以テ志トシ、未ダ曾テ一日モ懷ニ忘レズ。然レドモ舊物ノ弊ヲ革ムルト新業ヲ創始スルトハ自ラ確然タル區別アリテ、舊物ノ廢スベキハ百弊アリテ其利ヲ償ハザル時ニ於テスベク、新業ノ興スベキハ百利アリテ其害ヲ償フテ餘アルノ時ニ於テスベシ。利害ノ計較是ニ於テ乎最モ缺クベカラズ。而シテ凡社會ノ事物一トシテ利弊相伴ハザルモノ

ナク、唯其多寡ヲ計リテ利害ノ判ヲナスベキノミ。苟モ其害ノミヲ舉ゲテ之ヲ斥クレバ一事モ之ヲ實際ニ施スヲ得ザルベク、彼一利ヲ生ズルハ一害ヲ除クニ如カズトイヘルコト、往々事實ニ的中スルコトナレドモ、徒ニ一害ヲ除カントシテ併セテ之ニ伴フノ百利ヲ失フト、漫ニ一利ヲ興サントシテ總テ之ニ隨フノ百害ヲ顧ミザルガ如キハ固ヨリ改良ニ任ズルモノ、當ニ避嫌スベキコトト謂フベク、眞成ノ改革ハ、利ノ在ル所ハ務メテ之ヲ存シ、害ノ存スル所ハ漸ヲ以テ之ヲ除クニ在リ。是レ固ヨリ某ノ私言ニ非ズ、當局者諸公ニ於テモ必ズ已ニ深思熟計セラレタル所ナルベシ。唯利害ノ判定ヲナスニハ事實ヲ以テ之レガ材料トナサルベカラザルガ故ニ、今聊カ某ガ親驗スル所ニ由リ事實ヲ舉ゲ以テ諸公ノ參考ニ供セントスルノミ。苟モ採擇セラル、所アラバ某ノ幸實ニ甚シ。

今世上ニ喧傳スル商品取引所新設ノ論旨ヲ聞クニ、其新者ヲ以テ利トシ舊者ヲ以テ害トスルノ事由大抵下ニ論ズル三要點ニ出デザルガ如シ。

其一ニ曰ク、商品取引所ハ大都會ニ缺クベカラザルモノニシテ、時價ノ平均ヲ保持シ投機者ノ妄濫ヲ防ガントスルニハ取引所ヲ設ケ、社員即仲買人ヲ定メ、以テ確實ノ賣買ヲ爲サシムルニ如クハナシ。而シテ限月取引ニ係ルモノハ米穀ト株式ト敢テ異ナル所ナキガ故ニ、之ヲ一所ニ集メ、之ヲ一條例管理ノ下ニ置クハ最便トスベキナリト。夫レ商品取引所ノ必要ハ今日敢テ論ズルマデ

モナケレドモ、株式取引ヲモ之ニ併スルハ某窃ニ以テ然ルベカラズト思惟セリ。

抑物品ニ眞價ヲ生ゼシメ、物貨ニ停滯不動ノ弊ヲ絶チ、需給ノ平均ヲ得セシメ、生産者ハ之ニ由テ勞セズシテ販路ヲ得、安ンジテ業ニ從フヲ得ルハ商品取引所ノ用ニシテ、政府ノ公債證書諸會社株式ノ眞價ヲ生ゼシメ、金融ノ繁閑金利ノ昂低ヲ徴シ、諸會社ノ盛衰ヲトシ、財本家ハ之ニ由リ勞セズシテ運轉ノ便ヲ知り、安ジテ金融ノ道ヲ得ルハ是レ株式取引所ノ效ナリ。一ハ殖産ヲ利シ、一ハ財用ヲリス。其目的性質自然相異ナルガ故ニ商業不振ノ時ト取引狹隘ナルノ地ニ在テハ往々之ヲ併一セルモノアリト雖モ、通邑大都商業ノ中心タル地ニ在テハ各別ノ施設ヲ要スルコト歐米諸國其實例多シ。蓋シ事物ノ進歩ニ伴フテ事業ノ繁密ヲ來シ、從テ分業ノ必要ヲ生ズルコト論ヲ俟タズ。苟モ將來ノ發達ヲ謀ラントスレバ、新置ノ際已ニ之ヲ分設スルノ希圖ナカルベカラズ。况ヤ今已ニ專業ノ株式取引所アリ、愈益業ヲ分テ以テ前途ノ盛大ヲ期スルハ宜シク然ルベシ。之ヲ廢シテ合業ノ取引所ニ歸スルハ或ハ喬木ヲ下リテ幽谷ニ入ルノ嫌ナシトセズ。東京ノ地商業振ハズ販路雍塞シ、取引亦廣濶ナラズトセバ、合併ノ策或ハ不可ナカラン。苟モ吾國商業ノ中心タルヲ失ハズ、株式取引所ノ必要其設立ノ年ト敢テ異ナルコトナキニ於テハ、強テ退歩ヲ求ムルハ其理ナキニ似タリ。

又從來ノ組織ニ從ヒ諸種ノ取引所ヲ別置スルハ徒ニ費用ヲ嵩ムガ故ニ改メテ一所ノ管理ニ歸

シ、以テ節約簡便ヲ期スベシトイフモノアリ。某ヲ以テ見レバ他種ノ取引ハ暫ク措キ、株式ヲ以テ他ノ商品ト同ジク一所ニ取引ヲナサシムルモ專業ノ役員、帳簿ノ取扱、仲買ノ熟練等自ラ舊取引所ト同様ノ殊別ヲ生ゼザルヲ得ザルベク、多少ノ節約簡便ハ或ハ之ヲ得ベシ。未ダ顯著ナル利用アリト謂フベカラズ。之ニ反シテ兩種相異ナルノ事業ヲ併セテ之ヲ一所ニ集ムルノ弊ハ、必ズ混雜ト紛議トヲ免レザルベク、取扱フ所ノ物品ニ殊別アリ、實業者ニ殊別アリ、利害ノ感彼此互ニ相同ジカラズ。苟モ其間ニ立テ十分ノ整理調停ヲ施サンコトヲ期スレバ、自ラ其準備ナカルベカラズ。然ラバ論者ノ望ム費用節減ノ果ヲ得ズシテ却テ混雜紛議ノ煩ヲ觀ルニ堪ヘザラントス。加之論者ノ中從前ノ組織ニ於テ株式仲買ノ兩立セルヲ以テ利害ヲ殊ニスルノ弊アルヲ咎ムルモノアリ、事實ニ於テ斯弊ナキハ後段ニ陳述スルガ如シト雖モ、苟モコレヲ以テ弊ナリトスレバ、一所ニ集レル實業者ノ利害ヲ異ニセザルヨリ起ルノ弊ハ果シテ如何ナルベキ。論者ノ見茲ニ及バザルハ其ノ解スル能ハザル所ニシテ、當局者諸公モ必ズ某ト疑ヲ同クセラル、所ナラン。

其二ニ曰ク、株主仲買人ノ兩立スルハ弊害ノ存スル所ナリ。所謂併資會社ハ素ト株金ヲ募集シテ組織スルモノナレバ、會社ハ其株主總體ノ所有ニシテ其役員ハ即チ其株主總體ノ代任者ナルガ故ニ、唯株主ノ利害ノミヲ謀リ商業上全般ノ便否ヲ思ハザルニ至リ、又仲買人タル者ハ株主ノ利害ト相離レテ只管一個ノ私利ヲ營ミ、取引所ノ損益ヲ顧ミズ、遂ニ公然タル取引ヲ避テ密賣買ヲナ

スニ至ル、是レ株主ト實業者ト利害ヲ異ニスルヨリ生ズル弊ニシテ、其極賣買取引ヲ澁滯セシムルニ至ルト。某思フニ此ノ如キ弊害果シテ此ノ如キ會社ニ存スルモノトセバ、是レ決シテ組織ノ上ニ存スルニアラズシテ社員其人ノ德義ニ存スルモノナリ。若シ夫レ社員中共同ノ利害ヲ忘レ、自己ノ利害ニノミ走ルトキハ何等ノ組織ヲ以テスルモ決シテ其害ヲ遏ムルコト能ハザルベシ。此ノ如キハ唯ニ株式取引所ノミナラズ、何等ノ會社ト雖モ其弊ヲ免レザルナリ。而シテ今實際上ヨリ取引所ノ組織ヲ觀察スルニ、株主ハ仲買人ノ便宜ヲ謀リ、仲買人ハ取引所ノ繁昌ヲ主トシテ各其務ニ從事スルノ效果アリ。是レ道理上當然ノ事ニシテ、仲買人ノ利益ハ取引所ノ保護ヨリ生ジ、取引所ノ繁昌ハ仲買人ノ便利ヨリ來ルガ故ニ、其利害ノ相關スル所極メテ切實ナリ。斯ク切實ナル關係アリテ兩者相扶ケ相賴ルノ必要ハ各自利害ヲ共ニスベキ情由ヲ其組織ノ中ニ存セシムルモノナリ。是レ事實ニ於テ兩者利害ヲ異ニスルノ跡ナクシテ却テ利害ヲ同フスルノ情アル所以ナリ。論者又取引所ノ組織ニ就テ說ヲナシテ曰ク、株主ハ其資本ノ殖利ノミニ着目シ、仲買人ヲシテ市場ノ賣買ニ多額ノ手数料ヲ拂ハシメテ自ラ利センコトヲ勉メ、隨テ取引上ニ不便ヲ生ズルノ弊アリト、是レ亦思ハザルノ甚シキモノナリ。元來株主ノ組織ハ株主ニ於テ仲買人ニ對シ賣買上ノ保險ヲナスモノナレバ、仲買人ハ之レニ對シテ手数料ヲ拂フハ理ニ於テ當然ナルノミナラズ、從來ノ實驗ニ於テモ仲買人ハ常ニ此事ヲ以テ便ナリトシ、客モ亦此事ヲ以テ至當トナシ、毫モ此

等ノ爲メニ取引ヲ澁滯ナラシムルノ弊アルコトナケレバナリ。

現行ノ條例ト雖モ未ダ以テ安全ナリト云フヲ得ズ。然レドモ熟ラ同條例ノ頒布以來今日ニ至ル迄ノ沿革及ビ實際ノ成跡ニ就テ觀察スルトキハ思ヒ半バニ過グルコトアリ。抑モ同條例ノ初メテ裁定セラレシ當時、民間ノ情況如何ヲ顧ルニ慣習ノ然ラシムル所世上頗ル商業ヲ賤ムノ風アリ。殊ニ往日ノ米市場ト稱スルモノハ奸商狡賣ノ奇利ヲ博スル賭場ノ如ク、正業ノ最モ忌避セル所ナルヲ知ルベシ。徳川政府モ常ニ之ヲ目シテ狡商ノ弊賣ト做シ、遂ニ法律ヲ以テ其效用ヲ發作スルノ念ヲ絶チ、唯其害ヲシテ甚シキニ至ラシメザルヲ以テ管理ノ目的トセシモノノ如シ。明治七年ニ至リ米油限月賣買ヲ差止メ、更ニ此營業ヲシテ同年第三百三十八號布告株式取引條例ニ倣ハシメントシ、次デ明治九年第五百五號布告ヲ以テ米商會所條例ヲ頒布セラレ、其後明治十一年第八號布告ヲ以テ株式取引所條例ヲ改正發布セラレタリ。此ニ於テ米商ト株式ノ別漸ク劃然タルヲ得タリ。惟フニ此條例中株主仲買兩立ノ組織ヲ爲シタル所以ハ、因襲ノ久シキ世ノ仲買人ヲ視ルコト猶或ハ往日ノ相場師ニ於ケルガ如キ情アルガ故、安ジテ取引ヲ委託スルヲ得ザルニ由リ、條例ニ於テ別ニ株主ナル者ヲ設ケ、資金ヲ備ヘ以テ仲買人ノ取引上ニ對スル保險ニ供セシメ、専ラ商業上ノ安固ヲ求メタルモノナリ。是レ此組織ニ由リテ株主ト仲買人ヲ兩立セシメ、取引上ノ危險ヲ防護スルノ本意ヲ達シ、頗ル世上ノ信用ヲ誘起シタルヲ知ルベキナリ。要スルニ此條例アリテ株式取

引所ハ他ノ會社ト相分レテ始メテ眞成ノ市場トナリ、漸ク商業發達ノ狀ヲ呈シタリ。果シテ然ラバ株主モ仲買人モ皆此條例ヨリ生出セルモノニシテ、商業ノ發達シタルモ亦此條例ノ效果ニ歸セザルヲ得ズ。

然レドモ明治二十年ノ商業世界ハ復タ明治十一年ノ商業世界ニ非ズ。十年間ニ現ハレタル事物ノ進歩ハ現行ノ條例ニ改良ヲ促スノ情勢ナキニ非ズ。故ニ今日ニ當リテ取引所ノ制ヲ改良スルノ基ヲ立テ漸ヲ以テ之ヲ實行スルノ計畫ヲ定ムルハ實ニ緊要ノ事ニシテ、某ノ最モ希圖スル所ナリ。若シ此改良ヲ求ムルニ於テ株主仲買人兩立ノ制ニ弊害アルヲ認メバ、仲買人ヲシテ相當ノ株式ヲ所有セシムルモ可ナリ、又株式ヲ賣買セシムルトキハ常ニ責任者ノ移動ヲ生ジ、資本緊固ナラズシテ商業上ノ弊害ニ歸スルトノ説ニシテ多少據ルベキノ道理アラシメバ其賣買ニ就テ適當ノ制限ヲ設ケ、以テ資本ヲ堅クスルノ方法ヲ定ムルモ決シテ難キニ非ズ。又資本薄弱ナリトノ慊アラバ更ニ株式ヲ増加セシメ、多額ノ資本ヲ募集スルモ亦可ナリ。之ヲ要スルニ現在成立セルモノニ就キ至當ノ改良ヲ加ヘ、以テ世ノ期望ニ副フノ道ヲ求ムベキノミ。其實ニ改良ヲ希圖スルモノナリ。唯之ヲ急劇ノ手段ニ求メズシテ圓滑ノ方便ニ求ムルモノナリ。夫ノ現制ノ弊害ノミヲ察シテ之ヲ矯正スルニ銳意ナルヨリ、現制ヲ舉ゲテ之ヲ破壊シ之ニ代フルニ全ク經驗ナキ新制ヲ以テシ、以テ舊物ニ勝ルノ便益ヲ其改革ニ收メントスルガ如キ、某未ダ其得策タルヲ信ゼザルナリ。凡ソ事

物ニ經驗ノ效アリ、練習ノ用アリ、養成ノ果アリ、其實際ニ存スル事情ヲ究メズシテ單ニ舊物取ルニ足ラズ、宜シク之ヲ除却スベシト云フガ如キハ某未ダ其穩當ナルヲ知ラザルナリ。若シ夫レ從來我邦ニ取引所ノ設ナク、恰モ曠原ニ家屋ヲ築クガ如キ場合ナランニハ、直チニ歐米ノ法ニ倣ヒ一意新ヲ競フモ妨ゲナキガ如シト雖モ、今我邦ニハ已ニ久シク成立セル取引所アリテ民皆其便ニ由リ、其益ヲ受ケ、數年來拮据經營シテ養成シタルノ信用ハ爭フ可ラザル所ナリ。今時勢ノ進歩ニ應ジテ之ガ改良ヲ求ムルニ當リテ、舊物ヲ全廢シテ別ニ取引所ヲ新設シ、多年ノ間ニ生成シタル富ヲ取去テ他ニ移スガ如キ急劇ノ變動ヲ攪起スルハ、社會ノ秩序ヲ重ジ世帯ノ着實ヲ望ムモノノ最モ恐ル、所ナリ。人アリ或ハ言フ、營業期限内ニ於テ之ヲ廢スルコトアラバ激變ト云フベキモ其年期ヲ終リテ後更ラニ法律ヲ改メ新規ノ設置ヲ爲スハ當然ニシテ誰レカ之ヲ爭フモノアラント、此ノ如キハ坐上ノ理論ニシテ實務者ノ取ラザル所ナリ。所謂期限トハ其實改正期限ト認メテ可ナリ。已ニ一會社ノ設立ヲ認可シ、法律ヲ以テ之ヲ裁定シ、規定ヲ設ケテ之ヲ檢束シ、其事ニ從フノ種族此ニ生成シ、其業ヲ營ムノ道途此ニ開發シ、數年ヲ經歷シテ商業上最モ活潑ナル性質ヲ具有セシメタル今日ニ當リ、俄然之ヲ全廢スベシト云フガ如キハ政治上ノ德義ヲ顧ミザルノ嫌ナキニ非ズ。蓋シ舊物ニシテ之ヲ滅絶スルノ外他ニ改良ノ道ナシトセバ、固ヨリ已ム可ラズト雖モ、他ニ改良ノ道アルモ捨テ、講ゼズ、一概ニ舊物ヲ滅絶シテ既ニ成立セル富ヲ取リテ新タニ他

人ニ授クルガ如キハ德義上忍ブベカラザルコトニシテ、人情其不幸ヲ感ゼザルヲ得ズ。既ニ人情ニ感ズベキ德義上ノ責アリトセバ、假令表面ノ論理ハ之ヲ防グニ足ルモノアリトスルモ、其事ノ激變ヲ咎ムルニ於テハ其揆一ナリ。況ヤ人民ノ財本ヲ投ジテ事業ヲ興スモノハ皆信用上ヨリ成立スル結果ナレバ、徒ラニ理論ニ據リテ之ヲ斥クルガ如キハ爲スニ忍ビザル所ナルヲヤ。是レ某ガ此改良ヲ講ズルニ徐々其歩ヲ進メ、漸ヲ期シテ圓滑ナル改良ヲ取ランコトヲ希望シ、急激ノ改革ヲ忌ム所以ナリ。

其三ニ曰ク、從來ノ仲買人ナルモノハ多クハ鄙劣ノ徒ニシテ自ラ慎重セズ、唯空相場ヲ事トシテ奇利ヲ擁セント欲スルモノナルガ故ニ、世人ニ對シテ一切信用ナシ。故ニ之ニ換フルニ身元確實ナル紳商ヲ以テスベシト、是レ果シテ事實ヲ盡セルノ言ナルヤ。某ヲ以テ之ヲ視レバ或ハ一班ヲ擧ゲテ全貌ヲ槩スルノ過ヲ免レザルニ似タリ。他ノ仲買人ハ茲ニ論ズベキ限ニ非ズ、當取引所ノ仲買人ニ在テハ明治十一年創業以來茲二十年、年ヲ經ル已ニ多クシテ斯業ニ從事スルモノ其人亦多シ。然レドモ密賣買等ヲ以テ法律ニ觸レタルモノ未ダ曾テ之アラズ。現品受渡ノ約期ヲ誤リタルモノ終始唯二人ノミ。而シテ深ク其情ヲ按ズレバ其二人ト雖モ痛ク其罪跡ヲ責ムベカラザルモノアリ。當取引所ノ仲買人ガ其本務ニ服スルニ於テ常ニ慎重ヲ專トシタルノ迹ハ某窃ニ識者ノ諒知セル所ナランコトヲ信ズルナリ。又其身元資産及營業上信用ノ如何ニ就テハ當取引所ノ實際

報告ニ徴シテ之ヲ明判スルコト敢テ難シトセザルナリ。

試ニ昨十九年下半期間ノ總出來高ヲ擧グレバ、諸公債證書額面八百〇一萬九千〇四十圓ニシテ（營業日數百四十四日平均一日ニ付五萬五千六百十六圓ニ當ル）此出來高ヲ仲買六十五名（總員六十七名ナレドモ内二名ハ一切營業ヲナサルニ依リ除ク）ニ平均スレバ一名ニ付十二萬三千六百十九圓ニ當レリト雖モ、該半季間ハ公債證書ノ賣買寡少ニシテ仲買人中此取引ニ從事シタル人員ハ僅ニ十名ニ過ギザルヲ以テ更ニ總出來高ヲ以テ十名ニ平均スレバ一名ニ付八十萬〇千九百〇四圓トナレリ。

又同半期間ニ於テ諸株式ノ賣買員額ハ四十八萬千五百五十五株ニシテ（營業日割一日ニ付三千三百四十四株一分二厘ニ當ル）此出來高ヲ仲買六十五名ニ平均スレバ一名ニ付七千四百〇八株五分トナレリ。而シテ同半期間賣買取引上ヨリ生ズル手数料收入額ハ八萬六千二百五十二圓二十八錢五厘ヲ得タリ。此額ニ準ズレバ仲買人ガ收入スル口錢モ亦此割合ニ同ジカルベシ（取引所ニ收ムル手数料ノ額ト仲買人ガ收ムル口錢トハ其割合ヲ同フセシヲ以テナリ）試ニ之レヲ仲買人六十五名ニ平均スレバ一名ニ付千三百二十六圓九十五錢八厘（一ヶ月平均二百二十一圓十五錢七厘餘）トナレリ。又同半期間當取引所ニ於テ諸證據金ノ出納金額ヲ算スルニ、入高四百〇八萬六千九百九十九圓五錢、出高三百八十二萬二千〇二十三圓九十錢ニシテ一日ノ平均有高ハ金四十六萬七千五百二

十七圓トス。之レヲ仲買人六十五名ニ平均スレバ一人ニ付七千〇九十二圓七十錢餘トナルベシ。夫レ取引ヲ爲シタル公債株式ノ數此ノ如ク其レ多ク、客ヨリ領置シタル證據金ノ額此ノ如ク其レ夥シ。而シテ仲買人ノ收利モ平均一ヶ月二百二十圓ノ多キニ上リ、現今普通商人ノ資産ニ比スレバ之ヲ中等以上ニ位セシムベキコト亦彼レガ如ク其レ明カナリ。之ヲ以テ身元資産ナキヲ危ブミ之ヲ以テ信用ナキモノトスルハ乃チ太過ナルコトナカランカ。夫レ密賣買空相場ヲ忌避スルコト已ニ著シク信用ノ存スルコト亦顯然タルニ、論者ハ動モスレバ鄙劣無信ヲ以テ之ヲ誣ユ、某窃ニ當取引所仲買人ノ爲メニ其不幸ヲ歎ジ、併セテ當路諸公ノ明固ヨリ涇渭ヲ分チ罪寃ヲ辨セラルルアラソトヲ期望スルナリ。

抑身元トイヒ資産トイフニ固ヨリ一定ノ標準ナシ。今從前ノ仲買人ヨリモ身元アリ資産アルモノヲシテ斯業ニ從事セシメントイフハ、信用ヲ厚フスルニ於テ感覺上或ハ寸毫ノ效果ナキニシモアラザルベシト雖モ、抑亦何ノ必要アリテ然ルヤ、無限責任ノ取引所ヲ設クルガ如キハ蓋之ヲ今日ニ望ムベキニ非ズ、苟モ其責任ニシテ限ル所アリトセバ、信用ノ存スル所ハ單ニ身元金ニ止マルベシ。身元金額ノ多寡ハ信用ノ厚薄ニ關スベキガ故ニ、權宜ヲ計リテ之ヲ増額スルハ固ヨリ可ナリ。之ヲ出スモノノ人物資産ヲ問フハ果シテ如何ナル重要ノ關係アリテ然ルヤ。况ヤ從前當所仲買人ノ身元資産已ニ世上ノ人ノ信用ヲ満足スルニ足リシコト、事實ニ徴シテ明ナルニ於テヲ

ヤ。又况ヤ一定ノ標準ナキ身元資産ヲ取テ、此レ彼レヨリ確實ナリトイヒ、信用スベシトイフモ定據ナキニ於テヲヤ。世間固ヨリ紳商其人アリ、其人物資産依頼スルニ足ルベキモノ誠ニ多カルベシ。然レドモ其人果シテ自ら仲買人ノ業務ニ從事スルヲ得ベキカ、必ズヤ從前ノ仲買人ヲ求メテ已レノ代理トナスニ止マルベキナリ。今夫レ人物資産已ニ依頼スベカラザルガ故ニ自ら身元金ヲ納レ自ら己レノ爲メニ營業スルモ猶好黠制スベカラズト思ハレタル仲買人ヲ以テ、直接ニ痛痒ナキ他人ノ使役ニ供セシメ、而シテ好結果ヲ得ント欲スルハ論者ノ思慮果シテ到ラザル所アルカ、何ゾ其前後相反スルノ甚シキヤ。抑事實ニ於テハ當所仲買人ノ身元資産固ヨリ論者ノ誣ユルガ如キニ非ズ、徒ニ紳商ノ聲望ヲ假リテ其外面ヲ塗抹スルモ、特ニ信用ニ益スル所尠キノミナラズ、紳商其人ノ選擇宜シキヲ得ザルニ於テハ往々不測ノ弊害ヲ生ズルノ虞ナシトセズ。今日紳商ト呼バ、人々ノ中、公債株式等ノ相場ニ手ヲ出シ、各腹心ノ仲買ヲ擁スル事實ハ固ヨリ蔽フベキニ非ズ。而シテ當取引所ニ於テ現品受渡ノ約期ヲ誤リタル前後唯二人ノ仲買人ハ、果シテ如何ナル事情ニ由リテ罪責ヲ負フニ至リシカト尋ヌルニ、全ク客仲間ノ術中ニ陥リタルモノニシテ、悟ラズシテ圈套ニ落チタル仲買人ノ失計ハ固ヨリ憐ムベキモノアリト雖モ、故ラニ之ヲ陥レタル客ヲ精究スレバ或ハ紳商其人ヲ算入セザルヲ得ザルノ歸着ニ至ルベシ。乃チ新舊ニ制ノ利害得失更ニ明辯ヲ待タザルベキナリ。

以上ニ述ブル所ヲ概括スレバ第一論者ハ商品取引ト株式取引トノ殊別ニ注意セザルノ過アリ。第二現行組織ノ實際運用ニ通ゼザルノ過アリ。第三現行仲買人ノ身元信用ヲ誣ユルノ過アリ。凡ソ斯等ノ要項ハ事實ノ瞭然トシテ疑ヲ容ルベカラザルモノニシテ、新舊兩制ノ得失ヲ判ズルニ方リテハ、第一ニ參考ニ資スベキ材料タリ。論者ノ改革ニ銳意ナル、其志ハ固ヨリ嘉スベシト雖モ、狂奔ニ過ギテ事實ヲ誤リ、疎漏ニ失シ、利害ノ判ヲ顛倒スルガ如キアラバ特ニ新物ノ利用ヲ見ルコト能ハザルノミナラズ、舊物ノ遺利モ併セテ蕩滅ニ就カントス。當路諸公ノ明、改良ノ方案ト利害ノ計較トニ於テ策ニ遺算ナキコト固ヨリ某ガ言ヲ待タズ。唯其現ニ取引所ノ役員ニ列シ、實際ノ事業ニ從事セルガ故ニ心殊ニ利害ニ切ニシテ之ヲ事實ニ徵スルノ便宜亦頗ル備ハレリ、故ニ敢テ黙止セズ聊カ絮言ヲ以テ諸公ノ高聽ヲ煩ハス。改良ノ美事タルハ某ト雖モ之ヲ知り、之ヲ企圖シ、苟モ過激無謀ノ舉ニ出デズ、確然タル根據ニ由リ、政治上ノ德義ヲ損セズ、圓滑ノ改革ヲ爲スノ道アレバ朝夕之ヲ聞カンコトヲ樂ミ、夙夜之ヲ言ハンコトヲ願ヘリ。唯一朝ニシテ急激ノ改革ヲ施シ、其利未ダ興ラズシテ其害先ヅ生ジ、舊物ヲ廢スルノ餘弊遂ニ民人多年ノ經營ヲ一空スルガ如キハ某ノ最モ懼ル、所ニシテ、諸公ノ高見亦之レニ出デザルベキヲ知ルト雖モ、一片ノ愚衷切々憇々止ム能ハザルモノアリ、是ニ於テ乎盡言スルコト此ノ如シ。若シ夫レ改良方按ニ至テハ某亦干慮ノ一得ナキニ非ズ、幸ニ諮問ヲ辱フシ肺腑ヲ叩クヲ得バ、某ノ本懷何物カ之

レニ加ヘン。書意ヲ盡サズ千萬諒察ヲ賜ハレ。再拜

明治廿年二月

米商會所株式取引所組織改正ノ案ニ付テハ曾テ卑見ヲ陳シテ其得失ノ歸スル所ヲ論究セシガ、今復タ其改正順序ニ付テ最モ必要ト思考スル各項ヲ茲ニ摘載シ明鑒ニ供スルコト左ノ如シ。

一 米商會所并ニ株式取引所ハ従前ノ株式會社タルノ性質ヲ廢シ、更ニ仲買共立取引所ヲ創設セシムベキ事。

茲ニ従前ノ株式會社ヲ廢シ、更ニ仲買共立取引所ヲ創設センコトヲ希望スル所以ハ、是レ等取引所ニシテ併資ノ性質タルハ其弊アリテ其利少ナク、寧ロ共立取引所ノ弊ナク、利アルニ若カザレバナリ。今試ニ其利弊ノ要項ヲ指點スレバ、併資會社ハ素ト株金ヲ募集シ以テ組織セルモノナレバ、會社ハ即チ其株主惣體ノ所有物ニシテ其役員ハ又株主惣體ノ代授者タルニ過ギズ。故ニ會社役員ハ成ルベク其所有者ナリ其委授者ナル株主惣體ニ利益ヲ與ヘンコトニ熱心スベキハ是レ當然ノ情狀ニシテ、亦本分ノ務メト云フベシ。果シテ然ラバ會社ニ於テハ是非トモ會社一切ノ諸經費ニ充ツベキ外、尙ホ株主惣體ニ配當スベキ金額ヲモ收入中ニ要求セ

ザルベカラズ。而シテ其收入ハ何レニ向テ要求スルト爲サン乎。會社ハ之レヲ仲買人ニ要ムベク、仲買人ハ復タ之レヲ需用供給者ニ要スルノ外途ナカルベシ。如斯ハ徒ニ需用供給者ノ費途ヲ重クスルノミナラズ、爲メニ賣買ヲシテ澁滞ナラシムルニ至ルベキナリ。然レドモ共立取引所ハ之レニ反シ全ク仲買人中ヨリ組織セル方法ニシテ、取モ直サズ仲買人ノ一集會場ニ過ギザレバ、素ヨリ他ニ一ノ株主ヲ有スルコトナク、從テ又配當金ノ必要ヲモ見ザルナリ。而シテ其要スル費用ハ僅ニ諸經費ノ一項ニ過ギザレバ、其收入スベキ手数料モ可及的低減スルヲ得ベシ。然ルトキハ需用供給者ノ費途輕クシテ其賣買ヲ活潑ナラシムルヤ必然ナリ。加之ナラズ仲買人ノ共有タルニ於テハ、其取引所ノ盛衰興廢ハ直ニ仲買人ノ利害ニ關係スルヲ以テ、互ニ弊害ヲ匡正シテ繁榮ヲ謀ルニ至ルベシ。是ヲ以テ取引所ノ基礎愈々堅固ナルヲ得仲買人ハ益々正當着實ニ歸シ、遂ニ昔日ノ如ク自カラ法律ヲ犯シ法廷ヲ煩ハスノ醜態ヲ絶ツニ至ラン。

一 右ノ改正ヲ實施セント欲セバ先ヅ全國米商會所株式取引所ニ向テ目下許可セラル、年限ノ外ハ今日ノ條例ニ據テ兩會所ノ設立ハ禁止セラル、ノ布告ヲ發セラレ、且米穀又ハ株券公債證書等ニ於テハ共立取引所ヲ設置シテ其營業者共ニ一所ニ團集シテ定期又ハ現物ノ賣買ヲ爲シ得ベキ共立取引所條例ヲ頒布セラレベキ事。

既ニ從來ノ會社法ヲ非トシテ之レガ改正ヲ要スルモ、苟モ條例ニ據テ創立セシ各會社ヲシテ一朝俄然廢停セシムルハ其措置ノ宜キヲ得ルモノト云フベカラズ。故ニ現ニ許可セラル、年限ヲ以テ之レヲ禁止スル旨ヲ布告セラレ、之レニ共立取引所條例ヲ頒布セラル、時ハ、營業者ハ他日共立取引所ヲ設置スルノ目的ヲ得テ此類ノ營業ヲ澁滞セシムルノ患ナカルベシ。

一 共立取引所條例ハ歐米各國其制ヲ異ニシ、現ニ佛國ノ如キハ法制嚴正ニシテ其仲買者ヲ免許スルハ大政院ノ裁可ヲ以テスルガ如キ鄭重ナル手續アリト雖モ、米國ノ如キハ之レニ反シテ此取引所ニ關シテハ毫モ政權ヲ以テ干涉スルモノナキガ故ニ、今此條例ヲ調査スルハ宜シク其土地人情ヲ斟酌シテ折衷ノ制ヲ設ケラレントヲ希望スルト雖モ、爰ニ其取引所ノ仲買人タルベキ者ノ資格及其他ノ要件ニ付テ二三ノ卑見ヲ開陳スルコト左ノ如シ。

一、仲買人、免許法ノ事。

第一、仲買人タルベキ者ハ滿二十歲以上タルベキコト。

第二、仲買人タルベキ者ハ取引所所在ノ地ニ於テ其實業ニ滿三ヶ年以上從事セシ者若クハ該營業ノ練達ヲ明證シ得ベキ者ニ限ルベキコト。

第三、仲買人ノ身元金ハ五千圓以上一萬圓位ニ定ムベキコト。
但此身元金ハ畢竟共立取引所ノ共同資産タルニ付、一同ノ申合ニヨリテハ公債證書ニテ

モ差支ナキノ寛恕法ハアリタキモノナリ。

第四、仲買人ハ其取引ニ付テ二人迄ノ手代ヲ使用スルヲ得ベキコト。

但此手代ノ取扱ニ付テハ仲買人其責ニ任ズベキコト。

第五、身代限ノ處分ヲ受ケ其負債ノ義務ヲ果サバル者、又ハ一ノ取引所ニ於テ違約者トナリタル者ハ仲買人ヲ免許セザルコト。

一、仲買人限數ノ事。

仲買人限數ノ米商會所ヲ百五十名以上二百名株式取引所ヲ百名以上百五十名位ト定メラレタキコト。

一、共立取引所課税法ノコト。

現行法ノ如ク其賣買高二賦課スルハ營業者重キニ堪ヘザルノ實情アレバ、更ニ之レヲ會社稅即チ其取引所ニ收納スベキ手數料ノ全額ヨリ其幾分ヲ徵收スルノ方法ヲ制定セラレタキコト。

但人爲ノ激動ニ因リ相場空位ニ奔ル如キ弊ナキ能ハザレバ、政府ハ宜シク之レヲ抑制スルノ方法ヲ設ケザルベカラズ。依テハ此課税法ヲシテ臨時上下シ得ベキ餘地ヲ備ヘ置キ、之レヲ以テ右等ノ弊ヲ防グノ用トナサレンコトヲ希望ス。

一、申合規則ノ事。

申合規則ハ仲買人ヲシテ制定セシムベシト雖モ、其規則中ニハ必ず頭取以下諸役員（假令バ取引所ニ起レル紛議ヲ裁理スベキ者、又ハ仲買者ノ行爲ヲ監察スベキ者）等撰任ノ手續ヲ掲載スベキ旨、豫テ政府ヨリ令達シ置カレタキコト。

一、共立取引所名稱ノ事。

共立取引所ハ穀物取引所株式取引所ト名稱セシムベキコト。

一、共立取引所允許場所ノ事。

共立取引所ハ成ルベク其數ヲ限制シテ濫設ノ弊ナカラシムコトヲ欲スルガ故ニ、此改正ノ際ニ於テ更ニ其土地人情及ビ商業ノ實況等ヲ審査シ、果シテ必要ナリト視認スル地、譬ヘバ東京大阪ノ如キ場所ノミニ限り許可セラレタキコト。

一、共立取引所管理ノ事。

共立取引所ハ其主務ノ省ニ於テ直轄セラレタシ、但シ一般取締ニ關スル警察上ノ如キハ之レヲ地方廳ニ委任スル方便ナラン。

米國紐育府株式會社現況問答

問 紐育府株式會社ハ官制ニ由ツテ創設セシモノナルヤ、將タ人民ノ發起ニ係ルモノナルヤ。
答 全ク人民ノ發起ニ係ルモノナリ。

問 右會社ハ株券ヲ發行シ資本ヲ募集シ所謂併資會社ノ成立ナルヤ、將タ別ニ之レヲ所持スル所
有者アリヤ。

答 否ナ會社ハ仲買人ノ共設セシモノナレバ他ニ資本主又ハ取持人等アルニアラズ。

問 然ラバ會社ハ仲買人ノ共有取引所ニ過ギザル乎。

答 然リ仲買人ハ即チ社員ニシテ會社ハ其社員ノ共有所ト謂フ可キナリ。

問 會社創設ニ付テハ政府ノ許可ヲ要スルヤ。

答 是等ノ會社ハ人民隨意ニ設立シ得ルヲ以テ殊ニ政府ノ允許ヲ要セズ。

問 果シテ政府ノ允許ヲ要セズトセバ、此會社ニシテ利益アリト見ルトキハ他ニ又タ同種ノ會社
ヲ設立スルハ當然ナリ。如斯ハ其盛大ヲ期ス可カラザルノミナラズ所謂共潰レノ弊アルヲ覺ユ
如何

答 然リ、然レドモ其實際ニ於テハ未ダ其弊ヲ見ザルナリ。何トナレバ在來ノ會社ハ甚ダ盛大ナ
ルガ故ニ、今新タニ同種ノ會社ヲ設立スルモ所詮其利ヲ競フコト難ケレバ、寧ロ在來會社ニ入
ルノ優レルニ若カザレバナリ。之ヲ要スルニ政府ニ於テ其數ヲ限制セザルモ實際ノ力能ク之ヲ
限制スト云フ可キナリ。

問 會社營業ニ付政府へ上納ス可キ租目アリヤ。

答 政府へ上納ス可キモノ一切之レアルコトナシ。

問 會社諸規則等創定ノ手續ハ如何。

答 仲買人即チ社員全體ノ會議ニ於テ創定スルモノナリ。

問 會社現今ノ仲買人ハ何名ナリヤ。

答 一千二百名ナリ。

問 其一千二百名ハ會社仲買人ノ限數ナリヤ。

答 然リ。

問 仲買人ヲ許可スルノ手續ハ如何。

答 仲買人許可ノ一事ハ頗ル注意ヲ加ヘタルモノニシテ、會社ハ兼テ之レガ爲メニ免許委員ト稱
スル者數名ヲ役員中ヨリ選任シ、社中ニ其一課ヲ備ヘタリ。而シテ仲買人タランコトヲ申出ル

者アルトキハ、右委員ニ於テ其人ノ身元品行及ビ身代等詳細探查ヲ遂ゲ、然ル後委員會ヲ開キ、會員ノ多數ヲ以テ其可否ヲ決ス。若シ否決スルトキハ速カニ之ヲ排斥セリ。但シ此場合ニ於テハ其申出人ハ更ラニ復タ同社中他ノ役員ヘ控訴スルヲ得ベシ。蓋シ此控訴ノ一路ヲ設ケタルハ免許委員ヲシテ偏頗ノ處置ナカラシメンガ爲メノ豫防ナラン。

問 許可ノ手續ハ已ニ了セリ。其他身分等ニ付制限ヲ立ツルコトナキヤ。

答 身分ニ付テハ別ニ制限ヲ立ツルコトナシト雖モ、抽者ガ現物目撃セシ處ニ依レバ、何ゾレモ、高帽ヲ載キ、衣服ヲ正フシ、溫容ノ風ヲ帶ビタル紳士ノ人々ニシテ、本邦仲買人ノ如キ前垂掛ニテ箆棒語ヲ使フ者ノ比ニアラザルナリ。

問 仲買人ハ保證金又ハ身元金等ヲ差出スノ例ナキヤ。

答 別ニ身元金又タハ保證金トシテ差出スノ例ナシト雖モ、仲買人タル者ハ入社金トシテ各自金一萬圓宛ヲ出金セリ。

問 其入社金ノ處分法ハ如何ン。

答 會社建築費其他一切ノ費用ヲ辨了シ殘額ハ會社共同ノ所有トシテ保存セリ。

問 會社建築ハ定メテ高大美麗ナルモノナラン、其費用ハ凡ソ幾干ヲ費シタルモノナラン。

答 立派ト云フモ愚カニテ、實ニ美ヲ盡セリ、善ヲ盡セリ。其建築費ハ百餘萬圓ヲ要シタリト聞

ケリ。

問 會社ニ於テハ仲買人若クハ賣買本人ヨリ手數料等ノ收受スベキモノアリヤ。

答 會社ニ於テハ收受ス可キノ入額一モ之レアルコトナシ。

問 然ラバ會社ハ何ヲ以テ年内ノ諸經費ヲ支辨シ得ルヤ。

答 各仲買人ヨリ一ケ年金五十圓宛ヲ出金シ、之レニ犯則者ヨリ會社ヘ取立タル罰金竝ニ株式賣買依頼金及ビ前項ニ所謂保存金ノ利子等ヲ加ヘ右等ノ費途ヲ支辨セリ。

問 仲買人ニ於テ賣買依頼本人ヨリ請取ル可キ口錢ノ割合ハ何程ナリヤ。

答 賣買實價百圓ニ付金十二錢五厘ナリ。

問 賣買本人ヨリ仲買人ヘ預カル證據金ノ割合ハ如何ン。

答 賣買實價ノ一割ナリ。

問 賣買約定ニ付會社ト仲買人トノ關係ハ如何ン。

答 賣買約定ハ總テ仲買人ト仲買人トノ相對ニ任ズルガ故ニ、會社ハ一切之レニ關係スルコトナシ。

問 仲買人ト仲買人トノ間ニ交互スル證據金ノ割合竝ニ其金員ノ取扱方ハ如何ン。

答 證據金ハ凡ソ一割ト定メアレドモ、互ヒニ信用上ノ取引ナレバ多分ハ之レヲ必要トセズ。然

レドモ賣買一方ヨリ其證據金出シ合ノコトヲ望ムトキハ、他ノ一方之レヲ拒ムヲ得ズ。斯ル場合ニ於テ其金員ノ取扱方ハ双方與ニ信用スル銀行若シクハ各自ノ信用スル銀行へ各自ニ之レヲ預クルモノナリ。

問 追證據金ノ例ハ如何ン。

答 本邦ノ慣例ト同ジク相場ノ高低ニ依リ損失ヲ蒙リタル一方ニ於テ追證據金ヲ爲スモノナリ。

問 會社ニ於テノ取引ハ現物ト定期トノ二様ナリヤ。

答 然リ。

問 定期賣買約定ノ期限ハ何ヶ月ヲ限レルモノナリヤ。

答 六十日ヲ限リトス。

問 現物ト定期トノ賣買高ハ平均何ヅレガ多數ナリヤ。

答 現物取引ノ方常ニ多數ナリ。

問 若シ仲買人其賣買ノ約ヲ果シ得ザルトキハ何等ノ方法ヲ以テ之ヲ處分スルヤ。

答 會社ハ是等ノ事ヲ所辨セシムル爲メ分産委員ト稱スル者數名ヲ選任シ置ケリ、故ニ其損失ヲ蒙ル可キ仲買人ノ一方ハ其事情ヲ右委員へ申告スルノ手續ニシテ、而シテ右委員ハ直ニ違約仲買人ノ權利ヲ沒收シ、更ラニ之ニ代ハル處ノ仲買人ヲ募リ、其權利即チ仲買株ノ代金ヲ得テ右

ノ損失ヲ償フモノトス。但シ此權利ノ價目今ハ二萬五六千圓ニ騰貴スト聞ケリ。

問 仲買人ト仲買人トノ間ニ生ジタル商業上ノ紛紜ニ關シテハ會社ハ何等ノ方法ヲ以テ之レヲ處分スルヤ。

答 是レ又會社ハ「アービトレーション、コムミッター」ト稱スル仲裁々判委員ヲ撰任シ、商業上ニ關スル一切ノ紛紜ヲ處理セシム。但シ此仲裁々判ハ始審裁判ト同等ノ效力ヲ有スルガ故ニ、若シ此仲裁々判ニ不服ナルトキハ直チニ控訴スルヲ得ルモノトス。併シナガラ拙者ガ聞ク處ニ依レバ右ノ仲裁々判ヨリ控訴シタルモノニシテ勝利ヲ得タル者ハ未ダ曾テ之レアラズト、仲裁々判ノ效力又大ナリト謂フベシ。

問 會社役員撰舉ノ方法并ニ其員數等ハ如何ン。

答 仲買人ノ内ヨリ頭取副頭取并ニ委員四十名ヲ撰舉ス、其撰舉ノ方法ハ仲買人全體ノ會議ニ於テ投票ノ多數ヲ以テ之レヲ決ス。前項ニ述ベタル免許委員ハ分産委員裁判委員等皆右委員四十人中ヨリ撰任セシモノニシテ、其他ノ人々モ亦各事務ニ從事スルコト此例ニ同ジ。

右役員ノ外會長副會長ナル者アリテ日々開會中ニ關スル萬般ノ事務ヲ處辨セリ。此役員モ勿論仲買人中ヨリ選舉シタルモノナリ。

問 頭取以下諸役員ハ自カラ賣買スルコトヲ得ルヤ。

答 無論賣買スルコトヲ得、現ニ拙者が見分シタル處ニ於テモ頭取以下諸役員等其事務所ヲ離レ通常仲買人ノ群中ニ入り共ニ振手呼聲シテ賣買セリ。

問 諸役員給料ノ振合ハ如何ン。

答 頭取ハ名譽委員トシテ別ニ給料ヲ受ケズ、其他ノ委員ハ少シク異同アレドモ平均年給四千弗前後ナリト聞ケリ。

問 仲買人ノ死亡シタルトキハ其遺族者へ協救スルノ方法アルヤニ承ハレリ、其邊ハ如何ン。

答 株式會社ニ於テハ仲買人各金十圓宛即チ總計一萬二千圓ヲ取立テ、其遺族者ニ一萬圓ヲ供給シ、殘二千圓ハ會社ニ積ミ置クノ例ナリ、穀物會社ニ於テハ仲買一人ニ付金三圓宛ノ割合ト聞ケリ。

問 其二千圓ヲ殊ニ會社ニ積置クハ抑モ何等ノ爲メナルヤ。

答 仲買人ヨリ出金スベキ救助金ハ一ケ年一人ニ付金百四十圓即チ死亡者十四人分ニ過ギザレバ若シ此數ヲ超越セシトキハ右二千圓ノ積立金ヲ出シ之レヲ救助センガ爲メナリト。

横濱株式取引所ノ景況

今般御出張ノ上親シク御尋問ノ件々ニ對シ概略御答申上候。

昨十五年十二月御布告相成タル仲買人納稅規則實施ノ日、即チ本年四月一日以來金銀貨ノ賣買ハ絶テ無之、隨テ右ニ從事スル仲買人等ハ忽チ糊口ニモ窮スル者尠カラズト雖モ、數年生計ヲ該業ニ托シタル者共ニ付、卒爾他ニ轉業ノ目的モ相立タズ、且ツ右ノ如ク取引絶無ニ歸シタルハ單ニ稅額過重ノ致ス所ニシテ、固ヨリ他ノ原因アルニアラズ、加フルニ當港ハ我日本貿易場ノ第一ニ位スレバ、假令即今貿易甚ダ不景氣ナリトハ云へ、銀貨ノ供需日ニ十數萬ニ下ラズ、而シテ其供給需ヲ圓滑流融スルハ此ノ取引所ヲ除テ他ニ在ルコトナシ。左スレバ實際家ノ不便ハ勿論、殊ニ政府ニ於テモ専ラ收稅ノ御目的ナリトコトナレバ、旁以テ上下ノ爲メ如何ント乎御改正可被仰出ハ期シテ俟ツベシト日一日ト相送居リシニ、五六月ノ候ニ至ルモ尙ホ何等ノ御沙汰無之、於此一同益益相窮シテ或ハ手代ノ給料ヲモ支給スル能ハズ、手代モ又其店主ノ坐食スルヲ見ルニ不忍、旁多クハ解雇スルニ至レリト、然レドモ其店主ハ猶耐忍シテ依然仲買人ノ名義ヲ保持シ、謹デ將

來ノ御處分ヲ仰待セリ。然ルニ去八月ニ至リ特ニ二ヶ月間ノ定期取引ヲ許サレタレドモ、現場賣買ノ稅則ニ至テハ更ニ減額ノ御沙汰無之、仲買人等大ニ失望セリト雖モ、元來定期ハ所謂投機者流ノ最モ望ム所ニシテ、銀貨ハ又昂低ノ急激ナル者ナレバ、或ハ多少ノ注文モ可有之乎。左スレバ假令營生ニハ足ラザルモ猶恒職ヲ得ベシト實際開業ノ日ヲ待居リシ様子ニテ、開業兩三日間ハ一同日々出場シタレドモ其初日一枚ノ賣買アリシノミニテ爾後復タ其聲ダニモ聞カズ。加之仲買ノ名義ヲ有スル兩替商ニハ彼ノ實際家ニ於テ些少ノ交換タリトモ委託セザル景況ニ至リタルヲ以テ（先般當橫濱警察署ニ於テ路上ニテ銀貨ヲ賣買セシ者十數名ヲ拘引セラレシニヨリ、若シ仲買人ノ名義ヲ有スル兩替商等ニ相托スルトキハ或ハ去八月二十九號布告仲買人ニシテ窃ニ定期現場ノ賣買又ハ類似取引ヲナス者若クハ其賣買ヲ誘助シタル者等云々ノ法律ニ觸レンヲ懼レテナリ）遂ニ一同意ヲ決シテ漸次退社シ、現今存スル者僅ニ十四人ニ過ザルニ至レリ（此者等ハ多少他ノ事情アリテ退社セント欲スルモ爲シ能ハザルカ或ハ假令退社スルモ兩替營業ノ外ナスベキコトナク、若シ之レヲナサバ猶ホ法律ニ觸レンヲ恐レ、好シ目下坐食スルモ名譽ヲ傷ツクルニ忍ビズト確乎決心スル者等ノミ）右ノ景況ニ付取引所ハ當ニ門前ノミナラズ場内モ又既ニ雀羅ヲ設クトモ云フベキ有様ナルハ現在御目撃ノ通ニ有之候。

四月一日以來貿易商ノ景況

四月一日以來貿易商ニ於テハ頓ニ銀貨賣買ノ便利ヲ失ヒ、兩換屋ニ就テ之ヲ交換セント欲セバ各戸其相場ヲ異ニシ、又若シ一時ニ五六萬圓以上ノ交換ヲナサント欲セバ即時ニ之ニ引受クル者ナク（兩替屋ニ於テ銀貨ヲ買取り置クモ之ヲ賣拂フノ場所ナク、又需用者ノ來ルハ何レノ日ニアルヤヲ期スベカラズ、而シテ相場ハ時々刻々昂低スル者故容易ニ交換セザルナリ）況ンヤ賣ラント欲スレバ必下落シ、買ハントスレバ必昂スルノ傾キアリテ、其不便不利言フベカラズ。然ルニ此際元ト仲買人ノ手代タリシ者又ハ新ニ兩換商ノ許可ヲ得タル者等輩出シテ其賣買ヲ幫助シ、不充分ナガラモ其便利ヲ呈スニ至リタルハ又僥倖ト謂フベシ。然レドモ元ト他ノ手代タリシ者、又ハ嘗テ一面識モナキ者ノ相集合シテ賣買スル者ナレバ、決シテ信用ヲ措クコト能ハズ、故ニ所謂止ヲ得ズト諦ラメテ其小便利ニ甘ンズルノ景況ナリシ。然ルニ去八月定期取引御許可ノ後、當警察署ニ於テ右等ノ者共ヲ拘引セラレシニ依リ、右小便利モ又頓ニ止ミ、加フルニ去八月第二十九號ヲ以テ仲買人ニシテ窃ニ限月現場ノ賣買又ハ其類似ノ取引ヲナシ、若クハ之ヲ誘助シタル者等ノ罰例御公布相成リシヲ以テ、如何ナルコトニテ連係センヤモ測リガタシト恐怖ノ餘リ、一同大ニ周章シ、現ニ賣込屋ノ如キハ交換所設立ノコトヲ協議シ、已ニ出願セシヤニ聞ケリ。然レドモ

右交換所ノ如キハ固ヨリ卒然許可相成ベキモノニ無之、而シテ貿易ハ一日モ止ムベカラザルモノナルヲ以テ、一時非常ニ困窮セシニ、幸ニ從前ノ仲買人大半退社シテ其賣買ニ從事セシガ故ニ、遂ニ復タ路頭賣買（拘引前ハ皆路頭ニ於テ賣買ス、是レ該業タル多人數集合シテ競争スルニアラザレバ其眞價ヲ得ザルノミナラズ、多額ノ賣買ヲナシ得ザルニ因ル）ノ法興リ、一日ヨリ盛シナルガ如シ（實際家中間ニハ若シ限月現場賣買類似ノ廉ヲ以テ第二十九號公布ニ照シ罰金等ニ處セラル、コトアレバ、多少救護スベキニ付、恐懼セズシテ今日ノ用ヲ辨ズベシト云フ者モアル由ナリ。故ニ警察署ニ於テ始メテ拘引セラレシ時ノ如ク恐懼耻戒スル者ナク、世人モ又之ヲ以テ甚ダ不埒トナサルノ形狀ナリ）是レ實際已ヲ得ザルモノナラン。然レドモ其賣買タル從前トハ大ニ其趣ヲ異ニシ、所謂牙儂風^{スマホリ}ニシテ、賣レバ必ズ渡シ、買ヘバ必ズ請取ルト聞ケリ。果シテ然ラバ是レ過日ノ拘引ニ懲リ、各自大ニ注意シタルト又從前仲買人タリシ者ハ能ク法律ヲ遵奉シ、自ラ兩換商タルノ資格ヲ守ルトニ因ルナラン。右ノ景況ナルニ付、貿易商ニ於テ眼前大ナル不便ヲ感ゼズト雖モ、政府收稅ノ御目的ニ於テハ之ヲ達セラル、ノ期ナク、又條例ヲ遵守スルノ仲買人ハ終始恒職ヲ得ルノ期ナシ。亦憾ムベク憫ムベキノ至リナラズヤ。

取引所存廢ニ付テノ意見

前條ノ如ク目下ノ景況ニ於テ取引所ノ賣買ニ賴ラズト雖モ、強テ其不便ヲ感ゼザル限リハ寧ロ之ヲ廢シテ可ナラン乎、不可ナリ、當ニ不可ナルノミナラズ、廢スル能ハザルナリ。請フ試ニ其理由ヲ略說センニ、元來橫濱取引所ノ金銀賣買タルヤ、明治十二年株式取引所條例ノ旨趣ニ準據シ、政府ノ許可ヲ得タルノ日ニ於テ始メテ之ヲ創設セシモノニアラズ。開港以來首トシテ三井又ハ肥前屋アリテ其取引ヲナシ、或ハ爲換會社ニ於テ之ヲ行ヒ、變ジテ金穀相場會所トナリ、再變シテ南仲通ニ別ニ一家ヲ設ケテ取引シタルコトアリ。是レ皆一己一商人ノ利益ヲ謀ルガ爲メニナセシ者ニアラズ。要スルニ我日本貨幣ト外國ノ貨幣ト又紙幣ト貨幣ト其價格上差異アル限リハ、必如斯ノ場所ヲ設ケテ此ノ交換ノ便利ヲ達スルニアラザレバ一日モ貿易スベカラザルニ由リ、五倒六起終ニ今日ノ取引所ヲ設立スルニ至リタル者ナリ。而シテ其取引ノ法ニ於テモ必ズシモ條例ノ御頒布ヲ待テ始メテ今日ヲ爲シタル者ニ非ズ、十數年來ノ經驗ニ據リ便ニ便ヲ加ヘ確ニ確ヲ重ネ、漸ク現況ニ達シタル者ナリ。然レドモ猶之レニ安ズルコトナク彌研究シテ彌便ヲ加ヘ、益切蹉シテ益確ヲ重ネントスルニ際シ、若シ一朝ニシテ之ヲ廢セバ便ハ忽チ不便ト變ジ、確ハ忽チ不確ト化シ、當ニ月夜ノ俄ニ變シテ暗夜トナリシノ比ニアラズ、商人等迷惑狼狽セザラント欲スト雖モ豈ニ得ベケンヤ。今其不便ノ概略ヲ擧ニ。

第一 各戸其相場ヲ異ニシテ標準ナキコト。

第二 各戸其相場ヲ異ニスルガ故ニ各荷主ヲシテ疑心ヲ起サシムルコト。
 第三 少シク多額ナルモノハ俄ニ賣買シ得ザルコト。
 第四 賣ラントスレバ必低ク、買ハントスレバ必昂ク、賣買ノ間ニ於テ大ナル差ヲ生ズベキコト。

第五 相手方ヲ探スノ勞アリ、隨テ時間ヲ費スコト。

第六 遵守スベキ規約ナキヲ以テ其取引常ニ危險ニシテ信用ヲ措クベカラザルコト。

第七 相場非常ノ高下アルトキハ忽チ違約シテ賣買確實ナラザルコト。

第八 取引所ノ如ク其賣買ヲ確記スルノ帳場ナキヲ以テ、其價多クハ仲買ノ爲メニ左右セラレ實際家ハ常ニ暗々裏ニ損失スルコト。

(價ヲ左右スルトハ俗ニ頭ヲ張ルト唱へ、假令バ二十錢ニ賣リタルモノハ十九錢ト云ヒ、十九錢ニテ買ヒタルモノハ二十錢ト云フ類ナリ。而シテ其虛實ヲ檢セントスルモ檢スベキ帳簿ナキヲ云フ)

概略右ノ如クナルヲ以テ、若シ之ヲ廢セバ漸ク進マントスル商業尙サニ逡巡シテ益々不活潑ニ陥ルベシ。然レドモ内地ノ商業ハ其損益共ニ我ニ在ルヲ以テ、尙ホ恕スベシ。當横濱港ノ如キハ所謂貿易ノ首地ニ位シ、其取引總テ外國人ニ係ルヲ以テ、活潑ニモ活潑ヲ加へ、奮テ其衝ニ當ル

ニアラザレバ其敗潰顯然ニシテ其損失ハ實ニ御國損ト謂フベシ。豈ニ廢セント欲スルモ得ベケンヤ。況ンヤ一旦之ヲ廢スルモ日ナラズシテ再起スルハ従前ノ經歷ニ於テ争フベカラザル者アルニ於テヲヤ。

(此頃既ニ支那人ニ於テ取引場ヲ公開セリ。然レドモ幸ニ旺盛ナラズト云フ) 若シ夫レ取引所ノ存廢ニ依リ横濱一般ノ盛衰ニ關スル景況等ハ略焉。

取引所役員ノ今日ニ處スル見込

即今世上ニ於テ當取引所ノ役員ハ漫然傍觀スル者ノ如ク云ヒ傲ス者アリト雖モ、取引所役員ハ決シテ然ル者ニハアラズ。既ニ昨冬右納稅規則御公布ノ始メ今日アラント苦慮シ、或ハ商務局ノ御方、又ハ當神奈川縣令公等へ其事情ヲ口陳セシト雖モ、其際ニ於テハ實際ヲ御覽不被爲在ヲ以テ毫モ御信用下ダサセラレザル者ノ如ク、爾來四月以後ニ至テモ時々其景況ヲ具陳シテ御參考ニ供セリ。然レドモ元來奉勅ノ御布告殊ニ國稅等ノ御規則ニ對シテハ請願嘆願等仕ルベキ者ニアラズト確信スルヲ以テ、曾テ書面等差出シタルコトナシ。從テ其效能ヲ見ザルニヨリ他人ノ視テ以テ袖手傍觀スル者トナスハ又是非ナキコトト謂フベシ。右ハ兎モ角今日仲買人モ幾ンド退社シ盡シ決シテ賣買ノアルベキ景況ナシ。然ル上ハ速ニ株式總會ヲ催シ、其考案ヲ聞キ、存廢等ヲ

モ協議スベキ筈ナルニ、未ダ之ヲナサルハ又大ニ怪ムベキニ似タリ。然レドモ是又別ニ深ク思惟スル所アルニ由レリ。其思惟スル所トハ何ゾヤ。元來神戸ハ彼ノ納稅規則御發布後出願シテ許可ヲ得タル者ナレバ、必ズ大ニ見込所アリテノコトナルベク（右稅制ヲ奉ジテ賣買スルコトハ到底能ハザルベシ。依テ事故ニ托シ故ラニ設立ヲ延引スルト今日ハ申居ルヤニ聞ケドモ）又大阪東京兩取引所トモ其頭取ニ於テ定期ナレバ必ズ多少賣買アルベシト公然申居レリ（當取引所ノ仲買ト他ノ仲買トハ其性質甚ダ異ニシテ云ハバ他ノ仲買ハ頗ル「カシコク」我仲買ハ頗ル「ヤボ」ナルヲ以テ、謹デ法律規則ヲ守リ、如何ナル場合ト雖モ曾テ喰合セト唱ヘ取引所ニ出サズシテ我甲乙兩依頼人ノ玉ヲ我ガ袖中ニテ取組マセ置ク様ナルコトナシ。他ニ於テモ又然ラン。然レドモ甚ダ保證スベカラズ。是レ或ハ兩取引所ト我取引所ト見込ノ差ヲ來タセシ所以ナラン乎）故ニ右三ヶ所ノ景況ヲ實視シテ、若シ三ヶ所トモ十分賣買取引アルニ、獨リ當取引所ニ限リ賣買ナキ上ハ或ハ横濱ノ貿易ニ限リ利益薄クシテ彼ノ稅金ヲ納メ得ザルニ由ル歟、或ハ貿易商人ニ於テ故ラニ彼ノ稅ヲ逋レテ納メザル者ナル乎等其事由ヲ檢覈シテ別ニ處スルノ法アルベシ。若シ右等ニ因ルニ非ザレバ則チ當役員ガ所謂楫ノ執リ方惡シキト云フノ外ナキモノナルニ付、一同斷然辭職シテ更ニ改選スベシ。若シ又不幸ニシテ右三ヶ所トモ賣買取引アラザリセバ（東京ハ已ニ開業スレドモ殆ド絶無ノ景況ナリ。然レドモ四ヶ所中東京ハ第一銀貨不用ニシテ又其慣習モナキ場所ユヘ標

準トスルニ足ラズ）是レ全ク稅額過當ノ致ス所ナリト謂フノ一因ニ歸スルモノニ付、更ニ其事情ヲ具陳シテ御賢考ヲ仰グベシ。然ル上ハ何ゾ貫徹セザルコトアラント深ク自ラ信認スルニ依リ、空シク蒼ヲ圍デ今日ヲ消スルノミ。

假ニ稅額御改正相成者ト看做シ其適當ナル額

元來收稅ノ法タル其額低輕ナレバ意外ニ多額ヲ得、高重ナレバ却テ減少スルハ古人ノ痛論スル所ナルノミナラズ、彼ノ銀貨賣買ニ係ル仲買稅ノ如キハ他ノ酒煙草等ノ有形物ニ直課スルモノトハ大ニ異ニシテ、全ク其賣買ノ聲即チ無形物ニ課スル者ナルニ由リ、若シ一朝過重ナルトキハ遂ニ其聲消滅シテ課スベキノ物ナク、即チ現今ノ景況ニ至ルハ必然ニ付、右納稅規則御發布以來貿易商人等ノ說ク所ヲ聞クニ、從前取引所ト仲買人トニ出ス手数料既ニ千圓ニ付合シテ六十錢ナレバ（紙幣ノ數ナリ且賣買ニスレバ一圓二十錢ナリ）其上尙ホ納稅スルハ即今商賣不景氣ノ際甚ダ難澁ナレドモ、今般ノ御趣意タル海陸軍御擴張トノコトナレバ、互ニ一層勉勵シ且困苦ヲ忍ビ上納シ得ラルベキ丈ケハ固ヨリ上納スルノ覺悟ヲナサルベカラズ。既ニ其覺悟ヲナス上ハ萬分ノ二半乃至三（即チ千圓ニ付廿五錢乃至三十錢賣買双方ニテ五十錢乃至六十錢）宛位ハ是非トモ上納セザルベカラズト、仲買人ノ云フ所モ亦然リ。然ラバ則チ之ヲ以テ適當ノ額ト爲スベキ乎。然

レドモ是レ皆現場賣買ニ付テ言フモノナレバ、定期ハ自ラ別論ナリ。何トナレバ彼ノ定期ハ六十日後ノ約定ヲナスモノニシテ、殊ニ實際家ヨリハ寧ロ投機者流ノ之ヲ營ムモノナルニ付（本文定期取引タル理論上ヨリ之ヲ云ヘバ實ニ商業上必要ノモノニシテ一日モ缺クベカラザルガ如ク、又實際ニ於テモ固ヨリ無用ト云フニアラズ。然レドモ之ヲ現場ノ必要ナルニ比スレバ實ニ霄壤モ營ナラザル義ニ付、若シ現場ヲ禁止セラル、カ、或ハ故ラニ現場ノ取引法ヲ不便ニシテ定期ニ引付ケラル、等ノコトアリテハ實際家ノ不便苦情云フベカラズ。是レ横濱ノ大阪東京等ノ取引所ニ異ナル所以ナリ）彼ノ生絲商人等ノ外國商館ニ賣拂ヒテ得タル銀貨ヲ即坐ニ紙幣ト交換シ、又取引商人ノ外國品ヲ買入ル、爲メ現ニ紙幣ヲ抱テ銀貨ト交換スルニ對シテ上納スル額ニ比スレバ多少過重ナルモ、固ヨリ堪ヘ得ラルベク、而シテ又之ヲ米商仲買ノ稅ニ比スレバ既ニ半額ナリ。之レ前條ニ陳述セシガ如ク神戸大阪等ノ取引所ニ於テハ多少賣買取引アルベシト見込シ所以ナラン。然レドモ現ニ我横濱及東京ノ景況ニ就テ之ヲ推測スレバ、神戸大阪ト雖モ又同様ナラン。左スレバ現行ノ稅額ニ於テハ投機者流（實際家能ク取引シテ而シテ後投機者初メテ之ニ乗ジ、右投機者アリテ大ニ實際家ノ便利ヲ助クル等ノ理由、又投機者ノ到底防壓シ得ベカラザル理由等ハ既ニ御熟知ノ義ニ付略焉）ト雖モ到底堪ヘ得ザル者ナル乎。然レバ何邊ヲ以テ適當トナスベキヤ、未ダ實際家ノ詳論スル所ヲ聞カザレドモ、千分ノ一宛位ハ至當ナラン乎、何トナレバ六十日間ニハ必ズ

多少ノ昂低アルモノニシテ、殊ニ税金モ又六十日間ノ約定ニ對シ上納スルモノナレバ、之ヲ其日數ニ積算スレバ固ヨリ低輕ニシテ夫ノ現場ノ即日取引スルモノニ對シ萬分ノ二半乃至三ヲ即納スルモノニ比スレバ其難易輕重自ラ明瞭ナリ。左スレバ現場ト定期ト稅額ニ於テ斯ク差異アルハ固ヨリ至當ト云フベシ。況ンヤ米竝公債證書等ノ如キハ其現場賣買ニ於テハ全ク無稅ナルニ於テヲヤ。

（附 陳）

昨十五年當取引所ノ總出來高

四億六千六百六十五萬圓

右ニ對シ賣買双方ヨリ紙幣萬分ノ二半宛ヲ納稅スルモノトシテ

此金二十三萬三千三百二十五圓

同萬分ノ三トシテ

此金二十七萬九千九百九十圓

收稅ヲシテ一層簡易ナラシムルノ考案

元來收税ハ徵シ易キニ課シ、其手數ト入費ヲ要セザルヲ以テ秘訣トナスト聞ケリ。左スレバ此取引所ニ於テナス所ノ賣買取引上ニ課税セラル、ハ實ニ至當ノ御目的ト謂フベシ。然ルニ惜哉其額過當ナリシヲ以テ遂ニ今日ノ結果ヲ來タセリ。然レバ則チ其目的ヲ達セラル、ニハ到底改正ヲ要セラル、ノ外他ナカラン。然レドモ一旦御公布相成リタル者ヲ其儘ノ御體裁ニテ單ニ輕減セラルルハ假令勿憚改トハ云へ、人民ニ於テモ甚ダ望ム所ニアラズ。加フルニ該徵收法タル仲買人並取引所ハ勿論政府ニ於テモ頗ル手數ヲ要セラル、方法ニシテ、例之ハ當取引所ノ如キハ昨十五年間ニ於テ其賣買取引セシ銀貨ノ高實ニ四億六千六百六十五萬圓ナリ。然ルニ該法ニ從ヒ一枚毎トノ賣買價格ニ應ジテ收税セラル、モノトスレバ、則チ四億六千六百餘枚ノ賣買ヲ一枚毎ニ檢算セラレザルヲ得ザルノ理ニシテ、其煩ヒ實ニ言フベカラズ。況ンヤ取引所並仲買人ニ於テハ賣買一枚毎ニ其價格及税額ヲ記載セザルベカラザルニ於テヤヤ（本文ノ次第ナルニ付、左ニ御改正案ヲ提出スト雖モ、若シ已ヲ得ズンバ責メテハ其價格ニ不拘銀貨千圓ニ付二十五錢乃至三十錢ト紙幣ヲ以テ徵收セラル、コトニ御定メ相成度、然ル上ハ假令幾億萬ノ賣買アリトモ只ダ其高ニ税額ヲ乘ズル迄ニ止マリテ官民トモ大ニ簡便ナリ）旁以テ斷然右仲買人納税規則ヲ廢シ、更ニ株式取引所條例第七章第四十一條手數料ノ項ヲ銀貨現場賣買ハ萬分ノ二五ヨリ少カラズ、萬分ノ七五ヨリ多カラズ云々、而シテ其額ハ農商務卿之ヲ定ムト云フ様ナル意味ニ御改正相成、一旦手數料トシテ取引

所ニ收入シタル内ヨリ徵收セラル、トキハ政府ニ於テモ實ニ御手數ヲ要セズ、隨テ仲買人及ビ取引所ニ於テモ又別段ノ手數ナク、實ニ官民兩便ト謂フベク、加フルニ商業ノ盛衰ニ應ジ、農商務卿ハ適宜其手數料ヲ増減シ、又收税額ヲ増減スルヲ得ラル、ヨリ、後來ニ至ルマデ大ニ御便利ニシテ收税ノ法恐ラクハ之レニ如クモノナカラン。且ツヤ十六年度ノ豫算表ヲ拜見セシニ、各株式取引所及米商會所等總仲買人ヨリ徵收セラルベキ税額ハ百萬圓以内ナリ。依テ假リニ之ヲ百萬圓ト定メ其額ヲ各所ニ分割スルニ、我橫濱ハ當兩三年間常ニ其首位ヲ占ムルニ依リ、先ヅ其豫算額ノ四分ノ一ヲ負擔シ、残り三分ヲシテ三取引所及ビ十一米商會所ニ分擔セシムレバ、彼ノ豫算額ヲ愼充スル固ヨリ難カラザルベシ。而シテ其四分ノ一トハ即チ年二十五萬圓ナリ。今之ヲ前文條例改正ノ旨趣ニ依リ、取引所ヨリ徵收セラル、ニハ先取引所ヲシテ賣買双方ヨリ萬分ノ五（千圓ニ付五十錢）宛ノ手數料ノ收受セシメラルベシ。其額ハ則四十六萬六千六百五十圓ナリ（昨十五年賣買高四億六千六百六十五萬圓ニ依リ之ヲ算出ス）其内ヨリ取引所稅トシテ其五分ノ三（取引所へ收入セシ惣額ニ就テ云へバ十分ノ六）ヲ政府ニ徵收セラル、ニ於テハ、其高二十七萬九千九百九十圓ニシテ（取引所ニ殘ルモノ十八萬六千六百八十圓ニシテ昨年ヨリ減ズルコト六萬六千六百十二圓）前文負擔高ヨリ増加スルコト二萬九千九百九十圓ナリ。左スレバ今後當取引所ニ於テ多少賣買ノ減ズルコトアルモ又大ナル差違ナカルベキ乎。於此乎政府ノ御目的モ始メテ達シ、人

民ノ便利モ又達シ、而シテ收税ノ秘訣ニモ適フト謂フベキ乎。
右之外尙ホ申上度儀モ有之候得共、到底書ハ盡言者ニ無之候ニ付、猶御親問被成下度且文中或ハ忌諱ニ觸レ候儀モ可有之ト深ク恐懼仕候ヘドモ、兼テ御懇諭ノ旨モ有之候ニ付、敢テ無所憚申上候義ニ御座候條御諒察之程偏ニ奉願候也。

明治十六年九月廿九日

橫濱株式取引所

坂田伯孝

農商務省商務局御出張員

水谷由章殿

共同取引所創立意見書

米商會所株式取引等ノ構成不完全ニシテ弊害百出シ、爲メニ商業樞要ノ機關ヲシテ其利用ヲ失ハシムルガ故ニ、到底其組織ヲ改正セザルベカラザルコトハ、眞成ニ商業改良ヲ計ル者ノ是認スル所ニシテ、此案件ニ就テハ嘗テ御下問ニ對シ數回鄙見ヲ上陳セシニ付、今更複言ヲ要セズト雖モ、是迄ノ上陳書ハ其一端ヲ記載スルニ止マリテ、前書ニ陳述セル件ハ後者ニ忽略シタルガ爲メ、所謂擇而不精ト云フベキモノナレバ、此ニ一書ヲ裁シ首尾併陳シ、宿論ノ大體ヲ總括シ、謹デ御參考ノ一助ニ供セントス。

共同取引所等ノ商業ニ必要ナルハ今又之ヲ喋々スルヲ要セズト雖モ、此ニ其一ニ言ハンニ、賣買ノ豫約ニヨリテ相場ノ平均ヲ得ル事(第一)相場自然ノ標準ヲ公表シテ市ニ價格ノ大差異ヲ現ハサル事(第二)等皆此取引所ノ力ニ由ラズンバアラズ。故ニ此設アラザレバ多額ノ賣買行ハレズシテ快活圓滑ノ商業遂グルコト能ハザルナリ。夫レ取引所ノ要斯ノ若ク商業ニ功アルニ拘ラズ、現今此類ノ會所ハ動モスレバ世論ノ擯斥ヲ受ケテ物議ヲ免レザル所以ノ者ハ、其物ノ非ナルニアラズシテ其組織ノ宜キヲ得ズ、隨テ是ニ從事スルノ人鄙陋ニシテ自ラ重ンゼズ、空相場ヲ

以テ其場所ノ業務ト誤認シ、之ガ爲メ其場所ヲシテ世人ノ輕蔑ヲ招キ、甚キハ一種ノ弊賣ト認メラレ、遂ニ禁止税ニ髣髴タルノ重税ヲ課シテ之ヲ壓倒スベシトノ世論ヲモ生ズルニ至リ、其極脫稅密商ノ行ヲ爲ス者輩出シテ警察ノ煩ヲ累ネ、益々世論ノ厭忌ヲ加ヘテ商業社會ニ其利用ヲ失ハシメントセリ。

景狀斯ノ如シ、故ニ米商會所株式所ヲシテ商業社會有要ノ物タラシメントセバ、其組織ヲ改正シテ弊害ノ因テ來ル所ノ源ヲ杜カザルベカラズ。之ヲ約言スレバ信用アル人ヲシテ悅テ此業ニ從事セシムルノ仕法ヲ立ツルニ在リ。其人ニシテ信用アリ眞ニ商業社會ニ重ゼラレ、其平生爲ス所ノ取引實地ノ商業タルコトヲ認メラル、者タランニハ、此等ノ人々ヨリ成ル所ノ取引所モ亦實地取引ノ場ト公認セラレ前述ノ諸弊自ラ跡ヲ絶ツニ至ルベシ。

今海外取引所ノ制ヲ考フルニ、或ハ純然タル民立ニシテ政令ノ毫モ之ニ干渉セザル米國ノ者ノ如キアリ。或ハ其設立ハ政府ノ特許ニ出テ、其人員ノ定數、社員ノ出入等一々政令ノ指示ヲ要スル佛國ノ者ノ如キアリ。此二者大ニ其成立ノ根理ヲ殊ニスルト雖モ、共ニ我國現存ノ米商會所株式取引所ニ異ナル所ハ彼ニ於テハ會商（我國仲買人ニ當ツベキ者）ノ集合ニシテ別ニ株主ト稱スル者ナク、我ニ於テハ株主ノ集合ニシテ仲買人はニ因テ營業ノ場所ヲ得ルニ在リ。故ニ彼ニ於テハ實地ノ賣買人即チ會所ノ主タリ、我ニ於テハ株主之ガ主ニシテ仲買人之ニ屬スル者ノ如ク、而

シテ株主タル者ハ多ク此會所取引所ノ實地賣買ニ關係ナキ者タリ。是ノ如ク東西組織ノ異ナルヨリシテ生ズル所ノ結果左ノ如キ者アリ。

- 一 仲買人ノ利害ト株主ノ利害ト同一ナラザル事。
- 二 所引所ノ役員ハ仲買人ノ撰ニ出デズシテ株主ノ撰ニ出ヅルガ故ニ、或ル場合ニ於テハ便利ナキニ非ズト雖モ、株主ト仲買人ノ間ニ利害ヲ異ニスルノ時ニ當リテハ勢ヒ株主ノ方ニ厚クスルノ傾向アリテ、株金ニ對シ相當ノ配當ヲ爲スガ爲メニ自ラ手數料ヲ厚クセザルベカラズ、是皆取引所ノ費用ヲ増加スル所以ニシテ賣買ノ圓滑ヲ妨グル事。
- 三 株主、主トナリテ仲買人客タルガ故ニ、役員ハ賣買ノ頻繁ナルヲ企圖シテ仲買人ノ員數ヲ増スヲ勉メ、之ヲ鑑別スルニ悚ナリ、是ヲ以テ取引ノ際不確實ノ弊ヲ生ズル事。
- 四 仲買人ノ位置重カラザルガ故ニ其人自重ノ精神ニ乏シク、來去常ナクシテ自然輕舉ニ流レ違約犯則等ノ行爲ヲ生ジ易キ事。

以上ノ弊害ヲ除去セントセバ海外取引所ノ制ニ倣ヒ、現今ノ株主ノ組織ヲ一變シテ實地賣買人共立ノ取引所トスルニ如クハナシ。其方法タル米國ノ如ク純然タル民立ノ仕組ヲ行フハ我國情ニ適セザル所アリ。左レバ逆佛國ノ構制モ亦全ク倣フ可キニ非ズ。故ニ此二者ヲ折衷シテ之ヲ現時ノ情勢ニ參照シ、實地適當ノ方法ヲ設立セザルベカラズ。試ニ其要概ト思惟スル所ノ私考ヲ陳ベン。

第一 發令ノ手順

二重ノ責任
組合法ヲ
立ル事ヲ

- 一 現時許可セラル、所ノ各地ノ會所取引所ハ其許可年限ノ盡ルニ至リテ再ビ延期ヲ許可セザル旨ヲ速ニ公示セラル、事。
- 現時存スル所ノ者ハ假令其利用少シトスルモ、其免許年内ニ之ヲ動カスハ政府ノ信用ニ關スルヲ以テ、年期盡ル迄ハ唯當局者ノ監督ニヨリテ其弊害ヲ輕減シ、各自年限ノ盡ルニ隨ヒ自然ニ其數ヲ減ジテ遂ニ絶無ニ至ルヲ待ツヲ允當トナス。
- 二 新組織ノ條例ヲ制定セラレ適當ノ時機ヲ見計ヒ之ヲ頒布セラル、事。
- 既ニ従前ノ組織ニ據リテ其營業ヲ繼續スルヲ禁ズルニ於テハ、更ニ改正セシ新法律ノ頒布ナカルベカラズ。然リ而シテ舊ヲ停メ新ヲ興スニ際シテハ多少ノ紛議ヲ免カルベカラザルニ付當局ノ官衙ハ最モ玆ニ注意セラレテ適宜ノ處置アランコトヲ企望ス。

第一 取引所ノ免許年限及其場所

- 一 免許年限ハ少クトモ之ヲ十五年ト定ムベシ。
- 歐米諸國ノ經驗ニヨルニ一般商業ノ進歩ニ從ヒテ共同取引所ノ效用愈其度ヲ加フベキハ必然

ニシテ、遂ニ永久保續ノ一大會所トナルベク、且ツ東京市區改正成ルノ日ニ及ビテハ其家屋モ亦府内美觀ノ一ニ備ハランコトヲ期セザルベカラズ。此ノ如ク規程宏大ナル取引所ノ基礎ヲ此ニ起サントセバ、創立ノ費用モ從テ之ニ應ズルニ足ル者ヲ醜集セザルベカラズ。故ニ許可期限モ成ルベク永年ニ涉リテ會商タル者ニ安全ノ念ヲ生ゼシムベク、忽ニ許シテ忽ニ廢スル如キノ虞ナカラシメンコトヲ要ス。然レドモ實際經驗上時宜ニ應ジテ小改正ヲ加フルコトナキヲ必セズ、依テ先ヅ初期二十五年間ノ許可ヲ與へ、此間ハ一旦許可セル構成ノ大體ニ變更ヲ加ヘズシテ安全ヲ取引所ニ與フベシ。

- 二、同種類ノ取引所ハ一市府ニ一ヶ所ヲ限ル事。
- 三、共同取引所ヲ特許スベキ地ハ東京大阪等商業頻繁ニシテ多數ノ會商相集合シテ取引ヲ必要トスル地ニ限リテ之ヲ許可スベキ事。

第三 取引所名稱

新設ノ取引所ハ實地賣買者共立ノ取引所ニシテ、苟クモ重立タル商品ノ豫約賣買ニ利アルモノハ漸次此所ニ於テ取引セシムルモノナレバ、從來ノ如ク米若クハ公債株式ノミヲ限界トスルモノニ非ズ。但目下ハ公債、株式、米、雜穀、綿、油ノ數品ニ限ルベシト雖モ、後來商業

進歩シ、取引所ノ必要更ニ擴張スルニ從ヒ時ニ政府ノ許可ヲ得テ取引スベキ物品ヲ増加スルノ目的ナルニ付、此取引所ノ名稱ヲ共同取引所ト名ヅクベシ。蓋シ佛國ブルスノ字ヲ意譯セシ義ニシテ、共同ノ文字ハ會商共立ノ場タルヲ示シ、以テ株主ト仲買トヨリ成ル所ノ現制ニ異ナルヲ明ニシ、又取引所ノ文字ハ廣ク商品ノ賣買ヲ包含スルノ意ヲ示サントスルニ在リ。故ニ此精神ヲ以テ物品ノ種類及會商ノ人數ハ時ニ應ジテ増加スベシトノ意ヲ條例中ニ示サレンコトヲ望ム。

第四 取所スベキ物品

前述ノ如ク當分ノ中取引ノ物品ヲ公債、株式、雜穀、綿、油ノ數品ニ限ルモノハ公債、株式、米ノ如キハ現ニ米商會所株式取引所等ニ於テ扱フ所ノ要品ニシテ、其他雜穀、綿、油ニ至リテモ現今該商人ノ間自然ニ豫約賣買取引ノ慣習行ハレ、取引所ニ於テ取引スベキ物品ノ範圍ニ組入ルベキノ狀態既ニ備ハルガ故ニ直チニ取引物品ノ中ニ組入レタルナリ。

第五 會員ノ名稱

會員即チ取引所ヲ共有シテ實地賣買ヲ爲ス者ヲ名ヅケテ會商ト稱スベシ、是現今ノ仲買ト其

此ノ所説アリ

性質ヲ異ニスルヲ示スニ在リ。

第六 會商ノ人數

東京ニ設立スル共同取引所ハ先ヅ現今ノ狀態ニ於テハ總數ヲ凡三百人トナシ、之ヲ左ノ割合ニ分ツベシ。但時宜ニ從ヒテ増加ノ許可ヲ與フルコトハ之ヲ條例ニ記入セラレンコトヲ望ム。

公債、株式	凡 百人
米、雜穀	凡 百三十人
綿	凡 三十五人
油	凡 三十五人

第七 取引所建築費

一、會商ハ家屋建築費及創立費用等ノ爲メニ一人金千圓ヲ支出スルモノトナシ、其内五百圓ハ創立ノ際即時ニ出金シ、他ノ五百圓ハ取引所ノ名義ヲ以テ銀行ヨリ年賦返済ノ借入ヲナシテ之ヲ支辨シ（其負擔ノ責任ハ會商各自ニ屬ス）實地返償ノ手續ハ毎年取引所ニ收入スル手數

共同取引所創立意見書

許可スルノ手續ト條件

一、會商ハ家屋建築費及創立諸費等ノ爲メ一人金千圓ヲ支出スル者トス

料ノ中ヨリ之ヲ支消スルノ方法ヲ定ムベシ。
 二、右ノ出金セシ金員ハ其會商ノ所有タルニ付、他日自己ノ都合ヲ以テ之ヲ他人ニ讓與セント欲セバ其讓受人取引所ノ規則ニ照シテ合格スル時ハ之ヲ讓渡スルヲ得ベシ。

第八。取引所管轄

此取引所ハ農商務省ノ直轄ニ屬シ、其取締上警察ニ關スル件ハ便宜ヲ以テ地方廳（東京ハ警視廳）ニ委任セラルベシ。

第九。會商ノ撰舉及資格

此一事ハ頗ル困難ノ疑問ナリトス、其故ハ理論上ニ於テ着實ノ人、實業ノ人、名譽アル人ヲ撰ムベシナド云フコトハ容易ナリト雖モ、實地ニ至リテハ此名義ニ適スル者ヲ定ムルコト頗ル難クシテ何人ガ之ヲ檢定スベキヤ、且一地ニ一所ヲ許可スルモノナルガ故ニ、之ガ會商タラントノ競ヒ起ランモ亦計ルベカラズ。而シテ之ヲ自由ニ許容スレバ濫弊ヲ生ジ、之ヲ嚴拒スレバ紛論ヲ生ズベシ、故ニ其制限法ニ適宜ノ案ヲ設ケテ世ノ之ヲ見ル者ヲシテ満足ノ感ヲ懷カシムルコト必要ナリ。試ニ其方法ヲ左ニ記スベシ

此項無要辯

但シ其支創
 立ノ際ハ會
 申合ヲ以テ
 定ムル子孫
 會商ノ規則
 所シテ取引
 合格セズシ
 格除名スル
 者ハ取引所
 救恤金ヨリ
 特別ノ救恤
 シヲ附與スベシ

四、五ノ兩
 項删除スベ

下、記、細、書
 ハ、朱、訂、正
 ノ、モ、ノ、一
 八、項、ハ、下
 改、文、ノ、如
 ム、ク

- 一、取引所發起人ハ其取引所總員ノ十分ノ二（端數ヲ生ズル場合ニ於テ之ヲ出入スルハ便宜ニヨルコトヲ得ベシ）以上ニ當ル人々協同ヲ爲シ連署ノ請願書ヲ上呈スベシ。
- 二、政府ハ其請願ノ旨趣ヲ條例ニ參照シ、又發起人ノ身元履歷ヲ查竊シ、其確實ナルヲ見認ムル時ハ之ヲ許可シ、又請願諸般ノ手續能ク條例ニ合スルモ發起人中ニ不合格ノ者アリト見認ムル時ハ其人ヲ此中ヨリ沙汰スベシ。
- 三、既ニ許可ヲ得レバ發起人ハ總員十分ノ三ノ人數ヲ各部ニ就テ投票選舉シ、會商連署シテ更ニ許可ヲ請フベシ。其許可ノ手續ハ前項ニ同ジ。
- 四、右ノ手續ニテ凡半數ノ會商ヲ得ルニ付、餘ル所ノ人員ハ發起人及選舉セラレタル人々ニシテ選舉ス、其許可ノ手續ハ前項ニ同ジ。
- 五、前二項ノ選舉ハ許可ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ之ヲ行フベシ。
- 六、既ニ會商トナリタル以上ハ發起人タルト選舉セラレタルト問ハズ、其權利ハ全ク區別ナキモノトス。
- 七、會商タルベキ者ハ滿二十五歳以上タルベシ。コニシテ創立資本及身元金ヲ支出シ得ベキ者ニ限ル。
- 八、會商タルベキ者ハ取引所所在ノ地ニ於テ實業ニ從事セシ者ニシテ、且該營業ノ練達ヲ證シ

共同取引所創立意見書

得ル者タルベシ。
九、會商タルベキ者ハ相當ノ資産ヲ有シ、業務ノ履歷上不都合ト見認ムベキ行跡ナキ者ニ限ルベシ。

第十 會商ノ身元金

一、會商ノ身元金ハ五千圓以上一萬圓ニ至ルベキモノトス（許可スベキ地方ノ情況ヲ參酌シテ之ヲ定ムルコトアルベキガ故ニ、條例ニハ五千圓以上云々トイヘル融通ヲ附ケ置ク可キカト思ハル）

二、會商ノ身元金ハ共立取引所ノ 共同資産タルヲ以テ 一同ノ申合ニヨリテハ公債證書又ハ政府ノ特許ヲ以テ設立スル銀行會社株券ニテモ差支ナシトノ寛恕法アリタシ。

第十一 會商身分ノ變更

- 一、會商自ラ其業ヲ廢シテ取引所ヲ脱セントスル時ハ其旨ヲ役員ニ届出テ其承諾ヲ得ベシ。
- 二、取引所ハ會商ノ廢業ヲ承諾スル時ニ其身元金ヲ本人ニ返附スベシ。
- 三、會商ハ合格ノ後嗣人ヲ得レバ其業ヲ此人ニ 賣與 讓與スルヲ得ベシ。

朱線ニテ
刪リタル
モノ

八、會商ノ初
期滿員ノ後
死亡其テ他
故ニ生ズル
引所ノ更ニ
キハ更ニ取
引所ノ名ヲ
引以テ廣ク
候補中人ヲ
リ其補シテ
公選シテ同
員ヲ其姓同
時ニ政府ヘ
ケ出ツベシ
九項刪ル

三、會商既
定ノ身元金
ヲ出シタル
者ハ一人ニ
シテ同時ニ
兩部ノ會商

タルヲ得ベ
シト雖モ若
シ三部以上
ノ會商ヲ欲
セバ各一部
毎ニ若干ノ
身元金ヲ増
加スベシ
賣與ハ添
加セル朱書

手代ノ字ハ
代業人ニ改
メテハ如何

- 四、取引所ハ右ノ讓替アレバ相當ノ手續ヲ爲シテ不都合ナキニ於テハ之ヲ承諾スベシ。
- 五、會商死亡スル時又ハ疾病事故ニヨリテ廢業スル時ハ、其身元金ハ本人又ハ其相續人等ニ返附スベシ。
- 六、會商其營業上取引所ノ規則ニ背キテ廢業セラル、時ハ、其廢業ト共ニ身元金ヲ返附スベシ。然レドモ其行爲ニシテ若シ取引所ニ損害ヲ與フルニ於テハ、此身元金ヨリ之ヲ補償セシメ、又ハ時宜ニヨリ其金額ヲ沒收スルコトアルベシ。
- 七、會商ノ出セル身元金ハ株金ト性質ヲ異ニスルガ故ニ、取引所ニ於テ承諾セル後嗣人ヲ除キテ他ニ賣買讓與スルコトヲ許サズ。
- 八、前諸項ノ場合ニヨリテ定員減ズル時ハ更ニ新ナル會商ヲ選舉シテ缺員ヲ補フヲ得ベシ（尤モ總員ハ定限ヲ超ユルヲ許サズ）其身元金差入及政府ノ認可ヲ請フノ手續ハ前條ニ記スル所ノ者ニ同ジ。

第十二 會商手代

會商ハ其取引ニ就キテ各二人迄ノ手代ヲ使用スルコトヲ得ベシ。但手代ノ業務ニ關スル行爲ハ之ヲ使用シタル會商都テ其責ニ任ズベシ。

共同取引所創立意見書

幹事ヲ部長
ト改メテハ
如何

第十三。 取引所全體ノ職制及會商各部ノ權限

一、取引所全體ノ事務ハ會長一名副會長二名及各部幹事書記主計等ノ役員ニ於テ相當ノ權限ヲ設ケテ之ヲ處辨スベシ。尤全體ノ議事ニ關スル事項ハ各部會商ノ總會議ニ於テ之ヲ決スベシ。

二、會商ハ株式、公債、米、雜穀、綿、油ノ各部ニ分チ其部内ノ事務ハ幹事及書記會計等ニテ之ヲ處辨シ、一部ニ限ルノ議事ハ各部會商ニテ議決スベシ。

第十四。 會商會議

取引所ノ議事ハ總會議ト各部會議トニ區別シ、總會議ハ會商總人員ニテ議決シ、各部會議ハ其部内ノ會商ニテ之ヲ議決スベシ。尤定式臨時ノ開會及議決順序等ハ規則中ニ記載スベシ。

第十五。 爭訟ノ調停

百般頻繁ノ取引ヲ行フニ當リテハ相互ノ誤解又ハ異見等ヨリシテ紛議爭訟ヲ生ズルコトハ勢

但代人ハ
其本人ト共
ニ議席ニ列
坐シ發言ス
ルノ權有
ス
但シテ
議席ニ列
坐スルノ
權有
ス
然レモ
投票
權有
ス

此條件再考
ヲ要ス

ノ免レザル所ナリ。若シ一々之ヲ尋常ノ法廷ニ訴ヘテ其是非ヲ定ムルトセバ商業澁滞ノ患ヲ被リ、取引所ヲ設ケテ快活圓滑ノ運用ヲ求ムルノ目的ニ副ハザルナリ。且商業ニ關スルノ事件ハ特殊ノ慣習アリ、又各種ノ商業中各種ノ慣習ヲ異ニスルガ故ニ、尋常詞訟ノ手續ニテ之ヲ決スレバ事情ニ齟齬スルコト或ハ之ナシトスベカラズ。特ニ取引所内ノ紛爭ノ如キハ此種ノ事多カルベシ。故ニ此場内ニ於テ營業上ヨリ生ジタル民事ノ詞訟ニ限り之ヲ會商中ニテ組織セル委員ニ附托シテ決セシムルノ特例ヲ此取引所ニ與ヘラレンコトヲ冀望ス。且既ニ此權ヲ許與セラレバ「證人ヲ召喚スルコト」及其判決ヲ執行スルコト等凡ソ始審裁判所ガ有スル所ノ權利ハ此委員ニ附與セラレ、事勿論ノ義ナルベシ。抑歐米諸國ノ政府ガ此類ノ會所ニ此特例ヲ與フルハ其實際上又陳ブルガ如キ必要アルニヨル。而シテ今取引所ノ構成精神ヲ彼ニ取ル時ハ此特權ヲモ此取引所ニ與ヘザルベカラザルナリ。

第十六。 役員

一、會長以下重ナル役員其名稱職務ハ政府ノ條例中ニ之ヲ定メラレタシ。
二、役員ハ取引所ノ全體又ハ各部ノ首領ニ位シ、取引所ノ特權ヲ實行スル者ナレバ其撰任ヲ鄭重ニシ、條例中ニ其方法等ヲ指定シテ其權ヲ重カラシメ以テ取引所ノ事務整肅ヲ計ラザルベ

共同取引所創立意見書

カラス。今鄙見ノ概略ヲ左ニ掲グ。

一、會長 一名

會長ハ取引所全體ノ事務ヲ總管シ、總會ノ議事ヲ總提シ、各部ノ幹事ヲ統督シ、又取引所ノ書記及其以下ノ掛員ヲ指命スルノ權ヲ有ス。

一、副會長 二名

會長ヲ輔翼シ會長事故アリテ缺席スルコトアレバ之ガ代理タルヲ得ベシ。

一、各部幹事 毎部各一名

各部幹事ハ各部内ノ事務ヲ管理シ部會ノ議事ヲ總提シ又各部ノ書記及其以下ノ掛員ヲ指命スルノ權ヲ有ス。

一、爭訟裁定委員 七名

會長副會長及各部幹事中ニテ四人ヲ選任シテ之ニ充ツベシ、而シテ此選任ハ會長ノ指名ニ任スベシ。

但シ會長其委員長タルベシ。

一、常委員 五名

常委員ハ副會長一名及各部ノ幹事ヲ以テ組織ス、而シテ其選任ハ會長ノ指名ニ任スベシ。

但シ副會長其委員長タルベシ。

右ノ外検査員等ヲ設クルハ會商其時々ノ議決ニ據リテ適宜ニ之ヲ置クヲ得ベシ。

第十七 役員ノ撰定

一、會長副會長ハ會商總員ノ投票ヲ以テ之ヲ撰舉ス。

二、幹事ハ各部ノ投票ヲ以テ之ヲ撰舉ス。

三、會長及副會長副會長幹事ハ會商中ヨリ撰舉ス、其既ニ撰舉セラレタル以上ハ取引所ニ於テ自己ノ取引ヲ爲スコトヲ得ズ。

四、評議員ハ爭訟裁定委員ノ撰定ヲ以テ會商又ハ會商外ノ人ヨリ之ヲ舉グベシ。

外國ノ制ヲ按ズルニ、爭訟裁定委員ハ悉皆會商ノ中ヨリ撰舉シ、別ニ爭訟事務ニ干與スルノ評議員アルナク、而シテ法律助言者ハ取引所ニテ依頼スル眞ノ顧問員ニ過ギスト雖モ、我國ノ現狀ニ於テハ商業者ニシテ始審裁判所ニ相當スルノ事務ヲ掌ルコトハ頗ル不便ノ事アルベク、左リ迎助言者ヲ雇フモ眞ノ顧問員ニ過ギザルニ於テハ、現ニ會商爭訟ノ場ニ臨ミテ双方ノ陳述ヲ審聽スルノ便ヲ缺クベシ。故ニ別ニ評議員ヲ指定シ置キテ、平素ハ役員ノ助言者トナリ、爭訟アル時ニ臨ミテハ爭訟裁定委員ノ中ニ加ハリテ之ヲ處辨セシムルコト尤モ現狀ニ

適スベシト思ハル。或ハ其會商ノ撰舉ニ出デズシテ、會商ノ權利ヲ左右スベキ職務ヲ爲スハ如何ニトノ説アルベシト雖モ、爭訟事務其他法律ニ關スル事ハ特別ノ學習ヲ要スルガ故ニ、之ヲ撰ムモ亦尋常ニ異ナル者アリ。且會商ハ會長及幹事ヲ撰舉シ、此等ノ役員合同シテ評議員ヲ撰舉スルガ故ニ、此評議員ハ實ニ會商ガ間接ニ撰舉シタル者ニシテ、是ニ信任ノ職務ヲ托スルコト理ニ於テ毫モ妨ナク、事實ニ於テハ甚ダ便ナルガ故ニ此ノ如ク定メンコトヲ冀望ス。

以上ノ役員ハ撰舉ノ後之ヲ農商務大臣ニ届出テ其認可ヲ得テ上任スベシ。

第十八。課稅方法。

課稅ノ割合過重ナル時ハ賣買相當ノ利益ヲ以テ之ヲ支出スルコト能ハザルガ故ニ不當ノ浮利ヲ求ムル乎、又ハ之ヲ脱レントスルノ情ヲ生ズベクシテ、其浮利ヲ求ムルガ爲メニ投機ニ陥リ、脱稅ヲ欲シテ密商ヲ爲ス、是今日ニ於テ商業ノ利器タル取引所ガ動モスレバ不利ノ弊竇トナル所以ノ一理由ナリ。故ニ本案ノ共立取引所ニ課セラル、ハ會社稅即チ其取引所ニ收納スベキ手数料ノ全額ヨリ其幾分ヲ徵收スルノ稅法トセラレタシ。

第十九。申合規則。

取引所ノ申合規則ハ常委員之ヲ起草シ會商ノ總會ヲ以テ之ヲ議定シタル後農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ。其定ムベキ要目ノ略左ノ如シ。

- 一、會商營業細則ノ事、
- 一、役員事務細則ノ事、
- 一、手数料ノ事、
- 一、役員撰舉ノ事、
- 一、役員報酬ノ事、
- 一、書記以下給料ノ事、
- 一、取引所用印鑑ノ事、
- 一、會商共恤ノ事、
- 一、取引所積金ノ事、
- 一、決算期ノ事、
- 一、定式臨時會議ノ事、

一、代業人ノ事

- 一、期限報告ノ事、
- 一、過料ノ事、
- 一、役員任期ノ事、
- 一、委員會ノ事、

附箋
如下記
トシ

第二十 取引所ノ責任

- 一、或ル會商ノ犯則上ヨリ生ズル損害ヲ取引所役員ノ不注意ニ依リ他人ニ蒙ラシメタル時ハ、第一ニ該會商ノ身元金ヲ没入シ、尙ホ不足ヲ生ズル時ハ其會商一家ノ資産ヨリ償還セシムベシ。

但此場合ニ於テ其會商ヲ取引所ヨリ除名スルコト勿論ナリ。

- 二、前條ノ場合ニ於テ其損害過大ニシテ犯則ノ會商ノ資産全部ヲ以テ償還スルモ尙ホ不足ヲ生ズル時ハ、取引所ニ於テ其責ニ任ズベシ。然レドモ本取引所ノ責任ハ各會商出金ノ家屋建築費及ビ創立諸費ノ全額三十萬圓ノ外更ニ金三十萬圓ヲ増補スルニ止リ其全價格六十萬圓以上ニ及バザル者トス。
- 三、取引所ノ責任ヲ盡スガ爲メニ新ニ徵集スル金額ハ各會商ノ身元金中ヨリ平均ニ取出シ、其

身元金ニ生ジタル不足ハ一ケ月中ニ各會商ヨリ補入セシムベシ

法制關係資料 下卷 終

秘書類纂 法制關係資料 下卷

人名索引

(イ)

伊藤 博文 二、九、三七
伊東巳代治 一九三、四〇〇、四七二、四八三、四九三

(ロ)

ロエスレル 四九三

(ハ)

早川 勇 四七五

(ニ)

仁明天皇 三三、三七

(ヘ)

索引

ヘーレン 一八
平城天皇 三三、三六

(リ)

リーバー 二九三

(ル)

ルードルフ 一六、一九、二五、三七、四

(オ) (ヲ)

小島爲次郎 四九五
岡本 善七 五二四

(ワ)

渡邊 廉吉 二
渡邊治右衛門 五二五

(カ)

金子堅太郎 三〇八、三五
桓武天皇 三三、三六
カラフマン 三三三
河野 敏録 五〇七、五六

(ヨ)

吉田清成 五八

(タ)

高崎五六 四、二六、三二

醍醐天皇 三七

高野藤吉 五四

(ナ)

ナポレオン 二〇二

永井松右衛門 四七五

(ウ)

宇多天皇 三七

(中)

井上毅 二七、三〇、三八

(ヤ)

山縣有朋 四、四、九、五七、五五

山中隣之助 五四

山縣伊兵衛 五四

源頼朝 三四六

宮部久 四七五

水田由章 五五五

(シ)

柴原和 九二

淳和天皇 三二、三四

稱徳天皇 三二

聖武天皇 三三

(ヒ)

ビスマルク 二六

平松甚四郎 五四

(モ)

モセス 一九、二六、二〇、二六

文武天皇 三五

諸葛小彌 五四

(ス)

スタイン 一、一五

須藤吉右衛門 五四

索引

引

(マ)

松岡康毅 三

(ケ)

元明天皇 三〇、三五

(フ)

フレデリック大王 一五

フライヘル・フォン・スタイン 二〇〇、二〇一

福澤諭吉 三九五

(ア)

天矢正剛 五四

(サ)

嵯峨天皇 二八、三二、三七、三六

(キ)

紀慶濱 三六

(ミ)

三好退藏

昭和十年七月十五日印刷
昭和十年七月二十日發行

〔非賣品〕



秘書類纂
法製關係資料
下卷
不許複製

校訂者

平塚

篤

發行者

平塚

篤

東京市杉並區上荻窪九六三

印刷者

守岡

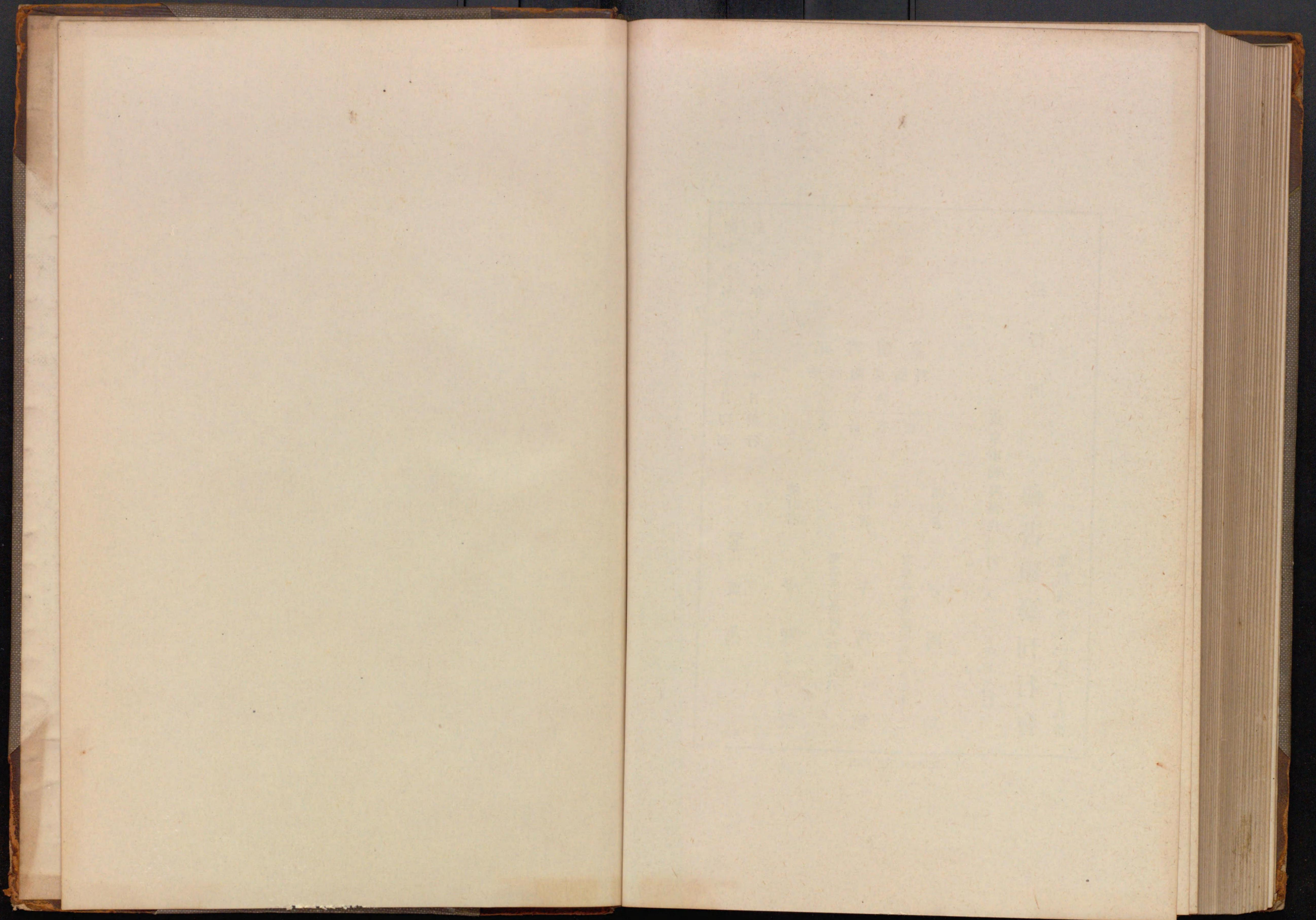
功

東京市麴町區內幸町一ノ三(大阪ビル内)

秘書類纂刊行會

電話銀座五一八一—九番

發行所



676
12

